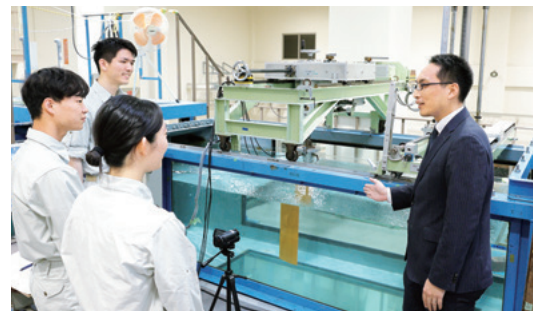




ガイドブック 2025



国立大学法人

東京海洋大学

Tokyo University of Marine Science and Technology

国立大学法人
東京海洋大学長

井関 俊夫

東京海洋大学は、
海洋に関する最先端の「科学」と「技術」
(Marine Science and Technology)を
身につけ、グローバルな視点で
海洋の未来を切り開く逞しい人材を
社会に送り出します。

本学では、各学部・学科および大学院の各専攻において充実した教育カリキュラムを用意しているだけでなく、さまざまな取り組みを通して、皆さんの自律的な学びとチャレンジを応援しています。

グローバル教育

全学生を対象とした「交換留学」の他、学部学生を対象とした海外派遣プログラム「海外探検隊」、大学院生を対象とした「OQEANOUS Plus」など、種々の海外派遣プログラムを提供しています。特に、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の中間評価で最高の「S評価」を受けた「OQEANOUS Plus」では中国、韓国、ASEANのトップレベルの大学と協定を結び、本学と相手大学の両方で学位を取得できるダブルディグリープログラムも実施しています。

データサイエンス教育

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けたカリキュラムの全学共通開講を設定し、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要に関する教育を行っています。

大学院生を対象とした「海洋産業 AI プロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」では、国内外におけるインターンシップ等によって得られる海洋、海事、水産の専門知識とフィールドに関する豊富な経験を元に、的確に人工知能を用い、AIの社会実装を主導する人材を育成しています。

アントレプレナーシップ教育

アントレプレナーシップ養成プログラムは令和6年度から正規科目化されました。学部授業科目として「海の起業論Ⅰ」、「海の起業論Ⅱ」、大学院博士前期課程科目として「海洋アントレプレナー演習」、博士後期課程科目として「海洋アントレプレナー特論」を順次開講することにより、海洋に関する社会的課題にアプローチし、起業や企業内での新規プロジェクトの立ち上げ等を担う人材の養成を目指しています。

東京海洋大学の理念と目標等

大学の理念

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

大学像

海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学。

大学の人材養成と目標

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、海を守り、海を利用する」ための教育研究の中心拠点となっており、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

1. 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
2. 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
3. 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
4. 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
5. 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

海を知り、海を守り、 海を利用する

— Voices from the Ocean —

日本唯一の海洋系大学である東京海洋大学は、

都心にある2つのキャンパス（品川・越中島）に3つの学部を有しています。

豊かな自然に囲まれた5つの**フィールド施設**や、広大な海を巡る**練習船**を活用し、**実学重視**の教育・研究を行っています。

本学では、**充実した実験・実習環境**や、**少人数によるきめ細やかな指導**などを通して、海洋分野のスペシャリストとしての**高度な専門性**を身につけることができます。

先輩の声

東京海洋大学に
入学を決めた理由▶



品川
キャンパス

海洋生命科学部

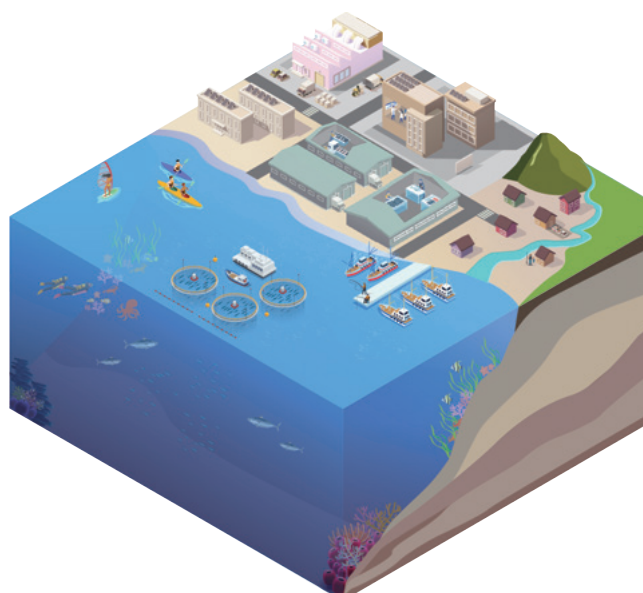
P.5 ~

海洋生物資源学科

食品生産科学科

海洋政策文化学科

海洋生命科学部
(大学 HP)



越中島
キャンパス

海洋工学部

P.19 ~

海事システム工学科

海洋電子機械工学科

流通情報工学科



海洋工学部
(大学 HP)

品川
キャンパス

海洋資源環境学部

P.33 ~

海洋環境科学科

海洋資源エネルギー学科



海洋資源環境学部
(大学 HP)



INDEX

学長挨拶	学長 井関俊夫
東京海洋大学学部・学科早見表	2
沿革	4
海洋生命科学部 P.5	海洋生物資源学科…………… 7 食品生産科学科…………… 11 海洋政策文化学科…………… 15
海洋工学部 P.19	海事システム工学科…………… 21 海洋電子機械工学科…………… 25 流通情報工学科…………… 29
海洋資源環境学部 P.33	海洋環境科学科…………… 35 海洋資源エネルギー学科…………… 39
卒業後の進路について	43
専攻科・実習科	43
大学院	44
学生交流協定校への交換留学(短期派遣)	45
国際交流体験	46
海外との共同研究／学生交流	47
練習船／水圏科学フィールド教育研究センター	48
施設紹介	49
キャンパスライフ	50
学生生活サポート	53
入試・入学・就職関連データ	
入試概要／2025 年度募集人員	55
令和 6 年度 入学選抜データ	56
令和 6 年度 入試男女別入学状況	58
令和 6 年度 都道府県別志願者・入学データ	59
令和 5 年度 卒業生の進路状況・就職状況	59
キャンパスガイド	60

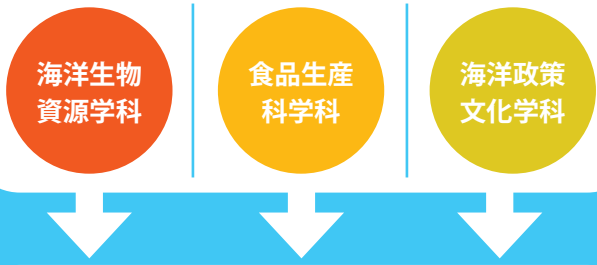
東京海洋大学

品川キャンパス

海洋生命科学部

アドミッションポリシー

海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、ディプロマポリシーにおいて掲げる専門的学識、自ら考え判断する能力、豊かな国際性と教養、および現場で適用する実践力を卒業時までまでに修得することができる素養、能力を有する人を求める。



学べること

- 水生生物の生理
- 水生生物の生態
- 水生生物の保全
- 水生生物の飼育技術
- 生物多様性
- バイオテクノロジー
- ゲノム科学
- 生物資源動態
- 持続可能な漁業
- 食品の物性
- 食品流通
- 冷凍工学
- 微生物の利用
- 食の安全・安心
- 栄養と健康
- 未利用資源
- 食品加工
- 美味しさ
- 海洋政策
- 海洋法
- 海洋産業
- 水産経済
- 沿岸域・海洋管理
- 海洋保全
- 海洋文化
- マリンスポーツ
- 環境教育
- 生命・環境倫理

身につく知識・資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 三級海技士(航海)^{※1}
- 技術士補
- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 三級海技士(航海)^{※1}
- 技術士補
- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 三級海技士(航海)^{※1}
- 技術士補

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

大学院進学	57.5%	大学院進学	63.5%	大学院進学	24.4%
海洋科学専攻科進学	4.1%	海洋科学専攻科進学	1.6%	海洋科学専攻科進学	4.9%
就職	35.6%	就職	33.3%	就職	68.3%
その他	2.8%	その他	1.6%	その他	2.4%

令和 4 年度卒業生のデータより

学部・学科 早見表

越中島キャンパス

海洋工学部

アドミッションポリシー

海洋工学部では、海上輸送に関連する海、船舶、省エネルギー技術、物流、情報システム等のグローバルな諸課題に関心を持ち、ディプロマポリシーで掲げている専門的知識を含む幅広い教養と豊かな人間性、課題の発見・理解力と解決力、国際的に活躍できる能力を卒業時までに修得することができる素養を有する人を求める。

海事
システム
工学科

海洋電子
機械工学科

流通情報
工学科

学べること

- 船舶運航
- 運航管理
- 船舶工学
- 情報・通信
- 海上交通システム
- システム工学
- 衛星測位工学
- 海洋気象学
- 海事法規
- 国際法
- 海事英語
- 海上危機管理
- エンジン
- ロボット
- 動力システム
- 制御システム
- 電気・電子機器
- 新材料
- 省エネ技術
- 環境対策技術
- 設計・製造技術
- ロジスティクス
- 物流管理
- 国際物流
- 交通計画
- 交通経済
- 流通経営
- 数理情報
- プログラミング
- データサイエンス

身につく知識・資格

- 高等学校教諭一種免許状（商船・工業）
- 第一級海上特殊無線技士
- 三級海技士（航海）^{※1}
- 船舶衛生管理者^{※3}
- 電子海図情報表示装置（ECDIS）講習の資格^{※4}
- 高等学校教諭一種免許状（船舶・工業）
- 三級海技士（機関）^{※2}
- 船舶衛生管理者^{※3}
- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 授業で関係する内容を学べる資格：情報処理技術者、通関士、中小企業診断士、ビジネス・キャリア検定（ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション）

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、海事システム工学科を卒業後、乗船実習科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※2 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、機関システム工学コースを卒業後、乗船実習科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
 ※3 海事システム工学科、海洋電子機械工学科機関システム工学コースのいずれかを卒業し、乗船実習科（p.43）を修了後、講習受講により取得できます。
 ※4 三級海技士に合格することで、電子海図情報表示装置（ECDIS）搭載船舶に乗船できる資格を取得できます。

卒業後の進路

大学院進学	10.3%	大学院進学	44.6%	大学院進学	25.0%
乗船実習科進学	42.6%	乗船実習科進学	24.6%	乗船実習科進学	—
就職	38.3%	就職	29.3%	就職	72.7%
その他	8.8%	その他	1.5%	その他	2.3%

令和4年度卒業者のデータより

品川キャンパス

海洋資源環境学部

アドミッションポリシー

海洋資源環境学部では、海洋環境の保全、海洋の資源とエネルギーの持続的開発・利用に関心を持ち、ディプロマポリシーにおいて掲げる専門的学識、自ら考え判断する能力、豊かな国際性と幅広い教養、および現場で通用する実践力を卒業時までに修得することができる素養・能力を有する人を求める。

海洋環境
科学科

海洋資源
エネルギー
学科

学べること

- 気候変動
- 地球温暖化
- 環境保全
- 海流
- 波
- 混合・拡散
- 物質循環
- 海洋生物の分類と生理・生態・生化学
- 生物多様性
- 海洋生態系
- 海洋生物からの有用物質
- 海底資源開発・探査技術
- 再生可能エネルギー
- 自動制御技術
- 国際海洋管理
- 地震活動・津波・海底地殻変動
- 超電導・電気電子デバイス
- 海洋・沿岸構造物
- 水中音響センシング・測位技術
- 環境保全技術
- 船舶・海上労働安全

身につく知識・資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補
- 学芸員
- 三級海技士（航海）^{※1}
- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補
- 学芸員
- 三級海技士（航海）^{※1}

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

大学院進学	80.0%	大学院進学	42.1%
海洋科学専攻科進学	2.8%	海洋科学専攻科進学	15.8%
就職	12.9%	就職	39.5%
その他	4.3%	その他	2.6%

令和4年度卒業者のデータより

沿革

東京海洋大学は 2003 年 10 月に東京商船大学と東京水産大学が統合した大学です。両大学の前身はそれぞれ 1875 年と 1888 年に設立されており、本学は 140 年を超える歴史と伝統を誇っています。東京海洋大学は両大学の伝統と個性・特徴を継承すると共に、時代の要請に応じて、新たな教育研究分野への展開を図り、国内唯一の海洋系大学として、世界最高水準の卓越した教育研究拠点の形成を目指しています。



東京水産大学



東京商船大学



2017

海洋資源環境学部を設置
海洋科学部を海洋生命科学部に改称

東京海洋大学ゆかりの著名人

鈴木善幸

第 70 代内閣総理大臣
水産講習所卒業

高碇達之助

日中貿易 (LT 貿易) の開始
通商産業大臣
水産講習所卒業

岩崎彌太郎

三菱財閥創業者
三菱商船学校を設立

米窪満亮

初代労働大臣
商船学校卒業



海洋生命科学部

TOPICS

グローバル人材育成支援プログラム

海洋生命科学部のグローバル教育※

● TOEIC 教育

本学部では、TOEIC600 点の獲得が 3 年次から 4 年次への進級要件とされています。TOEIC スコア向上のための必修科目及び集中講座や、英語学習アドバイザーによるカウンセリングなどの学習支援を通して、学生の基礎英語力の向上を丁寧にサポートしています。

● 海外派遣プログラム「海外探検隊」

アジアの大学や企業を訪問する約 1 ヶ月間の海外派遣キャリア演習や、海外大学の研究室インターンなどの海外渡航プログラムを展開しています。

● 詳細

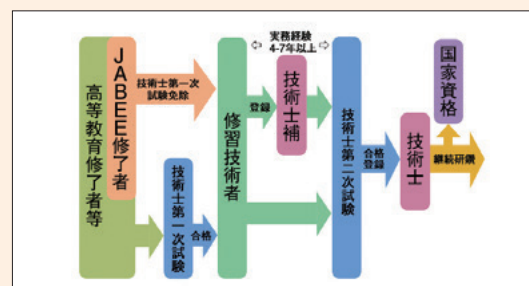
東京海洋大学グローバル
教育研究推進機構 HP



JABEE 認定教育プログラム

世界水準の技術者教育プログラム

本学部の各学科は、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、本学部を卒業すると、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除される「修習技術者」の資格を得ることができます。JABEE は、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定に加盟しており、認定者には国際的に活躍する機会が広がっています。



※グローバル人材育成支援プログラムは、海洋生命科学部と海洋資源環境学部の共通のプログラムです。

先輩が東京海洋大学に
入学を決めた理由



海洋生命科学部

品川キャンパス

入学定員総数

170名

海洋生物資源学科

71名

食品生産科学科

58名

海洋政策文化学科

41名



海洋生物資源の利用・管理を通し 人類社会の持続可能な発展に貢献します

海洋生命科学部長 後藤 直宏

海洋生命科学部は、海洋生物資源学科、食品生産科学科、海洋政策文化学科の3つの学科で構成された学部です。生物資源、食品生産、政策文化という関連がなさそうな教育研究分野に分かれている3学科ですが、海洋・水圏の生命科学や水産およびそれらに関わる人の営みなどで強いつながりを有し、しかも各分野がお互いを刺激し合うことで非常に特色ある学部になっています。

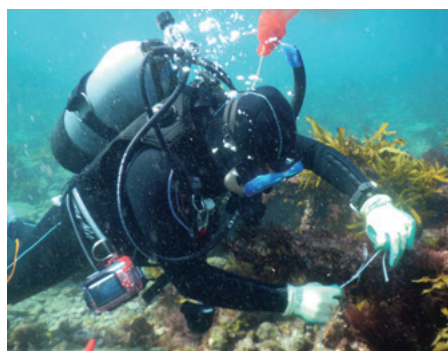
海洋生物資源学科では、主に海洋生物の安全・持続的利用に関する教育研究を行っており、具体的には、生態系・生物多様性、持続可能な漁業、水産資源管理、増養殖技術の開発、海洋生物の機能などの教育研究を実施しています。水の中に暮らす生物を総合的に理解して、これらを守りながら持続的に利用する方法を日々教育研究しています。

食品生産科学科では、食の安全・安心・おいしさに関する教育研究を行っており、具体的には、シーフードサイエンス、冷凍・加熱技術の利用、食品衛生と品質保持、食品加工利用技術の開発と利用、食品分析のための各種方法の開発などの教育研究を実施しています。これらの教育研究では、持続可能な食資

源確保を念頭に食資源を余すことなく利用する技術開発や研究を行っています。

海洋政策文化学科では、主に持続可能な海洋産業と海洋文化振興に関し教育研究を行っており、具体的には、マリンスポーツ・海洋文化振興、沿岸域利用・管理、水産経済・マーケティング、漁村振興、環境教育などの教育研究を実施しています。海洋の保全と人間生活の豊かさを両立させることを目標に、多種の学問分野からアプローチした教育研究を行っています。

現在、世界は気候変動、エネルギー問題、食糧不足、地域紛争など数えきれないぐらいの問題に直面しています。海洋生命科学部ではこれらの問題に対し、「海洋生物資源の利用・管理を通し人類社会の持続可能な発展」という切り口で向かい合い、よりよい社会の実現に取り組んでいます。皆さん、海洋生命科学部と一緒に学び、このような世界の諸問題に正面からぶつかり、明るい未来と一緒に作る研究をしてみませんか。東京海洋大学海洋生命科学部はそのような熱い気持ちを持った学生をお待ちしています。



海洋生物資源学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



海だけでなく広く水の中に暮らす生き物（水生生物）を対象として「生命科学」と「資源生物学」を教育・研究しています。具体的には、これらの生き物について遺伝子のレベルから、細胞、個体、群れ、生態系のレベルまでそれぞれに学ぶことができる講義や、それぞれの生き物と環境との関係について学ぶことができる講義などがあります。また、学んだ内容をさらに深めるための実習や実験も充実しています。

このような講義や実習・実験を通して、水生生物を守りながら、これらを利用していくための方法と考え方を習得することができます。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏に棲息する生物を対象として、生態系のなかでの多様性を保全しつつ、持続的に利用するための「生命科学」と「資源生物学」に関する深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
総合科目		共通導入科目					
		文化学系科目					
		哲学・科学論系科目					
		社会科学系科目					
		健康・スポーツ系科目					
		外国語系科目					
専門導入科目		●物理学Ⅰ・Ⅱ＊ ●化学Ⅰ・Ⅱ＊ ●生物学Ⅰ・Ⅱ＊ ●地学Ⅰ・Ⅱ ●水産海洋概論Ⅰ＊ ●水産海洋概論Ⅱ＊ ●水産海洋概論Ⅲ＊	●統計学＊ ●情報処理概論 ●陸水学 ●技術史 ●地学実験		●物理学実験		
	関連科目 グローバル・ キャリア	●TOEIC 入門＊ ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ		●TOEIC 演習＊ ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ	●海外派遣キャリア演習Ⅱ		
専門科目	コア課程科目	●有機化学＊ ●分子生物学＊	●生物化学Ⅰ＊ ●微生物学＊ ●微生物学実験＊	●公衆衛生学＊			
	アドバンスト課程科目	基礎教育	●海洋動物学 ●海洋植物学	●生物化学Ⅱ ●海洋動植物学実習＊ ●水族生理学 ●動物発生学 ●動物組織学	●遺伝子工学 ●動物生態学 ●集団生物学 ●漁具漁法学 ●応用統計学	●海洋生物資源実務実習 ●水族生理学実験 ●職業指導 ●遺伝子工学実験	
		生命科学系			●水族遺伝育種学 ●応用藻類学 ●応用藻類学実習 ●水族病理学 ●水族養殖学 ●水族養殖・育種学実習Ⅰ	●水族栄養学 ●栄養生物化学実験 ●水族薬理学 ●応用微生物学 ●応用微生物学実験	●水族病理学実習 ●水族養殖・育種学実習Ⅱ
		生物資源学系		●漁業科学実習 ●鯨類資源論	●魚群行動学 ●生物資源モデリング ●集団生物学実習 ●漁業解析学 ●生産システム学	●漁業科学演習 ●応用保全生物学 ●生物資源解析学 ●生物資源解析学演習 ●漁業科学実験	
	卒業研究科目				●セミナー＊ ●卒業論文＊		

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

[2 年次] 総合科目、専門導入科目中心、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		生物化学 I			
2				生物化学 I	水族生物学
3	(教育思想史)	水族生物学		(教育心理学)	動物生態学
4	(教育思想史)	微生物学	海洋動植物学実習		動物生態学
5		微生物学	海洋動植物学実習	(博物館教育論 I)	

[3 年次] 応用専門科目、実験科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		水族栄養学			魚群行動学
2	水族病理学		漁業解析学	応用微生物学	応用微生物学
3	水族病理学	水族栄養学	漁業解析学		漁業科学実験
4	魚群行動学	生物資源モデリング	Intensive English I	(博物館学 IV)	漁業科学実験
5		生物資源モデリング	Intensive English I	(博物館学 IV)	漁業科学実験

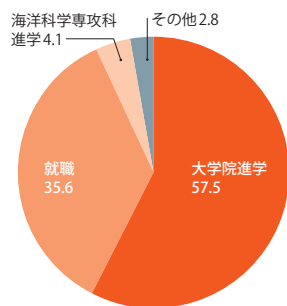
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状（理科・水産）
- 学芸員
- 三級海技士（航海）※
- 技術士補

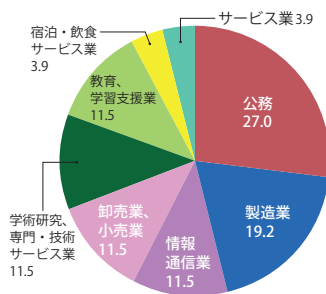
※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科 (p.43) を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

令和 4 年度卒業生 (%)



就職先業種



令和 4 年度卒業生産業別就職状況 (%)
 ※進学等を除く学部卒業生の実績
 ※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

就職先

味の素、いであ、ANA フーズ、エスビー食品、オリエンタル酵母、海洋高校（教員）、海遊館、カゴメ、葛西臨海水族園、キューピー、極洋、栗田工業、グローブライド、小林製薬、JF 共済、島津製作所、商船三井客船、水産庁、水産研究・教育機構、都道府県水産試験場、東京久栄、東洋水産、ニチモウ、ニチレイフーズ、日揮、日清オイリオ、日清丸紅飼料、日本ハム、日本 IBM システムズ・エンジニアリング、日本食品分析センター、ニッスイ、ニッポン、ハウス食品、マルコメ、マルハニチロ、三井製糖、三菱商事ライフサイエンス、明治、モンベル、ヤクルト本社、ヤマサ醤油、山崎製パン、雪印メグミルク、横浜・八景島シーパラダイス、理研食品、理研ビタミン、ロッテ 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 水族生物学

水生生物の発生と繁殖、保全についての研究

■ 水族病理学

水生生物の病気と予防・治療についての研究

■ 水族栄養学

水生生物の栄養代謝と持続可能な飼料開発に関する研究

■ 水族養殖学

水生生物の遺伝形質と育種技術、養殖技術と飼育装置開発に関する研究

■ 応用藻類学

海藻の生理・生態、遺伝・育種、養殖技術についての研究

■ 集団生物学

資源生物の多様性と保全についての研究

■ 増殖生態学

資源生物の増殖と生態・進化についての研究

■ 資源解析学

資源生物の変動機構と制御についての研究

■ 魚群制御学

資源生物の行動と制御技術についての研究

■ 生産システム学

資源生物の採集技術の開発と評価についての研究

■ ゲノム科学

水生生物のゲノム情報と遺伝子についての研究

■ 先端魚類防疫学

水生生物の免疫機構解明とその応用、薬物動態および毒性に関する研究

■ 応用微生物学

水中の有用微生物の探索とその応用についての研究



漁業科学実習



水族養殖育種学実習 I

研究紹介

■増殖生態学

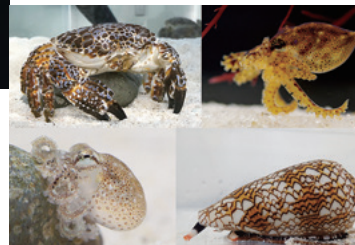
水産資源と希少生物を保全する

変動する環境のなかで、水生生物はどのように影響を受けながら生活し、子孫を残しているのか。そして、水産資源や希少生物を維持・保全するためには、どのような方策が求められるのか。

私たちは、水生生物の保全・増殖を進めるための基礎として、人工繁殖技術の開発とともに、生活史初期の分散・回帰戦略、対捕食者戦略、および摂餌生態の解明に取り組んでいます。また、環境変動や地球温暖化が水生生物の繁殖や分散に及ぼす影響を予測・評価するための研究を行っています。



水槽内で人工繁殖させた頭足類、甲殻類、および貝類の卵と幼生



環境応答実験や行動実験に用いる甲殻類、頭足類、および貝類の成体と稚仔

■水族養殖学

養殖魚の耐病性メカニズムを解明する

養殖魚において、個体間の耐病性形質の違いをゲノム解析し、耐病性メカニズムの解明を行っています。

これまでに、個体の耐病性形質の有無を識別できる遺伝マーカーを開発し、その技術を使った“世界初”となる種苗を作出しました。このように、研究成果を活用し社会に還元・産業に利用するための研究を行っています。

今後は、耐病性責任遺伝子の探究から、野生集団の遺伝的多様性保全のための研究に展開したいと考えています。



世界初となる耐病性ヒラメ系統の作出



野生アユを用いた耐病性ゲノム研究

■生産システム学

絶滅危惧種のウミガメを守る

漁業において、対象としない生物種を誤って漁獲してしまうことを混獲（コンカク）と言います。私たちの研究室では、ウミガメや海鳥といった希少な生物の混獲を防ぐための手法の開発に取り組んでいます。

まぐろ延縄（ハエナワ）漁業では、ウミガメの混獲を防ぎながらマグロ類の漁獲を向上させる新しい漁具（中立ブイ・システム）の開発や、海鳥の混獲を防ぐために、釣針を早く沈められるような漁具の改良を行っています。

また、定置網漁業では、網に迷い込んで溺死してしまうウミガメを網の外へ逃がす手法（ウミガメ脱出支援システム）の開発を行うなど、絶滅危惧種の生物を守るために様々な混獲問題に取り組んでいます。



ウミガメ脱出支援システム



■ゲノム科学

サメの力を利用する

魚類が生息する水中は、生物の生存を脅かすような病原微生物も含んでいます。そのような環境で、魚類は脊椎動物の中で最も繁栄した動物となりましたが、その繁栄には病気にならないための仕組みが大事であったと考えられます。

我々は、サメやチョウザメなどの魚が、他の魚がもつ病気にならない仕組みとは違うことを明らかにしてきました。

現在はこのような仕組みを理解し、様々な分野に応用する方法を研究しています。



チョウザメ



ドチザメ

在学生の声



オーケストラ部の演奏会

東京都
出身

海洋生物資源学科 2 年（女子）
吉祥女子高等学校卒業

◆学科の特長、ユニークなところは？

生き物が好きな人が多く、自然と生物の話題で盛り上がりたりみんなで釣りや採集へ行ったりと、生き物という共通の話題を通して仲が深められます。また先生方がとても親切です。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

1 年次に魚の解剖やクラージングをしました。解剖のスケッチや魚類検索を使った分類は難しかったですが、友人と試行錯誤しながらの作業がとても楽しかったです。また、実習を通して親睦を深めることもでき、入学後すぐに打ち解けることが出来ました。

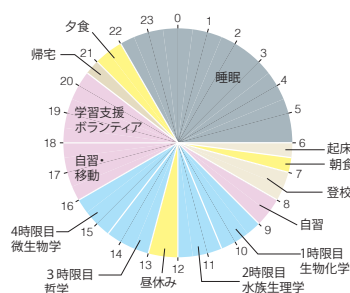
◆将来の夢、目標は？

絶滅危惧種の保全のための研究に携わりたいです。また、教職課程を取っているので、生物の魅力や保全の重要性について教育を通してアウトリーチ出来るような教員を目指したいです。

◆受験生に向けて、ひとこと

海洋大では生き物や海のことを幅広く学べるだけでなく、同じものが好きな人と巡り会ったり興味を持ったことを探求できます！

Time Schedule



実習での川採集

東京都
出身

海洋生物資源学科 4 年（男子）
明星学園高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

魚などの生き物に特化している印象でしたが、社会科学系や博物館学など他分野の学問も学べるところが意外でした。身につけた様々な知識が自分の専門の勉強にもつながり、とても面白いです。

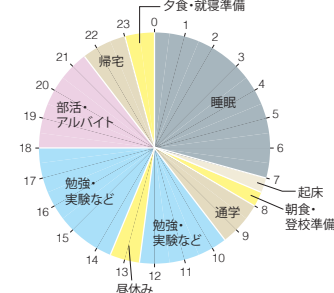
◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

興味のある学問を学べることはもちろん、生き物や博物館など好きな物を共有できる友達ができただけでも入学してよかった点です。色々な分野に詳しい人がいるので刺激的で楽しいです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

授業では水産に関わる生き物を中心に、その生態や漁業・養殖業に至るまで詳しく学べる点が特徴です。また、実習や実験なども多くあるので知識だけでなく経験として深く学ぶことができます。

Time Schedule



◆将来の夢、目標は？

将来は自然の保護に関わる仕事に就きたいです。ずっと先の未来まで美しい自然をつないでいくことが目標です。

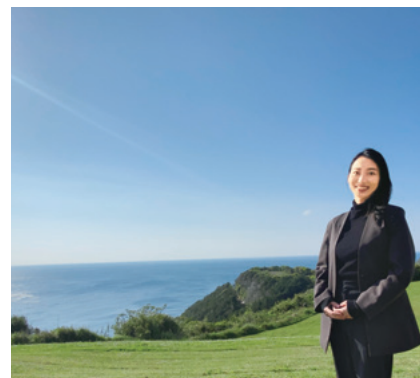
卒業生からのメッセージ

伊藤 さくらさん

2018（平成 30）年度 海洋科学部海洋生物資源学科卒業
2020（令和 2）年度 大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻修了
長崎県水産部漁業振興課（水産庁から出向中）

長崎県庁で資源管理の推進に関わる業務を担当しています。現場漁業者の声を聞きながら、水産資源を今後も利用するための漁獲可能量（TAC）制度について日々勉強中です。

海洋大の魅力は、専門性の高い授業はもちろん、様々な実験・実習が用意されていることが大きな一つだと思います。水産業関連の施設見学やフィールドに出て生物を扱う課題研究等、実験・実習に参加して得た知識や経験は、働く中で大きな基礎となっています。また海が好きな人が集まる大学ならではの部活動・サークルも多く、日常会話から得られる海にまつわる情報も大変面白いです。在学中に得られる学びや経験、友人は大きな財産になるはずです。



食品生産科学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



安全で信頼性の高い食品を持続的に供給するため、食資源を余すことなく利用する技術について、主に化学、微生物学、物理学等の視点から教育・研究を行っています。また、栄養や美味しさ、さらには健康に役立つ機能を引き出し、アレルギーや食中毒などの危険のない安全な食品を生産するための理論と技術について教育・研究しています。水産生物資源の食品としての有効利用、食品の原料から消費に至るまでの安全性の確保・向上、食品の美味しさや栄養価の向上、食品の新しい機能開発などに興味と関心をもつ学生を求めています。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏生物を中心とした食資源の栄養、嗜好、健康に役立つ機能を余すことなく引き出しつつ、安全な食品を生産するための化学的、微生物学的、物理学的及び工学的な深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋生命科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	- 共通導入科目 - 文学系科目 - 哲学・科学論系科目 - 社会科学系科目 - 健康・スポーツ系科目 - 外国語系科目			
専門導入科目	● 物理学Ⅰ・Ⅱ * ● 化学Ⅰ・Ⅱ * ● 生物学Ⅰ・Ⅱ * ● 地学Ⅰ・Ⅱ ● 水産海洋概論Ⅰ * ● 水産海洋概論Ⅱ * ● 水産海洋概論Ⅲ * ● 基礎微積分Ⅰ ● 基礎微積分Ⅱ ● 数理解析 ● 線形代数	● 統計学 * ● 物理学実験 * ● 情報処理概論 ● 陸水学 ● 技術史 ● 地学実験		
関連科目 グローバル・キャリア	● TOEIC 入門 * ● グローバルキャリア入門 ● キャリア形成論Ⅰ		● TOEIC 演習 * ● 海外派遣キャリア演習Ⅰ ● キャリア形成論Ⅱ	● 海外派遣キャリア演習Ⅱ
コア課程科目	● 有機化学 * ● 分子生物学 *	● 生物化学Ⅰ * ● 微生物学 * ● 微生物学実験 *	● 公衆衛生学 *	
専門科目	基礎教育	● 食品生産科学入門実験 * ● 生産物理学 *	● 食品化学 * ● 化学実験 * ● 食品工学 * ● 生物化学Ⅱ ● 物理化学	
	アドバンスド課程科目 実践教育	● 食品微生物学 ● 応用統計学	● 食品生産学実習 * ● 食品分析学 ● 食品化学基礎実験 ● 食品衛生学 ● 衛生微生物学 ● 食品加工学 ● 食品貯蔵学 ● 食品保全化学 ● 食品冷凍学 ● 食品工学実験 ● 食品機能学	● 資源利用化学 ● 食品化学実験 ● 食品微生物学実験 ● 食品流通安全管理論 ● 食品包装論 ● 食品殺菌工学 ● 食品工学演習Ⅰ ● 食品工学演習Ⅱ ● 食品生産システム論 ● 食品物性学 ● 職業指導
	卒業研究科目			● セミナー * ● 卒業論文 *

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

オレンジ色の科目は、食品衛生コースの科目です。

[1 年次] 総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English II	分子生物学	分子生物学	海洋水産概論 II	
2		技術史	Basic English II	水中考古学	技術史
3	食品生産学 入門実験		海洋水産概論 III	数理解析	スポーツ II
4	食品生産学 入門実験		(教育原理)	数理解析	生産物理学
5	食品生産学 入門実験		生産物理学		現代倫理学

[3 年次] 専門科目、応用科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		食品物性学	食品分析学		食品分析学
2	食品生産システム論	食品物性学	食品衛生学	食品生産システム論	食品衛生学
3	食品流通 安全管理論	食品工学実験	資源利用化学		食品化学基礎実験
4	食品流通 安全管理論	食品工学実験	資源利用化学	(博物館学Ⅳ)	食品化学基礎実験
5	衛生微生物学	食品工学実験	衛生微生物学	(博物館学Ⅳ)	食品化学基礎実験

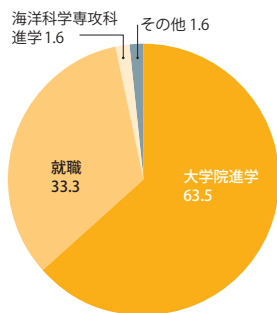
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 食品衛生管理者
- 学芸員
- 三級海技士(航海)※
- 食品衛生監視員
- 技術士補

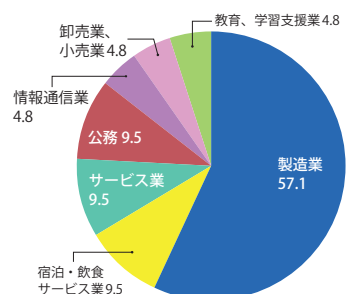
※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

令和4年度卒業生(%)



就職先業種



令和4年度卒業生産業別就職状況(%)
※進学等を除く学部卒業生の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

就職先

味の素、アヲハタ、イオン、伊藤ハム、エスビー食品、エバラ食品工業、カゴメ、カルピス、紀文、キューピー、ケンコーマヨネーズ、JT、資生堂、水産庁、スターゼン、大和製罐、地方自治体職員(食品衛生監視員、教員)、東洋食品研究所、東洋水産、永谷園、なとり、ニチレイ、日清オイリオ、日清食品、日清製粉グループ本社、日本食品分析センター、ニッスイ、日本生活協同組合連合会、ニッポン、日本ハム、ハウス食品、はごろもフーズ、不二製油、プリマハム、ブルドックソース、宝幸、丸大食品、マルハニチロ、ミツカン、三菱商事ライフサイエンス、明治、森永製菓、森永乳業、山崎製パン、ヤマサ醤油、雪印メグミルク、ロッテ 等

学科担当教員の研究分野・内容

■食品微生物学

食品の安全性を守り、資源環境問題を意識し、微生物による腐敗や食中毒菌汚染などにより無駄に食資源が廃棄されないことがないよう、食品に関連する微生物全般における研究を行う

■食品衛生化学

食物・薬物アレルギーの原因物質であるアレルギーの新規検出系の開発や魚介類を中心とした食物アレルギーの特性解析、その他、食品衛生に関連する生化学的・分子生物学的研究を行う

■食品栄養化学

食品または食品栄養成分に対する化学・生物化学的評価、ならびに食品がヒトの健康に寄与する機構解明を目的とした研究を行う

■食品保全化学

油脂の分析法の確立、酸化機構解明、抗酸化剤開発、生体内機能、代謝機構などに関して研究を行う

■生体物質化学

ヒトデなどの未利用生物、フグのような有毒動物、廃棄物となる魚貝類の不可食部に含まれる有用な成分や優れた機能を探索し、生化学・医薬資源として高度に利用することで地球環境の保全に役立てる研究を行う

■食品物性学

食感には甘い、辛いなど五味によるものと、歯でたえ、色、形などによるものがある。食品物性学は後者に着目し、タンパク質や多糖類の性質に基づいて食品や食品素材の物理化学的性質を説明し、例えば、介護食や機能性食品の食品開発に役立つ研究を行う

■食品加工学

原料から消費に至るまでの品質や安全性に関わるプロセスの高精度な定量的解析、先端食品製造装置・システムの開発設計と操作特性、環境保全と一体化した素材の開発に関する原理と先端技術などについての総合的な研究を行う

■食品プロセス工学

食品製造機器の洗浄及び衛生管理に関わる事柄について、様々な視点(基礎～応用)から研究を行う

■食品冷凍学

食品冷凍技術は多くの周辺要素技術の組み合わせであり、物理学・化学・生物学など様々な学問分野が関係する。これらの技術や知識を総動員して、食品の冷蔵・凍結保存を、美味しく、かつ持続可能とするための研究を行う

■食品熱操作工学

様々な加工や調理における熱の伝わりを理解し、食品素材の変化を予測・制御することを目指す。過不足のない適切な加熱を実現し、美味しさ&安全性を確保する。プロの料理人の技を実現できる高度な調理シミュレーターの開発など、食品産業への展開を視野に入れた研究を行う

■食品流通安全管理学

食品安全マネジメントシステム、HACCP、品質評価、トレーサビリティ、リスクコミュニケーションなど、食品安全、品質、経営の視点から、食品産業の発展に寄与する研究を行う

■食品流通安全制御学

安全・安心なフードシステムの構築を目標に、環境保全、食品の安全性確保と品質保持、食品中の危害物低減等に着目し、海から食卓までの供給管理技術の開発研究を行う

研究紹介

■ 食品衛生化学

食物アレルギーから考える食品の安全性

私たちの周りは様々な食品であふれていますが、毎日口にするものであるからこそ食品の安全性や品質に気を付けなければいけません。特に食物アレルギーは重篤な健康被害をもたらすこともあるため、その原因物質（アレルゲン）や作用機序についての研究は食品衛生上とても重要です。

私たちの研究室では、魚介類やその寄生虫（アニサキス）のアレルゲンの特定、食品原料・医薬品・化粧品に含まれる成分のアレルゲン性を予測する新たなシステムの開発、さらには、ヒト脳機能の改善を視野に入れたイカ由来の神経伝達物質や魚介類の食味向上などについての研究を行っています。安全で品質が良く人類の幸福につながるような食品を皆さんに提供できるように、最新技術を駆使して幅広い研究に取り組んでいます。



クリーンベンチや実体顕微鏡を使った研究風景

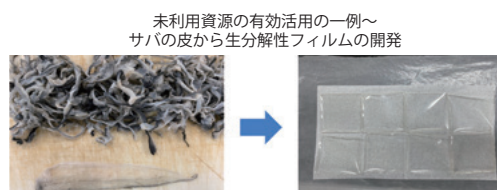


アレルゲン特定のための実験風景

■ 食品加工学

付加価値の高い 水産食品加工技術に関する研究

一般的な食品加工の工程には、原料の採取、洗浄、混合、加熱、乾燥、包装、貯蔵などがあります。これらの製造プロセスの中で、食品素材のみならず、加工・貯蔵の技術およびそれに伴う成分変化は食品の品質に影響します。私たちの研究室では、化学的、物理的、あるいは生化学的な視点から、安全かつ付加価値の高い食品（主として水産食品）の製造プロセスを具体化するための食品設計技術の開発や製造プロセスにおける安全評価システムの確立を目指しています。具体的には、原料から消費に至るまでの安全性に関わるプロセスの高精度な定量的解析、水産食品低温利用技術の開発、未利用食料資源の有効利用、及び付加価値の高い水産食品加工技術の開発に関する総合的な研究に取り組んでいます。



サバの皮

可食性フィルム



サンプル処理の様子

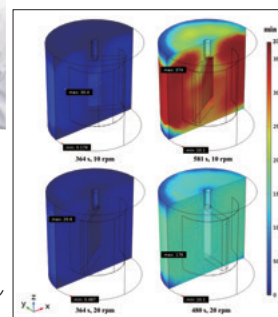
■ 食品熱操作工学

食品の熱処理の予測と制御

熱処理は、食品の貯蔵寿命を延ばすために最も広く使用されている技術の1つであり、微生物を死滅させるとともに、食品の風味、食感、外観、および消化率を改善させます。一方で、過度の加熱は、栄養成分の消失や好ましくない食感となって品質が低下する可能性があります。そのため、短時間で均一な温度分布が得られ、なおかつ環境負荷が少ない熱処理方法が望まれます。これを実現できる技術の1つが通電加熱です。通電加熱は食品に直接電流を流すことによって生じるジュール熱を利用したもので、様々な食品加工への適用が期待できます。さらにコンピューターシミュレーションを活用することで、熱処理における温度変化を予測し、微生物の死滅の程度や、品質変化などを計算し、最適な熱処理条件を導くことも重要です。



ジュール熱の発生に関わる電気伝導度を測定する様子

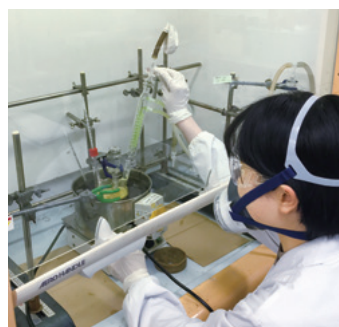


コンピューターシミュレーションによる殺菌値分布の予測

■ 食品保全化学

食品中の脂質および脂溶性化合物の健康機能や体の中での役割を調べる

脂質（油）には多種多様な種類があり、体の健康を維持するために重要な役割を担っています。私たちは脂質を“有機合成”という方法を用いて、新規の脂質や機能性が高い脂質を作り出し、マウスやラットなどの動物や細胞を用いてその健康機能を評価しています。健康機能だけでなく、脂質がどのように体内にとりこまれ、どのような機能が体内で発揮されているのかを追跡するような実験も行っています。このように食品中の脂質や脂溶性化合物を用いて人々の健康維持・増進につながるような研究に取り組んでいます。



有機合成の実験風景



実験動物の飼育風景

在学生の声



実習で作ったニジマス燻製

埼玉県
出身食品生産科学科 2 年（女子）
埼玉県立浦和第一女子高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

1 年生の時は実習よりは座学が多く、食品関連以外にも幅広い知識を学ぶ機会があったことです。海や生き物が好きな人が想像していたよりも多く、驚きました。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

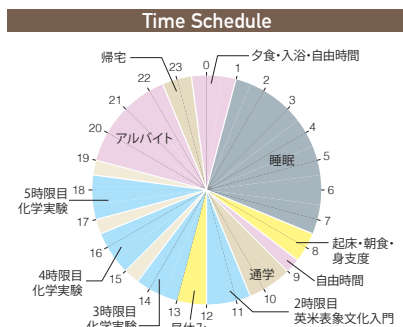
1 年生ではニジマスの燻製づくり、3 年生では缶詰作りを行います。学科のみんなでステーションへ実習に行くのでとても楽しいです。レポートが大変ですが、自分たちで主体的に動いて考え、考察を導くことに達成感を感じます。

◆将来の夢、目標は？

将来は、好きな食品が化粧品関連の仕事に携わりたいと考えています。

◆受験生に向けて、ひとこと

食に関すること
を幅広く専門的に
学べる、他にない
魅力がたくさん詰
まった学科です。
食品生産科学科で
お待ちしております。



ヨット部でのレース風景

埼玉県
出身食品生産科学科 4 年（女子）
埼玉県立蕨高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

食品だけでなく、海洋環境・生物など海についても深く学べる点です。食品の授業でも実験が多く、かまぼこで弾性の変化を学ぶ実験や、レトルト殺菌について学ぶイカ飯の実験など、楽しく美味しく座学にはない学びを得られます。

◆学科の特長、ユニークなところは？

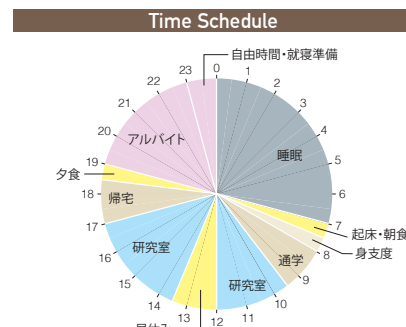
食品の栄養、衛生、貯蔵、微生物、殺菌、冷凍、包装、流通など食について多面的に深く学べます。様々な研究分野から、自分の興味がわくような研究がきっと見つかるはずです。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

静岡での1泊2日のサバ缶作り実習では、サバの処理、肉詰、密封、殺菌といった一連の製造工程を体験しました。作った缶の製品原価の算出や、市販品との食べ比べなども行いました。

◆受験生に向けて、ひとこと

海や食に特化している分、同じ好みを持った気の合う仲間と出会える最高の場です。海洋大と一緒に学生生活を楽しみましょう。



卒業生からのメッセージ

西村 和也さん

2018（平成30）年度 海洋生命科学部食品生産科学科卒業
2020（令和2）年度 大学院海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻修了
昭和産業株式会社 基盤技術研究所 分析科学研究室

本学での学びが楽しく、食に関わる研究をしたいと考え、多種多量の穀物と食品素材を扱う会社に就職しました。現在は、食品の香り成分の分析・研究業務に携わっています。

大学院では、食用油の劣化と微量成分の関係について、有機合成と分析機器を駆使して研究していました。本学では、専門的な講義や実験、実習を通じて、食品について化学、微生物学、工学、流通等の観点から多角的に学ぶことができます。6年間で得られた知識と経験は、社会人として働く私の糧となっています。食品科学の面白さを、皆様も体感してみませんか。



海洋政策文化学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



政策・産業・文化という3つの切り口から、国際的かつ学際的な視野をもって教育を行います。その対象は、法律、経済、人文学、海洋スポーツ、教育学など、多岐にわたります。こうした教育によって、広い知識を修得すると同時に、物事を理解し考えるための思考力を育てます。

具体的には、海や人をめぐって起きていることを講義から知り、調査や実習を通して現場の事実を体験的に学び、得られた知見を議論によってさらに深めていくことによって、海洋をめぐるさまざまな課題を政策的に解決する実践力を身につけます。

このように、本学科では、理系と文系を問わず総合的な立場から考える力と行動する力を兼ね備え、海と人と社会の望ましいつながりの実現に貢献できる人材を育成します。



教育内容の概要

海洋生命科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋生命科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では海洋をめぐる社会科学的・人文科学的諸事象に関する基礎及び専門的知識を総合的に修得します。具体的には、「海・人・社会」の望ましいあり方を探究することを目的とした課題設定能力と解決能力を育成します。そのために、経済、法律、国際関係、社会、歴史、思想、文化、言語、文学、教育、海洋スポーツ等に関する幅広い授業科目を配し、組織的な教育を行います。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	- 共通導入科目 - 文化学系科目 - 哲学・科学論系科目 - 社会科学系科目 - 健康・スポーツ系科目 - 外国語系科目			
専門導入科目	- 水産海洋概論Ⅰ* - 水産海洋概論Ⅱ* - 水産海洋概論Ⅲ* - 基礎微積分Ⅰ* - 基礎微積分Ⅱ* - 数理解析 - 線形代数 - 物理学Ⅰ・Ⅱ - 化学Ⅰ・Ⅱ - 生物学Ⅰ・Ⅱ* - 地学Ⅰ・Ⅱ	- 統計学* - 情報処理概論 - 陸学 - 技術史 - 地学実験		物理学実験
関連科目 キャリア グローバル ハ	- TOEIC 入門* - グローバルキャリア入門 - キャリア形成論Ⅰ		- TOEIC 演習* - 海外派遣キャリア演習Ⅰ - キャリア形成論Ⅱ	海外派遣キャリア演習Ⅱ
コア課程科目	- 海洋政策文化入門Ⅰ・Ⅱ* - 経営学 - 水圏環境教育学	- 海洋政策文化研究法Ⅰ・Ⅱ* - 水産経済学 - 国際海洋法 - 資源利用関係論 - 漁業管理論 - 環境と教育 - ミクロ経済理論 - 海洋性レクリエーション論 - 科学技術論 - 生命・環境倫理学 - 国際文化思想論 - 海洋文化学 - 多文化社会学		
専門科目	共通系	海洋政策文化基礎演習	海洋政策文化特別講義	- 海洋政策文化インターンシップ - 職業指導
	海洋政策系・ 海洋産業系	- 食料経済論 - 日本経済論	- 漁業経営論 - 海事法規 - 水産経済学 - 水産調査 - 海洋環境政策論	- 水産物流通論 - 水産経済史 - 資源経済論 - 海洋管理制度論 - 水産政策論 - 沿岸域利用管理論 - 沿岸域管理論 - 海洋政策実習 - 沿岸地域社会調査 - 漁村フィールドワーク実習
	海洋環境教育・ 海洋スポーツ系	- 海と健康 - マリンスポーツ実習 - 水圏環境教育学実習 - 漁具漁法学 - 動物発生学 - 水族生理学 - 微生物学 - 動物組織学 - 資源生物学実験 - 比較生物学 - 集団生物学	- 応用人体生理学 - 健康・スポーツ科学演習 - 水圏環境コミュニケーション学実習 - 水族栄養学 - 魚群行動学 - 栄養生物化学実験	
	国際・科学 文化系	魚食文化論	- 国際関係論 - 社会言語学 - 環境文学Ⅰ・Ⅱ - 海洋文学Ⅰ・Ⅱ	- 海洋文化表象論 - 政治哲学 - 生命・環境倫理学の諸問題 - 科学技術論の諸問題 - 国際協力論
	卒業研究科目		- 海洋政策文化セミナーⅠ* - 海洋政策文化セミナーⅡ*	- セミナー* - 卒業論文*

1 週間の時間割例

括弧付きの科目は、資格取得のための科目です。

〔1 年次〕総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	Practical English I		文化人類学	日本語表現法	
2	化学 I	日本国憲法	Basic English I		
3	食料経済論	科学史	水産海洋概論 I	基礎微積分 I	哲学
4	食料経済論	海洋政策文化入門 I	データサイエンス入門 A	基礎微積分 I	スポーツ I
5		生物学 I			

上記科目の他に「海洋政策文化基礎演習」が1 年次通年の演習科目（選択科目）として開講されます。

〔3 年次〕専門科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	沿岸域利用管理論				
3	水産経済史		水産経済史		資源経済論
4	水産物流通論	沿岸域利用管理論	生命・環境倫理学の諸問題	(博物館学Ⅳ)	資源経済論
5	水産物流通論	海洋政策文化セミナー I	生命・環境倫理学の諸問題	(博物館学Ⅳ)	

上記科目の他に「沿岸地域社会調査」「漁村フィールドワーク実習」「水圏環境コミュニケーション学実習」「海洋政策実習」「海洋政策文化インターンシップ」が3 年次通年の調査・実習科目（選択科目）として開講されます。

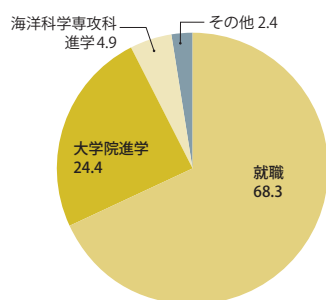
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(理科・水産)
- 学芸員
- 三級海技士(航海)※
- 技術士補

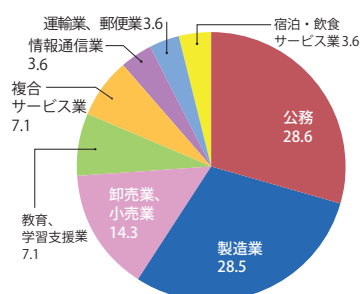
※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

令和4 年度卒業率 (%)



就職先業種



令和4 年度卒業生産業別就職状況 (%)
※進学等を除く学部卒業者の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

就職先

国家公務員総合職・一般職等（農林水産省、水産庁、水産総合研究センター、北海道開発局等）、地方公務員総合職・技術職・教員等（北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、東京都、神奈川県、富山県、滋賀県、山口県、徳島県、高知県、気仙沼市、新庄市等）、大学教職員（東京海洋大学、近畿大学、筑波大学等）、共水連、極洋、漁済連、国分、商船三井客船、新京成電鉄、セブン・イレブン・ジャパン、JTB、全水加工連、全漁連、全日本空輸、全農、中央魚類、テレビ新潟、東洋冷蔵、ニチモウ、ニチレイ、日本漁業保険組合、日本航空、ニッスイ、日本政策金融公庫、日本生命保険、野村証券、東日本旅客鉄道、マリンプーズ、マルハニチロ、三井住友海上保険、三菱 UFJ 銀行、明治、リクルート、理研ビタミン 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 国際海洋政策

捕鯨問題を含む国際的な漁業や海洋の問題、生物多様性の保全などの国際環境問題を研究する

■ 国際開発・協力論

水産物をめぐる国際貿易や漁業の国際協力のあり方を研究する

■ 海事法・海洋法

海洋の法制度と船舶の航行に関する法の研究

■ 海洋環境政策論・海洋管理制度論

海洋資源に関する管理制度を主に環境経済的な視点から研究する

■ 資源経済論

効率的な資源利用における市場経済の役割と政策の役割を研究する

■ 水産経済政策論

経済学的視点から海洋、なかでもとくに水産政策のあり方を研究

■ 水産経済・経営学

経済学的な視点から、資源管理、漁業管理、および地域創生のあり方について研究

■ 流通・マーケティング論

生産と消費を適合させる仕組みや取り組みに関する研究

■ 水産経済史

海を舞台とした経済活動の歴史を研究する

■ 沿岸域・海洋管理論

沿岸域・海域の資源環境を持続的に利用する「しくみ」の望ましいあり方を研究

■ 沿岸域資源論

沿岸域における資源=人と魚と水の関係について研究する

■ 水圏環境教育学

身近な水産生物を活用した水圏環境教育プログラムの開発・実践・評価

■ 環境教育論

環境と教育の関係について、理論的・歴史的・実践的な視点から研究する

■ スポーツ生理学、環境生理学

潜水や船酔いなどによって生じる人体の循環系変化に関する研究

■ 海洋スポーツ、スポーツ方法学

海洋のスポーツと教育に関する研究、スポーツ(競技を含む)に関する研究

■ 生命・環境倫理学

人間や動植物の生と死、地球環境などに関わる倫理学的課題を考察する

■ 科学技術史

科学技術をめぐる歴史的・社会的問題の考察

■ 多文化社会学

多様な文化的属性(階級・民族・ジェンダー等)をめぐる社会的・環境の問題を考察する

■ 社会言語学

言語使用と社会の相互影響についての研究

■ イギリス文学・文化

海洋・環境・人間の観点からイギリスの文学や文化を研究する

■ フランス文学・思想、アノール派歴史学

近世から今日にいたるフランスの文学・思想・歴史

■ アメリカ文学・文化

海洋・環境・人間の観点からアメリカの文学や文化を研究する

研究紹介

■ 沿岸域資源論

「人と魚と水の関係」から 資源について考える

沿岸域資源論は、資源を自然そのものとして捉えるのではなく「人と魚と水の関係」として捉えて、資源の持続的利用とそれによる沿岸地域社会の発展について考究しています。

漁業をはじめ、釣り、ダイビング、ホエール・ウォッチング、環境保護活動等に着眼し、それぞれの「人と魚と水の関係」を規定している生物の生態的特徴、人間の価値認識、そして自然－人間－社会の関係を統合的に把握することを重視しています。



研究室での現地調査の風景
(栃木県のミヤコタナゴ保護活動への参加)



実習風景
(沖縄県の赤土流出防止活動への参加)

■ 国際海洋政策

国際的な海洋問題に対処するための 政策を学際的に研究

海洋をめぐる問題は、国際的な性質を有することが多く、国内外で大きな注目を集めています。例えば海洋生物資源の保存と管理、地球温暖化と海洋、海洋環境の汚染、生物多様性の保全などの問題が様々なメディアで取り上げられています。

授業では、これらの問題を多角的に分析し、その背景や原因を理解するとともに、問題の解決に向けて国際社会がどのように取り組むべきかについて考えます。このことは、持続可能な開発目標（SDGs）の14番目である「海の豊かさを守ろう」という国際目標を達成するために重要です。



国連持続可能な開発会議（2012年）での海洋をめぐる議論の現場

■ スポーツ生理学・環境生理学

海洋におけるヒトの活動を 人体生理学から支える

素潜りで水深100m以上潜るエリートダイバーに、近赤外線センサーを装着して潜水中の血液の流れを計測したところ、脳に血液が集まってくる現象が観察されました。この現象は、これまでイルカ等で確認されていましたが、ヒトにおいては世界で初めての発見でした。

このような潜水に関する人体生理学を中心に、高齢化が進む海女の腰痛対策、水中での運動が脳の認知機能や自律神経系に与える影響などについて研究を行っています。



海女を対象とした実験の様子



■ 海洋文学・環境文学

環境と人との関係性を資源と その利用とは異なる文脈へと開く

当研究室では、文学作品に表れる海をはじめとする自然環境をめぐる言説や表象を分析し、人々の想像力の中で自然環境がどのように構築され、どのように時代と関わっているのかなどを研究しています。

海を含むより広い環境や生態系に着目する環境文学批評は、環境に関する政策の立案や提言を行う上で必要な「環境的想像力」の養成に不可欠な視点を与えてくれます。

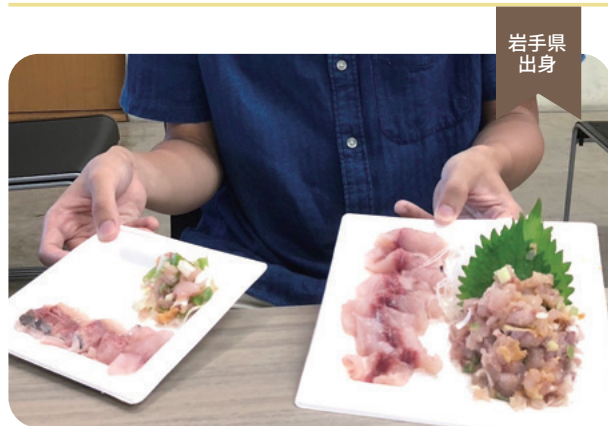


イングランドの秘境、
セルボーン村
(高台からの風景)



18世紀イングランドの温室の再現

在学生の声



魚食文化論の授業で捌いた魚

海洋政策文化学科 2 年（男子）
岩手県立花巻北高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

東京海洋大学には、海に関して様々な関心事を持つ学生が集まっています。入学後に会った友人との交流を通じて、新たな知識を得たり、新たな視点や問題意識に気づくことができたこと、入学してよかったなと思いました。

◆学科の特長、ユニークなところは？

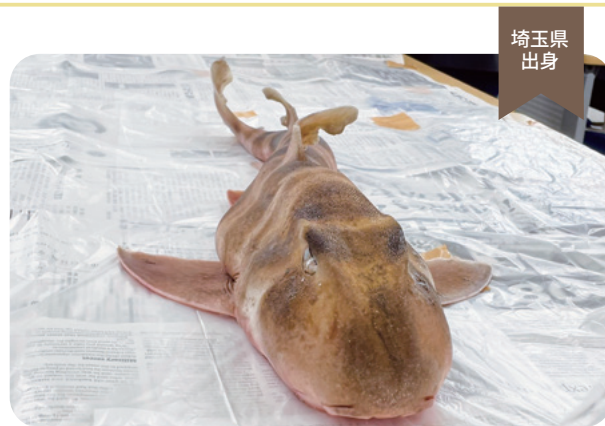
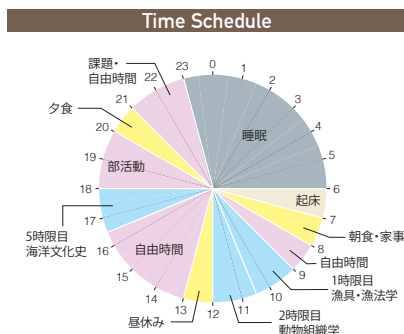
海と人と社会のつながりについて、様々な視点から学ぶ機会があります。講義や実習を通じて、水産業のほかにもレジャーや教育などの幅広い分野で、人が海の恵みを享受していることに気づくことができます。

◆将来の夢、目標は？

地元岩手の沿岸地域振興の手伝いとなることをしたいです。

◆受験生に向けて、ひとつ

本学科では、海洋をめぐる様々な事象について人文・社会科学的な視点から学ぶことができ、とても有意義で楽しいです。



解剖前のサメ

海洋政策文化学科 4 年（女子）
埼玉県立浦和西高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

少人数で学生と教員との距離が近いことが意外でした。授業の相談など気軽にしやすいです。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

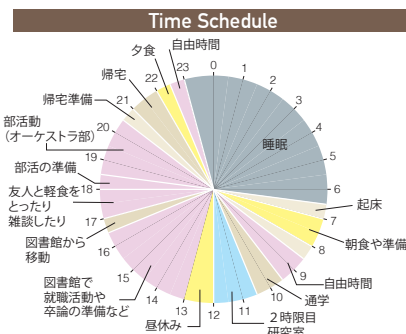
実習に行って様々な経験をしたり、部活やサークルに所属して趣味に没頭したり、授業で興味のあることを学んだりできた時です。様々なことを両立して充実した大学生活を送れました。

◆学科の特長、ユニークなところは？

教員との距離が近く、経済学や経営学、政策、文学、生物学、教育学、流通論など様々な分野を学べる点です。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

レポート作成が大変でしたが、絆が深まるとともに実際に養殖業を見ることができたり、漁業関係の方にお話を聞いたり、おいしい魚を食べられたりして楽しかったです。



卒業生からのメッセージ

久我 颯大さん

2022（令和4）年度 海洋生命科学部海洋政策文化学科卒業
水産庁 資源管理部 国際課ロシア班

海洋政策文化学科で学ぶ中、世界中の国々と海を通じてつながりのある水産業や水産行政への関心が高まり、水産庁に入庁しました。現在は、ロシアと日本との漁業交渉に関する業務を担当しております。

学科の授業や実習では、魚を捕ること、そして食卓に届くまでのことについて、マーケティングや海洋法など様々な観点から学ぶことができました。そのような学びや経験は、水産業や海の利用の全体像を理解し、現場の状況を踏まえ、今後の展開を考える今の仕事に直結しており、とても有意義なものだったと思います。海や水産業に興味をお持ちの方、海洋政策文化学科での、現場に即した多様な視点からの学びはいかがでしょう。





海洋工学部

TOPIC

体験型学習による実践的な海事英語教育

海事・海洋英語教育の世界拠点を目標として

本学部では、現在まで確立してきた海事英語のデータベースや検定試験といった体験型学習プログラムを通して、実践的に海事英語を磨くことができます。

練習船（海鷹丸・汐路丸）航海での海事英語訓練や、海外から教員・学生を招聘した短期セミナーなどを毎年度実施しています。

● プログラムの詳細・報告書

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~takagi/mei/index.html>



海洋工学部



環境に配慮した海洋利用型技術の分野でリーダーとなる
創造力豊かな若者を求めています

海洋工学部長 元田 慎一

海洋工学部は、母体となった商船学校から数えて 140 年を超える歴史と伝統を持ち、船舶の運航や管理、動力機関、海洋機器、海上輸送などに関連する教育研究を行ってきました。日本が高度経済成長を遂げた後は、環境保護や省エネルギーにも教育研究の対象を広げ、その時代における社会の要求に応えてきました。

教育の特色としては、現場、現物、現実を重視した少人数クラスでのきめ細かな修学指導を重視し、海事関連社会で活躍する優秀な人材を育成しています。近年では、大学改革の一環として、海洋開発及び環境エネルギー

分野に関する「高度海洋技術者専門コース」を開設し、海洋基本計画等で求められる海洋人材を輩出しています。さらに、流通情報工学科では、2020 年度から統計学や人工知能をベースとした AI・データサイエンス系科目群をカリキュラムに新設し、大学における SDGs と共に、デジタルグリーン社会を見据えた次世代を担う人材育成を行います。グローバル教育に関しても、学部の特性に合った海外インターンシップを実施するとともに、練習船、各種シミュレータなどをフルに活用した海事英語教育を行っています。

越中島キャンパス

入学定員総数

160 名

海事システム工学科

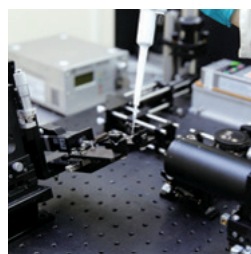
59 名

海洋電子機械工学科

59 名

流通情報工学科

42 名



海事システム工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



安全で効率の良い船舶運航の実現を目指して、明治の頃より連綿と積み重ねられた経験と知識、そして最新の先進的技術、その両方を融合して駆使する特徴ある分野です。海事システム工学科では、航海（ナビゲーション）技術や情報処理技術のほか、語学や法律などを幅広く学びます。

私たちは、皆さんが将来「専門的な職業人になる」または「学究的な挑戦をする」機会を準備しています。



教育内容の概要

実学を重視した講義、実験、演習を中心に、1年次から専門科目を基礎から応用に向けて学習するようにカリキュラムが組まれています。海事技術者としての幅広い視野と豊かな人間性を育むために、4年間を通じて文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系科目からなる総合科目を学びます。1年次から2年次前期までは、専門科目の基礎となる数学、物理、情報系科目からなる基礎教育科目を学びます。短艇実習、海洋実習や海技教育機構の大型練習船による乗船実習(1年次1ヶ月)を通して、リーダーシップや協調性を修得します。2年次後期からは、船舶管理または海事工学の教育プログラムを選択し、専門科目を学びます。

1. 船舶管理教育プログラムでは、船舶の運航管理や保守管理ができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
2. 海事工学教育プログラムでは、運航者の視点でものづくりができる技術者を育成するための知識や技術を学びます。
3. 海技士資格の取得を目指す学生は、船舶管理または海事工学の教育プログラムだけでなく海技士科目を学び、世界の海技士を教育し、リーダーシップを発揮できるための知識や技術を学びます。3年次(2ヶ月)及び4年次(3ヶ月)の乗船実習、卒業後に乗船実習科(6ヶ月)に進学することで三級海技士(航海)免許の取得が可能です。

4年間で学ぶ授業例

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目		共通導入科目			
		文化学系			
		哲学・科学論系			
		社会科学系			
		健康・スポーツ系			
		外国語系			
専門導入科目		● 数学系 ● 物理化学系 ● 外国語 ● 計算機科学	● 数学系 ● マリンスポーツ ● GJI 演習 ● 英語	● 英語	● 英語
専門科目	海事工学系		● 船体構造論 ● 計測工学Ⅱ	● 海洋 IoT ● 認知モデリング工学 ● 航海システムⅡ ● 船舶制御 ● 浮体運動論 ● 航海システムⅢ ● 船用工業実務論	● マリナーズファクターと安全運航
	海技士系		● 海事法規 ● 海上無線法規	● 航海英語Ⅰ・Ⅱ ● 船舶実習Ⅱ	● 船舶医学 ● 海事システム工学実験演習 ● 船舶実習Ⅲ
	船舶管理系		● 海運経営論 ● 海洋環境学 ● 船舶運航論	● 海法Ⅰ ● 組織管理論 ● 海運実務論 ● 保険法 ● 輸送管理	● 海上危機管理論 ● 海法Ⅱ
	演習・実習系	● 短艇実習 ● 水泳実習 ● 船舶実習Ⅰ	● 船舶実験Ⅰ（汐路丸） ● 船舶実験Ⅱ（汐路丸） ● 海事システム工学実験演習Ⅰ・Ⅱ ● 海事工学ゼミナールⅠ	● 海事システム工学実験演習Ⅲ・Ⅳ ● 海事工学ゼミナールⅡ ● 船舶実験Ⅲ（汐路丸）	● 卒業研究 ● 海事工学ゼミナールⅢ
	共通基礎専門系	● 電気工学 ● 航海システム概論 ● 電子機械工学入門 ● 大気環境学 ● 情報処理基礎論 ● 契約法	● 船舶基礎力学 ● 電子通信工学 ● 信号情報処理 ● アルゴリズム ● 安全性と信頼性 ● 計測工学Ⅰ ● 抵抗推進論 ● 航海システムⅠ	● 運航管理 ● 船体管理 ● 制御工学 ● 通信ネットワーク	● 機関システム工学概論
	基礎数理系		● ラプラス・フーリエ解析 ● 最適化数学 ● 確率論 ● 振動と波動 ● 複素解析	● 数値解析	

1 週間の時間割例

〔3 年次（前学期）〕 海事工学系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	運航管理		航海システムⅡ		制御工学
2	航海英語Ⅰ	文学	機械学習	海事法規	海事システム工学 ゼミナールⅡ
3		海事システム工学 実験演習	計測工学Ⅱ	水中考古学	海事システム工学 実験演習
4		海事システム工学 実験演習	海商法	Interactive EnglishⅠ	海事システム工学 実験演習
5	船舶運航論	海事システム工学 実験演習			海事システム工学 実験演習

〔3 年次（後学期）〕 船舶管理系 海技士を目指す場合

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	浮体運動論	船体管理	航海システムⅢ		歴史学
2	組織管理論		保険契約法		海事システム工学 ゼミナールⅢ
3		海事システム工学 実験演習	数値解析	国際輸送実務論	海事システム工学 実験演習
4	航海英語Ⅱ	海事システム工学 実験演習	輸送管理	Interactive EnglishⅡ	海事システム工学 実験演習
5		海事システム工学 実験演習	海運実務論	船用工業実務論	海事システム工学 実験演習

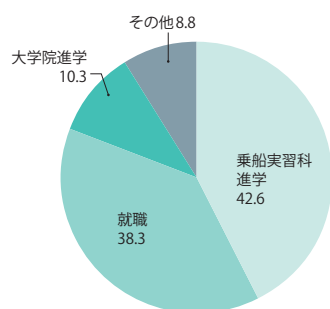
取得可能資格

- 高等学校教諭一種免許状(商船・工業)
- 第一級海上特殊無線技士
- 三級海技士（航海）※1
- 船舶衛生管理者※2
- 電子海図情報表示装置（ECDIS）講習の資格※3

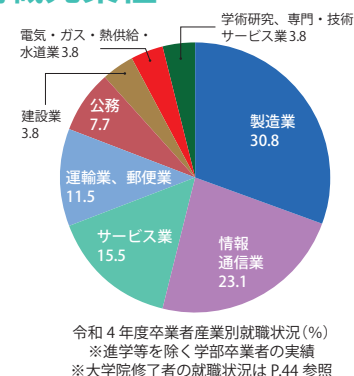
- ※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び乗船実習科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。
- ※2 乗船実習科（p.43）を修了後、講習受講により取得できます。
- ※3 三級海技士に合格することで、電子海図情報表示装置（ECDIS）搭載船舶に乗船できる資格を取得できます。

卒業後の進路

令和4年度卒業生（%）



就職先業種



就職先

飯野海運、出光タンカー、NS ユナイテッド海運、NTT コミュニケーションズ、NTT データ、NTT データウェブ、NTT データフィナンシャルテクノロジー、NTT ワールドエンジニアリングマリン、海技教育機構、海上保安庁、鹿児島海運、川崎汽船、川崎近海汽船、共栄タンカー、警視庁、光電製作所、航空自衛隊、国土交通省、山九、ENEOS オーシャン、JFE システムズ、ジャパンマリンユナイテッド、商船三井、商船三井客船、商船三井システムズ、新来島どつく、新日本海フェリー、全日本空輸、ダイトコーポレーション、東京電力ホールディングス、東洋エンジニアリング、東洋信号通信社、田淵海運、中央システム、日本海事協会、日本海事検定協会、日本海難防止協会、日本海洋掘削、日本製鋼所、日本テレビ、日本郵船、日立情報通信エンジニアリング、三井 E & S ホールディングス、ロジスティード、ビューロベリタス（フランス船級協会）、ユニバーサルコンピューターシステム 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 知能システム

知的なマルチエージェントを用いた海上交通流シミュレーションシステムや自律型の水中ロボット開発などの研究

■ 航行システム工学

航法および航行支援のための装置やシステムに関する研究

■ 航海システム論

情報通信技術等を利用した運航支援および支援システムに関する研究

■ 最適航路計画論

気象海象を予測して船舶の運航性能を推定し、最適な航路計画を行う研究

■ 制御理論、信頼性・安全性工学

制御システム、特に制御ロジックの安全性解析・設計に関する研究

■ 電子情報工学

ソフトウェア・ハードウェアを通じた画像処理技術の研究

■ 誘導制御論

船舶を中心とした各種ビークルの運動解析・予測・制御に関する研究

■ 海洋気象学

大気と海洋の運動や相互作用に関する物理学的研究

■ 船舶工学

船舶の構造と安定性、船体の運動における抵抗と推進に関する研究

■ 人間機械系工学

船舶運航者の情報処理と行動特性に適した船舶運航環境の構築に関する研究

■ 衛星測位工学

高精度位置決定に関する研究

■ 海洋文化学

海の人類学、考古学、歴史学の研究

■ 民法法学

保険法の研究

■ 国際法学・海事法学

国際法、海事法よりみた海洋、海運、船員に関する法的な研究

■ 言語情報学

自然言語の音声・統語・意味構造の科学的解明と英語教育への応用

■ 数値流体力学

流体や浮体の運動をコンピュータ上で再現し、物理現象の解明を行う研究

研究紹介

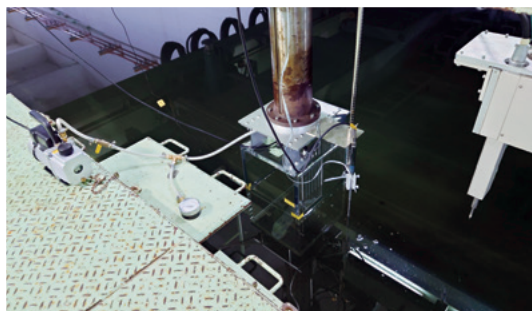
■ 数値流体力学

粒子法を用いた

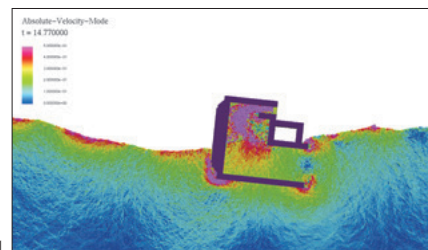
波力発電装置の性能解析に関する研究

海洋再生可能エネルギーの一つである波を利用する波力発電装置は、発電効率が低く設置・製造コストも高いため、普及できていません。本研究では、波力発電装置の実用化に貢献するため、高効率な装置形状の開発や荒天時の安全性評価を行うための性能解析手法の確立を目指しています。このとき注意するのは、荒天時の状況は想像しやすいものの、波を高効率で吸収する装置は普段の波でも大きく揺れることです。そのため、装置や波が激しく動く現象を精度よく推定できる数値計算手法を選ぶことが重要になります。

本研究では、普段の波や荒天時の波、そして浮体の大きな運動を容易に再現可能な粒子法と呼ばれる数値シミュレーション手法に着目し、計算精度の向上、波力発電装置を再現するためのモデルの開発、そして開発したモデルの妥当性を確認するための実験などを行っています。



基礎的な検証のための水槽実験



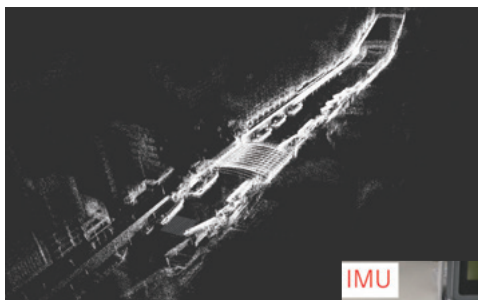
粒子法による数値シミュレーション例

■ 自己位置 推定

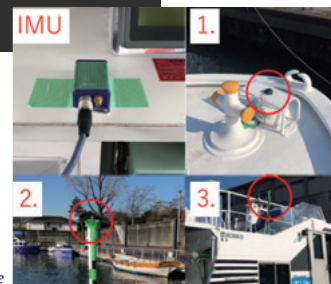
ロバストな位置推定に関する研究

将来の自動操船支援に必要となるロバストな自己位置推定に関する研究開発を行っています。GNSSは世界中でメートル級の位置を取得できる便利なものですが、干渉等に弱く屋外の開けた場所が前提となります。自動操船では信頼性へのハードルが高いため、GNSSのみに頼らない自己位置推定方法を幅広く研究しています。廉価なIMUとGNSSの統合やカメラやLidarを利用したものです。屋外の開けた場所であればGNSSでcm級の位置及び速度推定が可能であり、IMUやドップラソナーを併用することで着岸時に操船者への負担を減らすための研究及び実験を行っています。また、河川を含めた自動操船を鑑みて、高架下等でもロバストな位置推定を行うためにLidarやカメラによる精密地図生成や自己位置推定の研究及び実験を行っています。

複数の研究室の得意な領域を持ち寄り、より堅牢なアルゴリズムを開発しています。



GNSS/IMUを利用した自動着岸支援実験



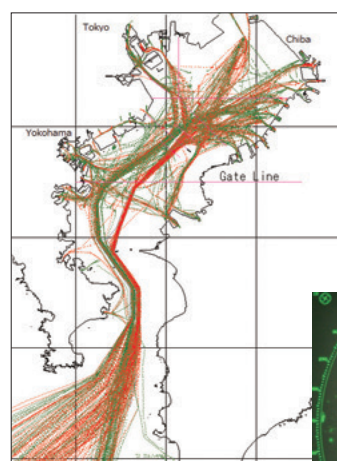
Lidar等による精密地図生成と位置推定

■ 航海システム論

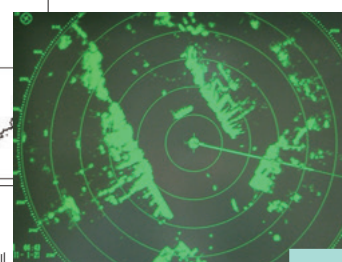
船舶航行データを運航支援に関する研究

運航支援システムの目的の一つが船舶の衝突リスクを小さくすることです。操縦性能・大きさが異なる様々な船舶が航行する東京湾では、航行規則による船舶交通流の整流や航行管理により大型船同士が近づくことを避けさせることで衝突の発生回数を減らしています。しかし経済活動や気象海象の変化、海洋土木工事による航行海域の制限や工事に関わる特殊な船の航行隻数増加により船舶の交通流が変化することで潜在的な危険が新たに発生しているかもしれません。一方、情報通信技術の発達による新しいシステムが開発・装備されることにより船舶同士もしくは陸上の監視局でも船舶動静を把握しやすくなったことから様々な海域にて長期間の船舶航行データの蓄積が可能となりました。

ここでは蓄積される情報を基に海上交通の特性を理解し新しいシステムの利点を活用した衝突リスクの減少、効率的な運航支援に関する研究を進めています。

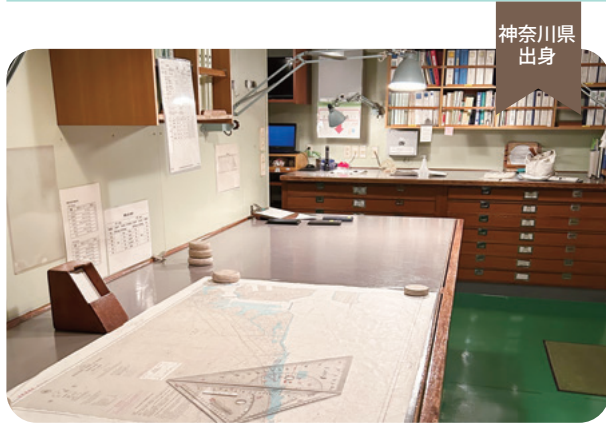


東京湾内を航行するAIS搭載船舶の航跡



レーダーによる船舶動静の計測

在学生の声



実習船の船橋

神奈川県
出身

海事システム工学科 3 年（女子）
クラーク記念国際高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

海上職以外を志望する学生も多い点です。造船や船舶管理、海象気象、災害対策、航海英語などの多様な研究分野からさまざまな進路が選べます。

◆学科の特長、ユニークなところは？

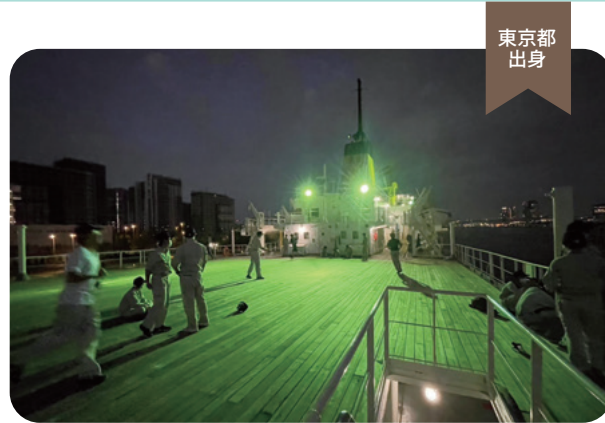
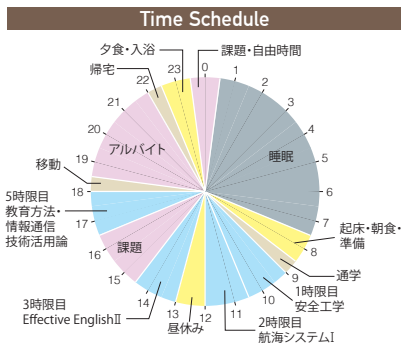
実習が多く、座学も少人数で、実践的な知識が身につきます。

◆将来の夢、目標は？

航海士になることです。

◆受験生に向けて、ひとこと

海に関して多分野にわたる授業があるので、明確に学びたいものがある人だけでなく、漠然と海や船が好きと思っている人にもおすすめです。マニアックな知識を持った友達ができると自分もその分野に興味が湧いてくる場合があります。



乗船実習中のトレーニングの様子

東京都
出身

海事システム工学科 4 年（男子）
桐蔭学園中等教育学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

立地は都心ですが、周辺には商店街やのどかな住宅地が広がり、大学構内も自然豊かで過ごしやすい環境であることです。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

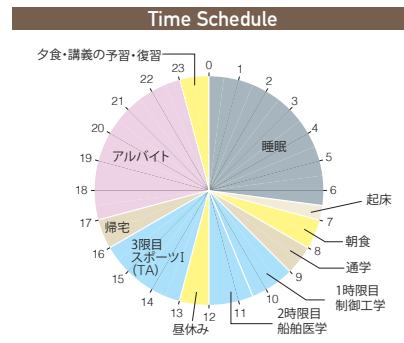
海運関係の学問を専門的に扱っている大学が国内にわずかしかないため、希少な人材になれるという実感を得られるとき。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

時間に縛られることやプライベートな空間がありませんことなど、普段よりストレスフルな環境となりますが、その分学生間の交友が進み、友人と深い関係を築くチャンスが沢山あります。

◆将来の夢、目標は？

外航タンカーの航海士として、航海に関する技術だけでなく、積み・揚げ荷役作業等にも精通したタンカーのスペシャリストになりたいです。



卒業生からのメッセージ

齊藤 詠子さん

2014（平成26）年度 海洋工学部海事システム工学科卒業
2016（平成28）年度 大学院海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻修了
国土交通省 海事局 海洋・環境政策課 技術企画室

海上技術安全研究所での航海支援 / 自動運航システムの開発・評価に係る研究を経て、現在は国土交通技官として、海事技術の政策に係る企画・立案に携わっています。海事技術や航海・運航関係の内容は、学部時代から勉強を続けてきた専門分野であり、本学で勉強した基礎が土台となって仕事を進める上で大きな力になっています。また、同級生やお世話になった先生方・先輩後輩と仕事をすることも多く、本学で得られた同級生との絆・人との繋がりは今でも続いています。このように、本学では乗船実習等を通じて海事技術を習得できることに加え、人同士の結びつきが強くなるような経験ができ、これらの経験は今後の人生に大いに役立つと思います。



海洋電子機械工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



船舶に使用されている先進技術を結集した高効率推進システムや船内の住環境を確保するための各種インフラ機器、様々な機械要素を組み合わせたシステムやロボット等を教材として、機械、電気、制御等の工学の基礎から応用までを幅広く学びます。

バラエティーに富んだ講義科目と実験・実習・ゼミナールや大型練習船での洋上実習を通じて、船舶・海洋関連機器、各種プラント設備、省エネ・環境対策機器などのオペレーション、設計・製造・研究開発に指導的な役割を果たすことができる高度専門技術者を養成します。



教育内容の概要

ものを「つくる」だけでなく、低環境負荷および高効率で安全に「運用する」技術を含めた総合工学を基礎から応用に向けて学習するカリキュラムが組まれています。

1 年次より国際的、総合的な視野を養うよう社会科学系や外国語系等の総合科目や専門科目と関連の深い基礎教育科目とともに専門科目を開講します。

2 年次に1ヶ月の海技教育機構の大型練習船による乗船実習を実施します。講義による理論と実験、実習、演習とさらには実際の船舶による実習を通して、総合的に電子・機械工学などを教育します。

3 年次以降は、機関システム工学コースと制御システム工学コースの2つのコースに分かれます。

1. 機関システム工学コースでは、基礎となる機械・電気・電子などの工学系科目に加え、主に船舶運航に関する工学について教育を行います。卒業までに最長で5ヶ月間の大型練習船による乗船実習が組み込まれており、船舶運航技術者として必要な教育を行います。また、所定の要件を満たすことにより三級海技士（機関）の取得が可能となります。
2. 制御システム工学コースでは、講義に加え実験や演習を通して、様々な機器、システムやプラントの設計・製造および管理の技術者として必要な機械、電気・電子、制御に関する工学について広く教育を行います。

4 年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

(機) の付く科目は機関システム工学コースを対象に開講。

(制) の付く科目は制御システム工学コースを対象に開講。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	共通導入科目 文理学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目			
専門導入科目	● 微分積分Ⅰ・Ⅱ* ● 線形代数Ⅰ・Ⅱ* ● 物理学* ● 数学演習 ● 力学* ● 天文学 A・B ● 物理学実験 ● 化学熱力学 A・B ● 統計学 ● 計算機科学 ● 基礎ゼミナール	● 常微分方程式 ● 電磁気学 ● 物質科学 ● 化学実験 ● GLI 演習Ⅰ・Ⅱ ● Effective EnglishⅠ・Ⅱ ● Interactive EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ● Intensive EnglishⅠ・Ⅱ		
専門科目	機関系	● ターボ動力工学Ⅰ* ● 内燃機関工学Ⅰ* ● 補助機械工学* ● 電気工学*	● ターボ動力工学Ⅱ ● 内燃機関工学Ⅱ ● エネルギー工学* ● 原子力機関工学 ● 冷凍空調工学 ● 流体機械工学 ● 電気機器学 ● 機関システム管理工学	
	機械系	● 材料力学* ● 機械力学* ● 金属材料学* ● 環境材料学	● 工業熱力学 A・B* ● 伝熱工学 ● 流体工学* ● 機械設計製図Ⅰ*	
	電子・制御系	● 情報処理基礎論 ● 制御工学Ⅰ* ● 基礎電子工学* ● 振動と波動 ● 計測工学	● ロボット工学Ⅰ* ● ロボット工学Ⅱ ● ソフトウェア工学 ● 制御工学Ⅱ・Ⅲ ● 電子回路論 ● 半導体工学(制は必修) ● 化学エネルギー変換工学	
その他	A	● 契約法 ● 航海システム概論	● 船舶工学 A・B・C ● 機関英語Ⅰ・Ⅱ ● 機関英語Ⅲ(機)	● 海運経営論 A・B ● 海運実務論 ● 船舶医学 A・B ● 海事法概論 ● 海法Ⅱ
	B	● 安全性と信頼性 ● ラプラス・フーリエ解析 ● 確率論 ● 最適化数学	● 複素解析 ● データ構造とアルゴリズム ● 海洋開発環境 ● エネルギー概論	● 信号情報処理 A・B ● 機械学習 ● 数値解析 ● 船用工業実務論 ● 海洋開発環境 ● エネルギー概論
実験・実習等	● 水泳実習 ● 短艇実習* ● 電子機械工学入門 ● 海の起業論Ⅰ	● 電子機械工学実験・実習Ⅰ* ● キャリア形成論 ● 船舶実習Ⅰ* ● 海の起業論Ⅰ	● 電子機械工学実験・実習Ⅱ* ● 制御システム工学演習Ⅰ・Ⅱ*(制) ● 材料・機械力学演習* ● 熱流体工学演習*	● 電子機械工学ゼミナール* ● 学外実習 ● 船舶実習Ⅱ*(機) ● 海の起業論Ⅱ
				● 船舶実験(汐路丸)*(機) ● 船舶実習Ⅲ(機) ● 卒業研究* ● 職業指導 ● 機関実務実習(機)

1 週間の時間割例

〔2 年次〕総合科目、専門導入科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			民族誌	船舶工学Ⅱ	ターボ動力工学Ⅰ
2	機械力学	補助機械工学	電気工学	内燃機関工学Ⅰ	制御工学Ⅰ
3	環境材料学	Effective EnglishⅡ	伝熱工学	Interactive EnglishⅡ	複素解析
4	化学実験	確率論	電子機械工学実習	Interactive EnglishⅣ	振動と波動
5	化学実験		電子機械工学実習	GLI 演習Ⅰ	国際政治学
集中(10月)／船舶実習Ⅰ(2年次)					

〔3 年次〕専門科目、応用科目中心

〔機関〕…機関システム工学コースの科目
〔制御〕…制御システム工学コースの科目

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	信頼性工学	信号情報処理	ターボ動力工学Ⅱ	ソフトウェア工学	機関英語Ⅰ
2	エネルギー工学	Effective EnglishⅠ	機械学習	半導体工学	海運経営論
3	冷凍空調工学	内燃機関工学Ⅱ〔機関〕		Intensive EnglishⅠ	制御工学Ⅱ
4	機械設計製図Ⅱ〔機関〕 電子機械工学実験・実習Ⅱ〔機関〕	電子機械工学実験・実習Ⅱ〔機関〕 機械設計製図Ⅱ〔制御〕	ロボット工学Ⅰ	Interactive EnglishⅢ	電気機器学
5			材料・機械力学演習	Interactive EnglishⅠ	
集中(11月・12月) 船舶実習Ⅱ〔機関〕／集中(11月・12月) 制御システム工学演習Ⅰ・Ⅱ〔制御〕					

取得可能資格

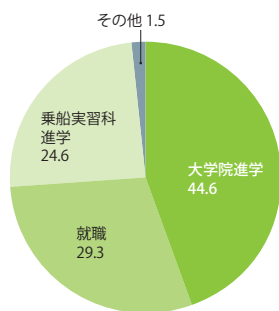
- 高等学校教諭一種免許状(商船・工業)
- 三級海技士(機関)※1
- 船舶衛生管理者※2

※1 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、機関システム工学コース及び乗船実習科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

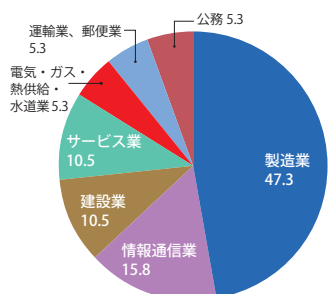
※2 機関システム工学コース及び乗船実習科(p.43)を修了後、講習受講により取得できます。

卒業後の進路

令和4年度卒業生(%)



就職先業種



令和4年度卒業生産業別就職状況(%)
※進学等を除く学部卒業生の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

就職先

IHI 原動機、飯野海運、石井鐵工所、いすゞ自動車、出光タンカー、今治造船、内海造船、NS ユナイテッド海運、NOK、ENEOS オーシャン、海技教育機構、かもめプロペラ、川崎汽船、キャノン、国土交通省、五洋建設、清水建設、ジャパンマリンユナイテッド、商船三井、スズキ、セイコーエプソン、全日本空輸、ダイキン工業、ダイハツディーゼル、常石造船、日本海事協会、日本海洋掘削、日本郵船、東日本旅客鉄道、日立建機、富士通ゼネラル、本田技研工業、三井 E&S、三菱電機、ヤマハ発動機、ヤンマー 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 内燃機関

船用ディーゼル機関の燃焼および排ガス浄化に関する研究

■ ターボ動力

蒸気およびガスタービンシステムに関する研究

■ 機械設備

冷凍・空調に関連するシステムなどのエネルギー有効利用に関する研究

■ 動力エネルギー

船用ボイラや原子炉等の伝熱流動特性の改善や安全性の向上に関する研究

■ 電気動力

パワーエレクトロニクスに基づく電力変換技術と船舶省エネに関する研究

■ トライボロジー

材料、設計、潤滑のアプローチから機械の摩擦・摩耗特性を向上する研究

■ エネルギー変換

家庭・産業用の冷凍空調機器・ヒートポンプ・熱交換器の省エネ・システム高性能化に関する研究

■ 機械材料

新再生可能エネルギー用材料とインフラ構造物高寿命化(腐食・金属疲労)に関する研究開発

■ 機械設計

小型機械から大型機械まで、可動部の摩擦潤滑に関する研究

■ システム物理

シミュレーション等への物理学の応用研究

■ 電子デバイス

分子デバイス・バイオセンシング素子の開発等、これまでにない機能を持つ新規デバイスの研究

■ ロボット

水中ロボットや水上ロボット(船舶も含む)、ロボットに搭載される機器を含めた海洋機器本体及び関連要素技術に関する研究

■ オートマティクス

制御システムの設計法とその船舶、ロボット、プラントなどへの応用についての研究

■ 機関管理

船舶の機関室全体の最適管理に関する研究

■ 情報通信

ソフトウェア、ハードウェアを通じた情報通信技術と応用に関する研究

■ 電子制御

産業機器、交通・輸送機器等の電子制御、コンピュータ制御に関する研究

■ 大気環境物理

地球大気、雲、エアロゾル等が地球環境へ与える影響に関する研究及び大気レーザーリモートセンシング手法の研究

■ 物質科学

新規磁気機能開拓のための物質合成と物性評価に関する研究

研究紹介

■電気動力

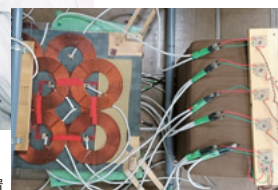
電気エネルギーの船舶・水中機器応用

発電機や電動機（モータ）に代表される電気機器は、船内における電気エネルギーの生成、プロペラを回転させる動力源などに利用されていますが、年々厳しくなる排ガス規制や燃費改善の観点から、効率の良い運用が求められています。

本研究室では、本学の大型練習船を含む各種の船舶運航データの実測および解析を行うことで、より良い船内電機システムを検討しています。また、水中探査機向けのワイヤレス給電装置の開発にも取り組んでいます。



練習船の運航データの計測作業



ワイヤレス給電装置

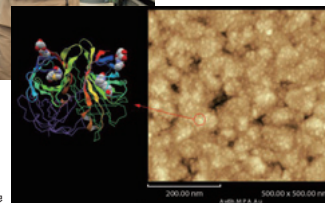
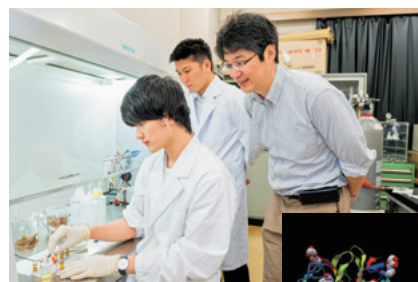
■電子デバイス

生体機能を取り入れた新しい機能デバイスの開発

CPUなどの半導体デバイスでは、電子や光などの電磁気的な相互作用による機能に一極集中しています。

一方、生体系では免疫反応、たんぱく質合成、遺伝システムといった多様な機能を利用しています。

本研究室では、大きく性質が異なる無機系と生体系を融合したハイブリッドな素子構造を構築し、これらの機能を融合した新デバイスの開発を行っています。現在、微細加工技術を駆使したバイオセンサの開発を進めています。多様性保全のための研究に展開したいと考えています。

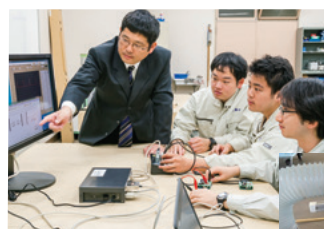


センサ表面の原子間力顕微鏡像

■電子制御

海洋ロボット (ROV) の開発

海洋は人類にとって未知の領域です。海洋を探索するロボットに ROV (Remotely Operated Vehicle) があります。我々は電子回路と制御の技術を使って ROV の研究開発を行っています。ROV はマイコンや DSP (Digital Signal Processor) といった電子部品の塊です。これらの複数の電子回路を組み合わせ水中で動作可能なロボット制御システムを作りあげます。また、電子回路だけでなく制御ソフトウェアや Deep Learning に代表される AI を使った画像認識技術も重要です。これらの技術を応用し、磯焼けの原因となっているウニを駆除する ROV 研究をしています。

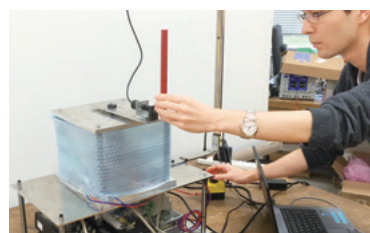


■オートマティクス

本質を見極め、意のままに操る !!!

船舶や飛行機、電車などの我々の身の回りの物は固有の動特性（ダイナミクス）を有しており、様々な動きをします。これらの対象を意のままに動かすためには、その動きを支配する本質的な要素（運動方程式や伝達関数）を見極め、適切な制御手法を用いる必要があります。

この技術を探求しているのが「制御工学」です。我々とともに、より良い制御手法を研究しませんか？



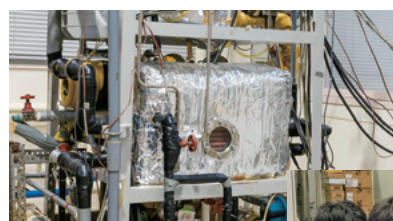
回転型倒立振り実験装置



■機械設備

冷凍・空調システムのエネルギー有効利用、環境調和技术の実現

冷凍・空調の分野では、作動媒体やエネルギーの使用による環境負荷を低減するための技術が求められています。熱駆動型の吸収冷凍機の利用もその対応策のひとつで、自然界に存在する水などを作動媒体とし、太陽熱や未利用熱を利用することができます。このような熱駆動型の冷凍機を主な対象に、エネルギーの有効利用を図り自然環境に調和する機器やシステムをどのように実現していくかという問題に取り組んでいます。



実験用吸収冷凍装置



在学生の声



乗船実習の思い出（自室から見た東京湾の夕日）

千葉県
出身

海洋電子機械工学科 2 年（女子）
山脇学園高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

授業や部活動などで沢山の友達が出来たことに加えて、友達と協力し合う多くの実習により仲間との絆を深め、一緒に楽しく充実したキャンパスライフを過ごしている時です。

◆学科の特長、ユニークなところは？

カッターという救命艇を漕ぐ短艇実習や、シュノーケリングを行う水泳実習、1カ月の船上生活を体験する乗船実習など、この大学ならではの海に関する貴重な体験ができることです。

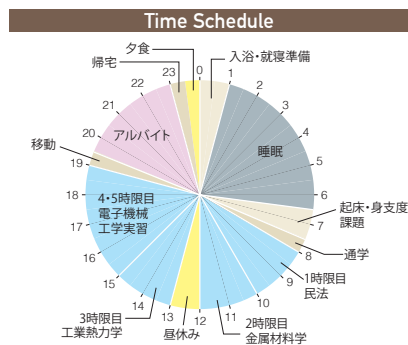
◆実習の楽しさ、厳しさは？

指導は厳しいですが、船での生活を体験でき、海を舞台に厳しい環境で業務を行うための強い精神力、忍耐力が養われます。

◆受験生に向けて、ひとこと

海に関して学びたい！工学について学びたい！大学生活を楽しみたい！と考えている人にピッタリの大学です！

ぜひ東京海洋大学で素敵な一生の思い出を作ってみませんか？



海外インターンシップ

千葉県
出身

海洋電子機械工学科 3 年（男子）
千葉県立千葉高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

旋盤加工など、卒業研究等で役に立つ道具の操作法を、実習という形で学ぶことができることです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

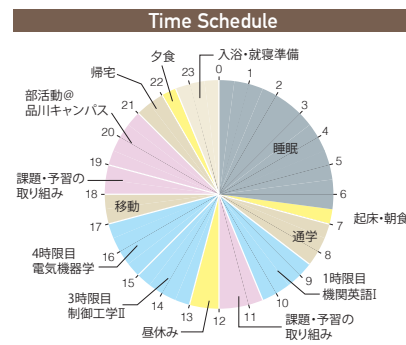
マリンエンジニアの養成だけでなく、システムエンジニアなど、陸上職としても即戦力として勤務できるようなレベルでの授業が幅広く展開されていることです。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

学科の人数が少ないので、ほぼ全員と会話したり、交友を深めたりする機会が生まれることが楽しいです。厳しさという面では、初航海で船酔いした人が多かったということがあげられます。

◆受験生に向けて、ひとこと

授業だけでなく、部活動も個性あるものが様々あります。ぜひ海洋大に入って、このユニークな学生生活をエンジョイしてほしいです。



卒業生からのメッセージ

高橋 賢人さん

2019（令和元）年度 海洋工学部海洋電子機械工学科卒業
2021（令和3）年度 大学院海洋科学技術研究科海洋システム工学専攻修了
株式会社タダノ 生産技術部 海外ものづくり強化グループ

本学科最大の特徴は乗船実習があることだと考えています。共同生活で様々な人と関わることになるため自然と友達が増えていきます。また、船で使われている機械の多くは人の生活に必要なものです。これらが動いている所を見ながら学べる環境は他にない大変貴重なものでした。現在、私はクレーンメーカーの生産技術者として溶接設備導入の仕事に携わっています。人と関わりながら機械に触れるという点において本学科で得られたことは大いに役に立っています。船はもちろんのことそれ以外の知識や経験も多く得られる学科です。興味がある方は、是非、本学科で充実した学生生活を送ってみてはいかがでしょうか？



流通情報工学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)

商品を効率よく生産・輸送・保管するために、物と情報の流れを計画・管理することをロジスティクスといいます。ロジスティクスにおいては、輸送・保管の技術・方法はもちろん、企業・経済の仕組み、商品の発注や品質の維持のための情報システム、環境問題、関連する公共政策などについての知識が必要となります。流通情報工学科では、工学系（流通工学）・社会科学系（流通経営学）・情報系（数理情報）の3つのカリキュラムを融合させ、幅広い知識を習得し、ロジスティクスについて体系的に学びます。また、理論と実践のバランスのとれたカリキュラムと少人数教育を通じ、丁寧で質の高い指導を実現し、広い視野と高い問題解決の能力を有する学生を育成します。



教育内容の概要

1、2年次に国際交流の基盤となる、幅広い視野と豊かな人間性の育成を目指すために、主として哲学・科学論系、社会科学系、外国語系等からなる総合科目と数学や情報科目等からなる基礎教育科目を開講します。

3、4年次に現代社会の大規模かつ複雑な諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力、課題解決能力、コミュニケーション能力を養うために、ゼミナール及び卒業研究を開講します。

また、4年間を通じて論理的思考能力や適切な判断力を養うために、少人数体制による理論と実践を共に重視した授業を実施するとともに、ロジスティクスのスペシャリストとしての幅広い教養、深い専門的知識による問題解決能力を養うために、工学系（ロジスティクス・交通計画・物流システム）、情報系（数理情報・データサイエンス・システム工学・プログラミング）、社会科学系（経済学・商学・経営学）の3分野の科目をバランスよく開講します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・ ● Practical English I・II * ● Basic English I・II * ● データサイエンス入門 A・B ● 日本語表現法*	スポーツ系、第二外国語など ● Effective English I・II ● Interactive English I・II ● Intensive English I・II ● GLI 演習 I・II		
基礎教育科目	● 微分積分 I・II * ● 線形代数 I・II * ● 物理学* ● 基礎ゼミナール			
専門科目	情報系	● 最適化数学 ● 確率論* ● 流通情報システム* ● データサイエンス演習* ● データ構造とアルゴリズム* ● 応用プログラミング* ● ラプラス・フーリエ解析 ● 複素解析 ● データベース工学	● 機械学習 ● 数値解析 ● 通信ネットワーク ● データサイエンス	
	工学系	● 物流リスク工学 ● 流通情報工学実験* ● 流通基礎計画学* ● 流通最適化工学* ● 物流管理工学*	流通情報工学ゼミナール I・II * ● 流通データ分析 ● 流通オペレーションズ・リサーチ ● 通関実務論 ● 交通計画学 ● 作業管理工学 ● 港湾環境工学 ● 衛星測位工学 ● 安全工学 ● 海洋開発環境エネルギー概論 ● 流通情報工学演習*	● 卒業研究*
	社会科学系	● 産業政策論* ● 流通経済論* ● 交通経済論* ● 国際経済論* ● キャリア形成論	● マーケティング論 ● 保険契約法 ● 産業経済論 ● 流通チャネル論 ● 国際交通論 ● 物流・交通政策の経済分析 ● 損害賠償法 ● 船用工業実務論	

1 週間の時間割例

〔1 年次〕総合科目、基礎科目中心

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	微分積分 I	化学熱力学 I	ドイツ語 I	Basic English I	
2	微分積分 I		Practical English I		
3	天文学 A	物理学		電子機械工学入門	哲学
4	ロジスティクス概論 A	統計学		データサイエンス入門 A	スポーツ I
5				計算機科学	

〔3 年次〕専門科目、応用科目中心

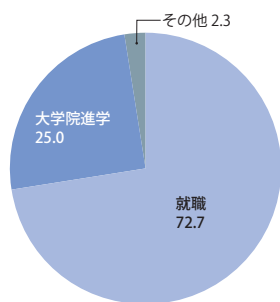
	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			衛星測位工学		
2	港湾環境工学		機械学習	データサイエンス	作業管理工学
3	流通情報工学演習	国際交通論	流通オペレーションズリサーチ	Intensive English I	交通計画学
4	損害賠償法	産業経済論		Interactive English III	
5			通関実務論		流通情報工学ゼミナール I

取得可能資格

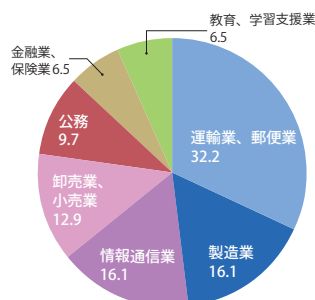
- 高等学校教諭一種免許状（工業）
- 授業で関係する内容を学べる資格：情報処理技術者、通関士、中小企業診断士、ビジネス・キャリア検定（ロジスティクス管理、ロジスティクス・オペレーション）

卒業後の進路

令和 4 年度卒業生（%）



就職先業種



令和 4 年度卒業生産業別就職状況（%）
※進学等を除く学部卒業者の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

就職先

いすゞ自動車、SBS 東芝ロジスティクス、NTT データ、エバラ食品工業、F-LINE、オカムラ、花王、鹿島建設、キヤノン、キューソー流通システム、鴻池運輸、国土交通省、国分、コマツ物流、サイバーエージェント、山九、JR 東日本、JR 東日本情報システム、全日本空輸、東京都庁、トヨタ自動車、ダイキン工業、ダイフク、TOTO、ニチレイロジグループ本社、日通 NEC ロジスティクス、日本通運、日本パレットレンタル、日本放送協会、ロジスティード、フコク情報システム、富士通、三井住友海上火災保険、三井倉庫サプライチェーンソリューション、三菱商事ロジスティクス、三菱倉庫、三菱電機ロジスティクス、安田倉庫、郵船ロジスティクス、りそなホールディングス 等

学科担当教員の研究分野・内容

■ 物流安全工学・物流環境工学

3 次元重心検知理論に基づく物流現場の安全確保・環境改善

■ 地域計画

地域・都市を支える交通など基盤施設の計画とその工学的研究

■ 貨物交通計画

貨物流・貨物交通、及び、関連施策に関する研究

■ 物流システム工学

空間情報工学・自動認識技術の活用による物流の安全・効率性

■ 作業管理

物流センター内業務の改善及び物流の環境負荷低減

■ サプライ・チェーン最適化

サプライ・チェーンにおける様々な最適化モデルとアルゴリズム

■ 流通情報システム

情報通信技術による流通システムの高度化

■ 数理物理学

自然や社会・経済、情報、人工知能等における数理構造の解明と応用

■ 統計科学

データを用いた実証研究とリスク管理に関する統計理論の研究

■ 非線形解析

応用数学における最適化問題、非線形問題の理論的研究

■ 比較教育学

タイ教育の研究、ASEAN 諸国の教育研究

■ 水産物加工・流通

水産物流通の主幹をなす卸売市場システム、及び構造変動する水産加工業の研究

■ 産業経済

グローバル化とイノベーションに伴う産業構造の変化と企業の対応

■ 国際経営

企業の海外進出行動・戦略の多様化と経済的影響

■ マーケット・デザイン

効率的な市場の設計の研究

■ 数値解析

流体や弾塑性体などの運動を記述する偏微分方程式の数値解法の開発と数学解析

■ 談話分析・日本語教育学

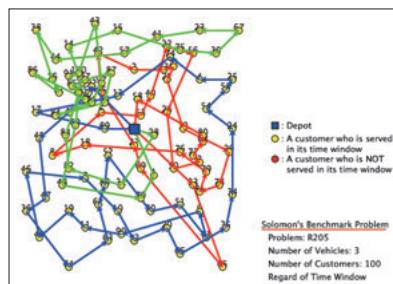
日本語母語話者・非母語話者の会話や文章表現の研究および日本語教育への応用

研究紹介

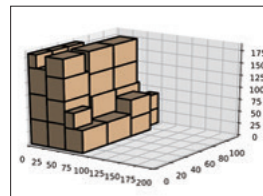
■最適化アルゴリズム

コンピュータで最適な答えを探す

様々な条件を満たしながら最も良いものを選択する問題は最適化問題と呼ばれます。例えば、トラックで客に荷物を運ぶ問題は配送計画問題と呼ばれ研究されていますが、これはトラックの順路を求める最適化問題です。順路の数は有限個なのでそれら全てを探索すれば最適な答えが見つかりますが、数が多すぎてコンピュータでも全てを探索することはできません。そこで最適な答えを上手に探す計算方法（アルゴリズム）が必要になります。世の中の多くの問題は最適化問題として表現できますが、それらに対して効率的な最適化アルゴリズムを研究しています。



時間枠付き配送計画問題

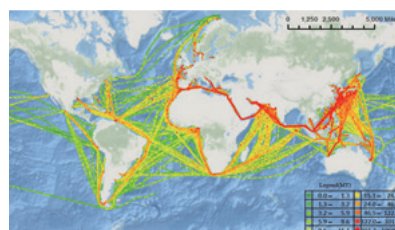


3次元立方体配置問題

■物流システム工学

地球環境と調和した 持続可能な国際物流の実現

海に囲まれた日本にとって、国際物流は生活を支える重要なインフラであり、地球環境への影響は地球全体の問題として考えることが重要です。近年、地理情報システム (GIS: Geographic Information System) を用いることで、位置に関する情報を持ったデータ (地理空間データ) を含む大量のデータ (ビッグデータ) の解析が効率的に行えるようになりました。GIS は地理空間データを総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にします。国際物流における船舶運航に関するビッグデータを用いて、航行中のエネルギー消費に基づいて温室効果ガスの排出量を計算し、GIS を用いて環境影響を評価する研究を行っています。



船舶からの温室効果ガスの排出量の分布

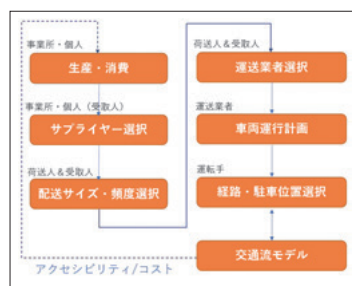
GIS に関する
研究指導の様子



■貨物交通計画

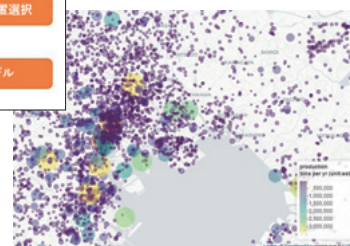
都市圏貨物交通シミュレーション

交通・物流や情報技術の進化、また、経済・社会情勢の変化に伴い、都市における貨物交通の課題は変化を続けています。例えば、人々がオンラインショッピングをより頻繁に利用することによって生じるモノの流れの変化や、宅配の需要に対して、どのような対策が効果的か、評価をする必要があります。本研究では、共同配送、夜間配送、クラウド配送などのスキームや、宅配自転車、宅配ロボット、ドローン等の新しい交通手段を用いた輸送等の影響を評価するために、個人や企業がどのようにモノの流れに関わる意思決定をし、それが交通手段によってどのようにして実現されるかをシミュレートするためのモデルの開発や、施策の影響分析を行います。



都市貨物交通
モデルのフロー

シミュレーションの
出力例



■マーケットデザイン

公平で効率的な分配のための仕組みづくり

医療や教育などの一部の大変重要なモノは、通常のモノと異なりマーケットメカニズムを通じた分配が必ずしも適切とは言えません。例えば、大学教育や保育所のサービスを受けられる人が一部の豊かな人に限られてしまうと、さらに貧富の差が拡大してしまう恐れがあります。また、豊かな人だけが優先的にワクチン接種などができ、命が助かるような仕組みは適切とは言えないでしょう。そのようなモノの分配について、様々な要因を考慮に入れながら議論するのがマーケットデザインとよばれる分野です。

本研究では、特に未就学児の保育所への割当や、入試制度などについて、それぞれのもつ背景を考慮しながら、望ましい仕組みを議論していきます。

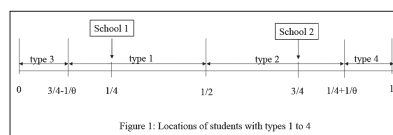
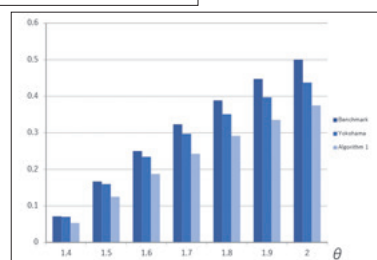


Figure 1: Locations of students with types 1 to 4

シミュレーションの結果
(どちらも Okumura, Y. (2019). School Choice with General Constraints: A Market Design Approach for the Nursery School Waiting List Problem in Japan. Japanese Economic Review 2019 70(4), 497-516 より転載)

「保育所への割当の仕組みを変更したことによる待機児童数への影響のシミュレーション」



シミュレーションの
概要

在学生の声



ダンス部のステージ

東京都
出身

流通情報工学科 3 年（女子）
江戸川女子高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

自分の興味の幅が広がったときです。もともとは都市や交通について学びたくて入学しましたが、「ロジスティクス概論」や「コンテナ輸送工学」など、専門性が高くユニークな授業を1年生の時に受けることができたのはよかったです。

◆学科の特長、ユニークなところは？

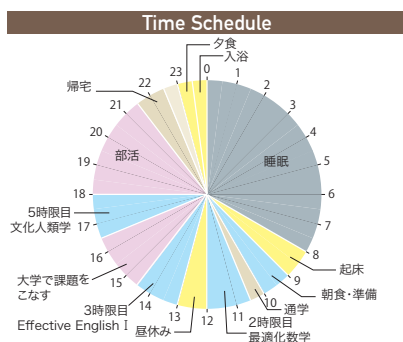
文系の人も理系の人もいますところ。本学科は文系理系どちらでも受験でき、入学してから、工学系、情報系、社会科学系と幅広く学ぶことができます。学生の中でも興味を持っている分野がそれぞれ違うので、色々な人がいるのが面白いところです。

◆将来の夢、目標は？

運輸業に携わり、日本の物流を支えたいです。

◆受験生に向けて、ひとこと

東京の真ん中とは思えない緑豊かなキャンパスです。国の重要文化財である明治丸は最高の映えスポットです。とても楽しい大学なので是非来てください！



留学先での休日

広島県
出身

流通情報工学科 4 年（女子）
広島県立福山誠之館卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

世の中に必ず必要な「物流」を学べる唯一の国立大学だからです。学んでいくうちに愛着が湧くような学問だと思います。

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

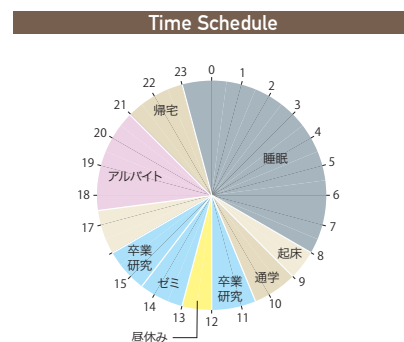
教授との距離感が近い点。少人数の大学で一人当たりの教授が受け持つ生徒が少なく、手厚くサポートしていただきます。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

珍しい大学なので就活のネタになりました。ウケが良く、他大学とは違う学びができており差別化しやすいです。物流に興味がない人でも学んで良かったと思える環境が整っています。

◆学科の特長、ユニークなところは？

文系でも受験ができ、数学やプログラミングも基礎から学べます。真面目な学生が多く、課題も適度な量で、オフィスアワーという質問会といった授業のフォローもあります。



卒業生からのメッセージ

小川 叶子さん

2017（平成 29）年度 海洋工学部流通情報工学科卒業
ダイキン工業株式会社 空調営業本部 設備営業部

空調メーカーで営業を技術面でサポートする業務をしています。

本学に入学したきっかけは、東日本大震災で物不足に直面し、改めてロジスティクスの重要性に気づいたためです。本学科で学ぶことはニッチにも思われますが、ロジスティクスの基礎だけでなく、実際の企業や現場から応用～改善活動まで幅広く学ぶことができます。

大学時代に学んだことが、ロジスティクスと直接関わりのない今の仕事にも活かしていると実感しています。ぜひ本学科で実りのある大学生活を送ってください。





海洋資源環境学部

TOPICS

グローバル人材育成支援プログラム

海洋資源環境学部のグローバル教育※

● TOEIC 教育

本学部では、TOEIC600 点の獲得が3 年次から4 年次への進級要件とされています。TOEIC スコア向上のための必修科目及び集中講座や、英語学習アドバイザーによるカウンセリングなどの学習支援を通して、学生の基礎英語力の向上を丁寧にサポートしています。

● 海外派遣プログラム「海外探検隊」

アジアの大学や企業を訪問する約1 ヶ月間の海外派遣キャリア演習や、海外大学の研究室インターンなどの海外渡航プログラムを展開しています。

● 詳細

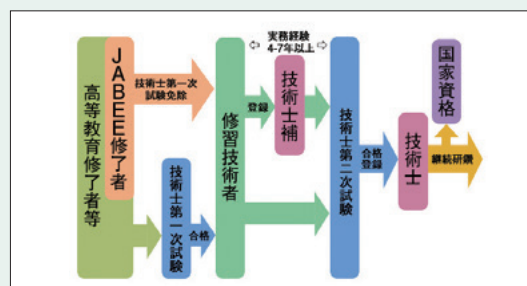
東京海洋大学グローバル
教育研究推進機構 HP



JABEE 認定教育プログラム

世界水準の技術者教育プログラム

本学部の各学科は、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、本学部を卒業すると、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除される「修習技術者」の資格を得ることができます。JABEE は、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定に加盟しており、認定者には国際的に活躍する機会が広がっています。



※グローバル人材育成支援プログラムは、海洋生命科学部と海洋資源環境学部の共通のプログラムです。

先輩が東京海洋大学に
入学を決めた理由



海洋資源環境学部



海の資源開発と環境保全のスペシャリストを目指しませんか

海洋資源環境学部長 宮本 佳則

海洋資源環境学部は、海面及びその上を覆う大気から海底、海底下までの総合的な海洋科学・海洋生物学に関する理解を基盤に、再生可能エネルギー・海底資源の利用、海洋環境の保全・修復等の分野を教育・研究する、海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科で構成されています。

本学部では、海洋環境保全と海洋資源利用の両立、海的环境保全と資源・エネルギー探査・開発・利用についての教育・研究を進めています。また、海の現場で活躍するための実地訓練・安全教育、実験、実習を重視しています。これらの特色ある教育・研究から、海の平和的かつ積極的な開発・利用と環境保

全の調和を図り「新たな海洋国家」の実現に貢献でき、かつ国際的にも活躍できる人の育成を行っています。さらにSDGsの一つである「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」ことを実践し、国内外でリーダーとして活躍できる人を育てるために「質保証」を伴う統合的で実践的なカリキュラムを備えています。

グローバルな課題へ挑戦し、先進的な研究に取り組んでいる海洋資源環境学部で共に学び、研究をすることで海のスペシャリストを目指す皆さんを待っています。

品川キャンパス

入学定員総数

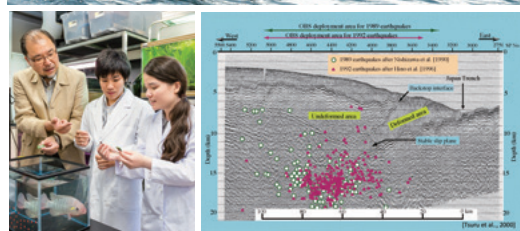
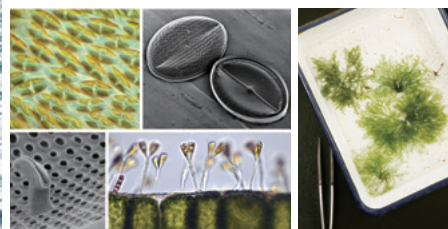
105名

海洋環境科学科

62名

海洋資源エネルギー学科

43名



海洋環境科学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



大気や海底を含む海洋に関する科学的な基礎及び多様な海洋生物と環境との相互作用を総合的に理解し、洋上での海洋観測・探査、海洋生物の種・生態・生活史などの調査、海洋生物の理解や海洋生物がもつ有用分子の利用のための化学・生化学的解析、人間活動の環境への影響の予測などに必要な科学と技術を学び、これらについて研究します。

本学科には、大気から海底を含む海洋を包括した基盤的な学問分野である「海洋科学」、多様な海洋生物と環境との相互作用に関する学問分野である「海洋生物学」、およびこれらの境界領域を総合的に学べるカリキュラムがあります。海洋における諸現象と海洋生物との関係について測定・解析・理解・予測・利用を実行する能力及び国際的な対応力を身につけ、海洋研究、生物資源調査、環境影響評価、環境管理・保全、海洋開発などの実務に関連する研究機関、教育機関、国・自治体機関及び企業で活躍できる人材を育成します。



教育内容の概要

大気や海底を含む海洋並びに多様な海洋生物と環境との相互作用に関する基礎及び専門的な知識と技術を修得させ、これらの分野における課題の設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等で組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できるように講義・演習等を通して学びます。

専門科目では、水圏における物理学的、化学的、生物学的、地学的事象の原理とその相互作用について基礎を幅広く学び、海洋全体を包括する基盤的な「海洋科学」、又は多様な海洋生物と環境との相互作用に関する「海洋生物学」、およびこれらの境界領域を総合的に学ぶとともに専門的な技術を修得します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目		共通導入科目			
		文化学系科目			
		哲学・科学論系科目			
		社会科学系科目			
		健康・スポーツ系科目			
		外国語系科目			
専門導入科目		●基礎微積分Ⅰ＊ ●基礎微積分Ⅱ＊ ●物理学Ⅰ＊ ●物理学Ⅱ＊ ●化学Ⅰ＊ ●化学Ⅱ＊ ●生物学Ⅰ＊ ●生物学Ⅱ＊ ●地学Ⅰ＊ ●地学Ⅱ＊ ●数理解析 ●線形代数 ●技術史	●数理科学 ●物理数学 ●統計学 ●情報処理論 ●物理学実験 ●化学実験 ●生物学実験 ●地学実験		
	グローバル・ 関連科目	●TOEIC 入門＊ ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ ●海の起業論Ⅰ		●TOEIC 演習＊ ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ ●海の起業論Ⅱ	●海外派遣キャリア演習Ⅱ
専門科目	基礎専門科目	●物理学概論Ⅰ ●化学概論Ⅰ ●化学概論Ⅲ ●生物学概論 ●地球科学概論Ⅰ	●Natural Sciences ＊ ●物理学概論Ⅱ ●化学概論Ⅲ ●化学概論Ⅳ ●地球科学概論Ⅱ ●基礎海洋学 ●理科教育法Ⅰ ●理科教育法Ⅱ ●理科教育法Ⅲ ●理科教育法Ⅳ	●データサイエンス ●応用数学 ●職業指導 ●水産科教育法Ⅰ ●水産科教育法Ⅱ ●水産科教育法Ⅲ ●理科教育法Ⅴ ●理科教育法Ⅵ	
	海洋科学関連科目 海洋生物学関連科目	●水産海洋概論Ⅰ ●水産海洋概論Ⅱ ●水産海洋概論Ⅲ	●物理海洋学Ⅰ ●海底科学Ⅰ ●乗船実習Ⅰ ●環境情報解析学Ⅰ ●環境情報解析学Ⅱ ●陸水・沿岸海洋学 ●環境動態学Ⅰ ●General Oceanography ＊ ●海洋生物学Ⅰ ●海洋生物学Ⅱ ●海洋生物学Ⅲ	●環境動態学Ⅱ ●海洋環境リスク工学 ●海域連携利用論 ●数値モデリング ●海洋資源環境 ●キャリア実習 ●物理海洋学Ⅱ ●化学海洋学 ●環境生命化学Ⅰ ●環境生命化学Ⅱ ●Aquatic Biology ＊ ●環境生命化学実験 ●臨海生物学実習 ●環境生命化学Ⅱ ●海底科学Ⅱ ●海洋学実習Ⅱ ●海洋科学実験 ●海底科学実験 ●海洋生物学Ⅴ ●海洋生態学Ⅰ ●海洋生物学実験Ⅱ ●海洋生物学実験Ⅲ ●海洋生物学実験Ⅳ ●環境生命化学実験 ●臨海生物学実習	●乗船演習Ⅲ ●乗船演習Ⅳ
	卒業研究科目				●卒業論文＊ ●セミナー＊

1 週間の時間割例

〔2 年次〕基礎専門科目を中心に実験などを選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	生涯学習指導論／ 生涯学習社会論			環境動態学Ⅰ	
2	Effective EnglishⅠ	物理学概論Ⅱ データサイエンス	地球科学概論Ⅱ	化学概論Ⅲ データサイエンス 環境動態学Ⅰ	物理学概論Ⅱ 環境情報解析学 (Ⅰ,Ⅱ)
3	陸水・沿岸海洋学	General Oceanography 生物学実験 地学実験	情報処理論 Interactive EnglishⅠ	水産科教育法Ⅱ	化学概論Ⅳ 陸水・沿岸海洋学 General Oceanography
4	基礎海洋学	生物学実験 地学実験	情報処理論		地球科学概論Ⅱ 基礎海洋学
5	Natural Sciences 電気電子工学	海底科学Ⅰ 生物学実験 地学実験	電気電子工学		Natural Sciences 海底科学Ⅰ

〔3 年次〕専門科目が開講され、専門分野を自由に選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	環境生命化学Ⅰ	海洋生物学Ⅳ 沿岸海洋学Ⅱ	環境生命化学Ⅰ 沿岸海洋学Ⅱ		海洋生物学Ⅳ 数値モデリング
3	物理海洋学Ⅱ 環境生命化学Ⅱ	海底科学Ⅱ 環境動態学Ⅱ	物理海洋学Ⅱ 環境生命化学Ⅱ 海底科学実験		海底科学Ⅱ 環境動態学Ⅱ 海洋生物学実験Ⅰ
4	海洋生態学Ⅰ	応用数学	海洋生態学Ⅰ 海底科学実験		海洋生物学実験Ⅰ 応用数学
5	化学海洋学		化学海洋学 海底科学実験		海洋生物学実験Ⅰ

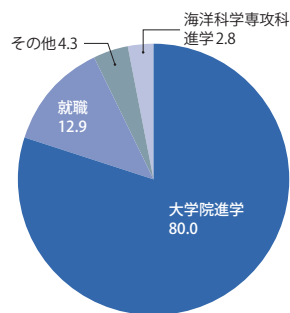
取得可能資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補
- 学芸員
- 三級海技士（航海）※

※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び、海洋科学専攻科(p.43)を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

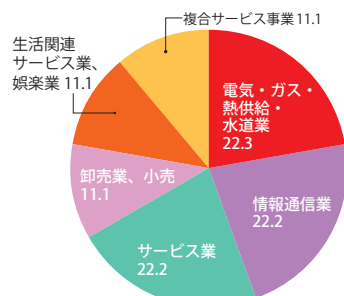
令和4年度卒業生（%）



就職先

アルファ水工コンサルタンツ、エニグモ、NTTコムウェア、オリックス水族館、海上保安庁、CLINKS、高校教員、合食、水産庁、東京電力ホールディングス、東洋信号通信社、東洋水産、東洋冷蔵、都道府県水産試験場、都道府県庁及び市区職員、全国漁業協同組合連合会、ナフコ、BML フード・サイエンス、三浦工業、三井住友海上火災保険、臨海 等

就職先業種



令和4年度卒業生産業別就職状況（%）
※進学等を除く学部卒業生の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ 物理海洋学

海洋における物理現象の探求と変動予測、黒潮、親潮、極域、海洋風成大循環、深層循環、海洋中の微細混合

■ 化学海洋学

海洋における化学物質の循環について研究

■ 生物海洋学

水圏生物の生産と環境要因との関係を研究

■ 地球流体力学

大気海洋循環力学、海洋波動、潮汐、沿岸流、渦力学、回転水槽実験

■ 気候変動力学

大気海洋相互作用と気候変動、極域海洋海水変動

■ 資源情報解析学

生物資源の生態と環境要因（場の環境）との関係

■ 衛星計測学

衛星リモートセンシングによる海洋環境変動要因の解明

■ 資源環境動態学

海洋の物理過程と生物生産の動態との関係の究明

■ 環境測定学

海洋の光および濁り環境の動態

■ 環境数理解析学

数値モデルを用いて科学の諸現象のメカニズムを探究

■ 生元素循環学

海洋生物群集が駆動する生元素循環について研究

■ 海洋無機化学

水圏における元素の溶存状態の解析やその分布などの分析

■ 海底生物地球化学

海底における生物代謝および地球化学的プロセスの研究

■ 海底物質科学

海底における金属元素の動態や分布に関する鉱物学的・地球化学的研究

■ 藻類学

海藻、淡水藻、珪藻等の分類、形態、生活史、生態等

■ 無脊椎動物学

水域の無脊椎動物の分類、形態、生活史、生態等

■ 魚類学

魚類（仔稚魚）の形態、摂餌生態、群集生態等

■ 浮遊生物学

浮遊生物の分類、生理、生態、生活史

■ 鯨類学

鯨類（クジラ・イルカ等）の生態、形態や適応戦略等

■ 海洋生態学

海洋生態系内での生物の機能と動態

■ 個体群生態学

水圏生物個体群の生態や個体数密度等の定量的研究

■ 海洋生化学

有用な環境微生物・酵素・遺伝子の探索、解析、改良、応用

■ 水圏生態化学

海洋生物由来の医薬品候補物質や毒素の化学構造と作用

■ 生体機能利用学

海洋と環境に関わる生体化学機能の解明とその有効利用

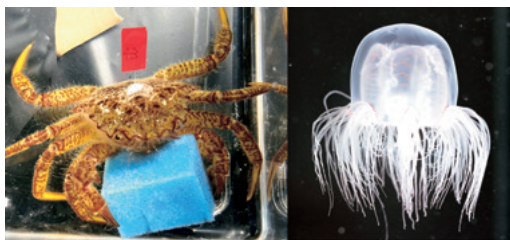
研究紹介

■ 水圏生態化学

化学の視点で海洋生物の生態に迫る

海洋生態系内には化合物を介した様々な生物間相互作用が存在します。そこには海洋生物に特徴的な生理活性物質が使われています。生物間相互作用のメカニズムを理解することは地球規模の環境問題が生態系へ与える影響を考えるために必要なことです。

本研究室では海洋生物間の化学物質を介した相互作用について、そのメカニズムを解析する研究を行っています。海洋生物が産生する有毒物質や防御物質、配偶行動をコントロールするフェロモンなど、様々な生物活性物質を分析し、生物試験することで、海洋生態系内の多彩な生物間相互作用のメカニズムを明らかにしていきます。また、これらの生物間相互作用物質を、環境の保全や医学・工学・水産学的に利用するための研究も行っています。



フェロモンに反応するクリガニの雄（左）とカミクラゲ（右）

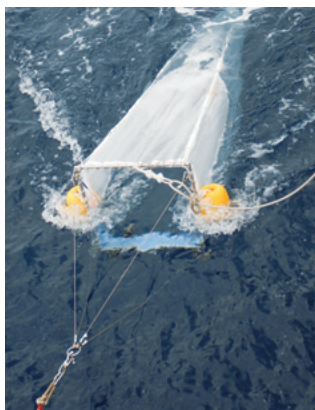
海洋生物が持つ物質の大型機器を用いた分析



■ 環境測定学

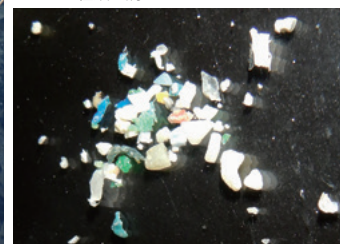
海の環境・汚染の計測手法の開発

人為的な活動により、海に様々な物質が流入し、海中に分布し環境を変化させています。海洋マイクロプラスチック（以下MPs）はその一例です。5mm以下のプラスチックがMPsと定義されています。MPsは世界中の海域に分布しており、様々な生物へ影響を及ぼしています。しかし、MPsの採取ネットのサイズより小さなMPsの濃度分布についてあまり解明が進んでいません。当研究室では、小さなMPsの測定手法の開発に取り組んでいます。またMPsの影響は多岐にわたることから、他の研究室とも共同して研究を進めています。



ニューストンネットによるマイクロプラスチックの採取

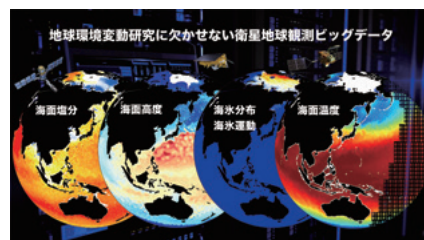
ニューストンネットで採取されたマイクロプラスチック。赤外分光分析でプラスチックの種類を調べる



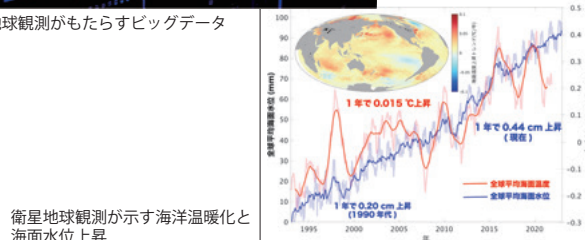
■ 海洋物理学・衛星計測学

衛星地球観測による地球環境変動研究

刻一刻と変動する地球環境は、地球環境観測衛星により常に監視されています。これは衛星地球観測と呼ばれ、地球環境の診断や変動の理解において強力な観測手段です。たとえば海面温度上昇、海面水位上昇、海水減少などが示されています。一方で、衛星地球観測を利用した社会経済活動への意思決定や、気候変動適応のための方策検討を念頭に、衛星観測ビッグデータを応用した新たな価値創出を担う人材育成が社会から要請されています。海洋物理学分野では、衛星観測に基づくビッグデータ解析、センシング技術のさらなる高精度化、海洋環境変動の指標となる新規ビッグデータの創出を行い、北極海、日本周辺海域、南極海における海洋環境変動メカニズムの解明にかかわる研究を推進しています。



衛星地球観測がもたらすビッグデータ



衛星地球観測が示す海洋温暖化と海面水位上昇

■ 藻類学

大型藻類の研究を通じた生物多様性の解明と環境保全

海藻は日本人に馴染み深い食材ですが、海藻の生き様や生育条件は意外に分かっていません。本研究室では、様々な環境から採集した海藻の形態、遺伝子、生殖・生理特性を調べ、生育環境による違いや、他の生物との関わりについて研究しています。海藻の多様性は変化に富んだ沿岸環境によって維持されていることが分かってきました。絶滅危惧種の多い淡水大型藻の生態も調査しており、希少種の保護や生育環境の保全に役立てたいと考えています。



海藻のモニタリング調査



都内で見つかった淡水産大型藻類

在学生の声

山梨県
出身

フレッシュマンセミナーで訪れた富浦の夕焼け

海洋環境科学科 2 年（男子）
山梨県立富士河口湖高等学校卒業

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

他の学部・学科との交流がある点が意外でした。特に 1 年次は海洋資源エネルギー学科と一緒に授業を受けることが多かったです。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

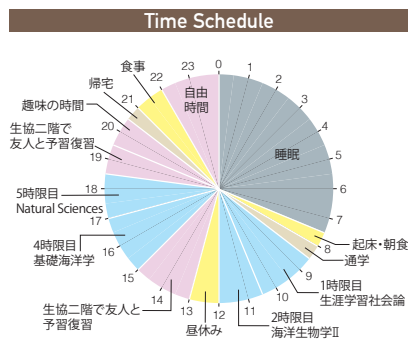
東京海洋大学ならではの授業やサークル活動に参加しているときや、様々な分野の造詣が深い人と話しているときに、この大学に入学してよかったと心の底から思います。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

1 年次のフレッシュマンセミナーでは、複数人との集団生活が大変でしたが、自由時間ではビーチコーミング（漂着物収集）や周辺の散歩などができ、友人たちとの仲を深めることができました。

◆受験生に向けて、ひとこと

他大学に比べて非常にユニークな大学で、ここできないことがたくさんあります。入学後の活動をモチベーションに頑張ってください！

埼玉県
出身

実習で使われる観測機器の準備の様子

海洋環境科学科 4 年（男子）
さいたま市立浦和高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

練習船に乗って船上生活をしているときに他の大学ではできなかったらと思うと思います。陸の全く見えない海域では夕日や星空がとても綺麗で癒されます。

◆学科の特長、ユニークなところは？

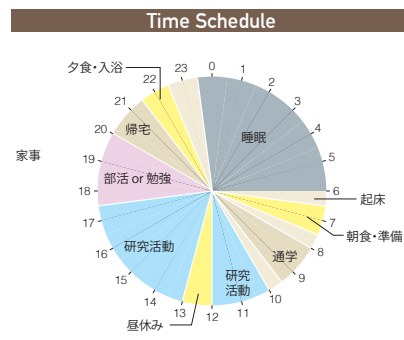
本学科で学べる海洋学は広い学問分野でありながら横断的でもあります。研究テーマの異なる人の話も自分の研究とつながっていたり知識と興味がどんどん広がります。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

陸で座って勉強した内容が、目の前の現象や体験として結びつくことが面白さだと思います。団体行動が苦手な人は苦痛かもしれませんが、友人と 1 週間以上生活をともにするのなかなかできない経験です。

◆受験生に向けて、ひとこと

学問に限らず、あらゆる興味を探求していくことが大学の楽しさです。なんとなく海に興味のある方、本学科は学問領域が広くおすすめですすよ。



卒業生からのメッセージ

田中 里実さん

2015（平成 27）年度 海洋科学部海洋環境学科卒業
仙台管区気象台 気象防災部 地域防災推進課

私は大学卒業後気象庁に入庁し、現在は仙台管区気象台で地域の防災・減災を目指して市町村の防災対策を支援したり、災害発生時には気象台職員を派遣するといった仕事をしています。

大学では化学海洋学研究室に所属し、海水に溶けている二酸化炭素の濃度を調査していました。乗船漁業実習や研究室での東京湾の観測にも参加し、気象庁で海洋観測をしていることを知り入庁しました。入庁後は海洋気象観測船に乗船し観測を行う部署に配属され、その後は約 2 年ごとに様々な部署を回っています。大学では船に乗ることも含めて珍しい実習が多く、学座だけでは知り得なかった分野にも目を向けることができたと考えています。



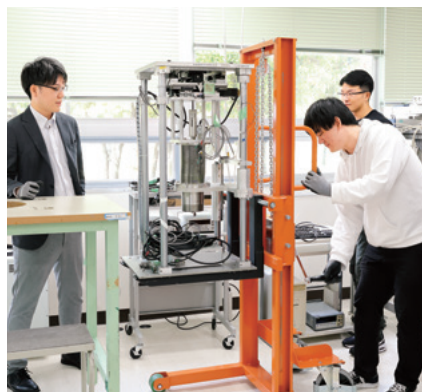
海洋資源エネルギー学科

学科の情報はこちら
(大学 HP)



海洋・海底資源の探査・計測、開発や利用と周囲環境への影響把握、海洋エネルギーに関連する大気・海水流動の解析技術、エネルギー変換、海洋・生物生態調査、海上・海中・海底における諸活動を支える計測機器、移動体、構造物に関する運用・制御などに必要な科学と技術を学び、これらについて研究します。本学科には、海洋エネルギーや海底資源利用に関連する科学技術と、海上・海中・海底における諸活動を支える海洋工学を重点的に学べるカリキュラムがあります。

環境保全を前提とした海洋開発現場で国際的に対応できる資質を備え、海洋の利用や資源・エネルギーに関連する企業、国・自治体機関での実務分野（基本設計・施工、環境影響評価、コンサルティングなど）、基礎研究分野、行政分野で活躍できる人材を育成します。



教育内容の概要

海洋・海底資源、再生可能エネルギー、環境保全、海上・海中・海底での活動に関する基礎及び専門的な知識と技術を修得させ、これらの分野における課題の設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を修得させるために、総合科目、基礎科目、専門科目等の授業及び実験・実習等で組織的教育を行います。

総合科目及び基礎科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できるように講義・演習等を通して学びます。専門科目では、海洋・海底の資源、エネルギー等について基礎を幅広く学び、再生可能エネルギーや海底資源の探査・利用に関する科学技術と、海上・海中・海底での活動を支える海洋工学を重点的に学ぶとともに専門的な技術を修得します。

4年間で学ぶ授業例

*を付した科目は必修です。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合科目	共同導入科目 文化学系科目 哲学・科学論系科目 社会科学系科目 健康・スポーツ系科目 外国語系科目			
専門導入科目	●基礎微積分Ⅰ・Ⅱ* ●地学Ⅰ・Ⅱ* ●物理学Ⅰ・Ⅱ* ●数理解析 ●化学Ⅰ・Ⅱ* ●線形代数 ●生物学Ⅰ・Ⅱ	●化学実験 ●統計学 ●生物学実験 ●情報処理論 ●地学実験 ●物理学実験 ●数理科学 ●技術史 ●物理数学		
関連科目 グローバル・キャリア	●TOEIC 入門* ●グローバルキャリア入門 ●キャリア形成論Ⅰ		●TOEIC 演習* ●海外派遣キャリア演習Ⅰ ●キャリア形成論Ⅱ	●海外派遣キャリア演習Ⅱ
基礎専門科目	●物理学概論Ⅰ* ●化学概論Ⅰ・Ⅱ ●生物学概論 ●地球科学概論Ⅰ	●Natural Sciences* ●化学概論Ⅲ・Ⅳ ●物理学概論Ⅱ* ●地球科学概論Ⅱ ●基礎工学Ⅰ・Ⅱ* ●General Engineering*	●基礎工学Ⅲ ●電気電子工学 ●職業指導 ●応用数学	
専門科目	●水産海洋概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	●海底科学Ⅰ ●海洋資源エネルギー学実習Ⅰ ●乗船実習Ⅰ	●Marine Resource and Energy* ●海底科学Ⅱ ●海域連携利用論 ●海洋資源環境キャリア実習 ●海洋資源エネルギー学実習Ⅱ ●海洋自然エネルギー学 ●海洋エネルギー工学Ⅰ・Ⅱ ●乗船実習Ⅱ ●海洋資源地球化学 ●海洋地盤工学 ●海洋資源工学 ●海洋開発学実験 ●海洋資源エネルギー学研究の最前線 ●海洋計測学 ●海上安全工学 ●海洋官能学 ●応用情報学 ●応用海洋工学実験 ●沿岸工学 ●数値モデリング	●乗船実習Ⅲ ●乗船実習Ⅳ
卒業研究科目				●卒業論文* ●セミナー*

1 週間の時間割例

〔2 年次〕基礎専門科目を中心に実験・実習などを選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		数理科学	Interactive English I	情報処理論	
2	Effective English I				物理数学
3		生物学実験／地学実験	Natural Science		化学概論Ⅱ
4		生物学実験／地学実験			物理学概論Ⅱ
5		生物学実験／地学実験	英米表象文化入門	博物館教育論	

〔3 年次〕注）主に 3 年次以降は 4 学期制となり、週 2 回講義がある。物理学、化学、生物、地学、情報解析学系の専門科目が開講され、専門分野を自由に選択できる。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	海域連携利用論		海域連携利用論	海洋地盤工学	
2	海洋エネルギー工学Ⅰ	沿岸工学	海洋エネルギー工学Ⅰ	海洋地盤工学	沿岸工学
3	海洋資源工学	海底科学Ⅱ	海洋資源工学	キャリア形成論Ⅱ	海底科学Ⅱ
4	海洋自然エネルギー学		海洋自然エネルギー学		
5	電気電子工学	海洋音響学	電気電子工学	博物館教育論	海洋音響学

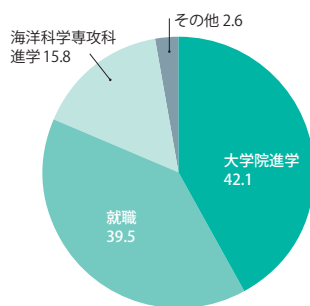
取得可能資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補
- 学芸員
- 三級海技士（航海）※

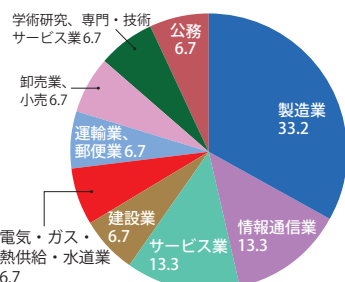
※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び、海洋科学専攻科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

令和 4 年度卒業生（%）



就職先業種



令和 4 年度卒業生産業別就職状況（%）
※進学等を除く学部卒業生の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ デバイス工学

海洋エネルギー・資源利用のための超電導・電気電子デバイスや機器の開発

■ 海洋地球化学

地球化学的・地質学的手法による海底資源に関する海洋物質循環・海洋環境の研究

■ 海洋地盤工学

海洋構造物の基礎の変形と安定、海底地盤の調査、海底斜面の崩壊、海底鉱物資源の開発

■ 海域地震学

海域地震観測による地球内部構造・地震活動の研究

■ 海洋底地質学

地質学的手法による海洋底における資源・環境・災害の評価とプロセスの解明に関する研究

■ 物理探査・地震学

地震学的手法による海陸の地下構造探査と地下環境変化の 4 次元モニタリングの研究

■ 海洋気象学

海洋の気象現象把握と気象情報を活用した再生可能エネルギーへの応用研究

■ 海洋安全工学

船舶・海上労働の安全に関する諸現象の解析

■ 応用情報学

水面下の生物等の行動を解明するためのシステム開発と実践

■ 沿岸域工学

沿岸での波浪と海浜変形、海洋構造物周辺の諸現象、沿岸防災などの研究

■ 海洋数理工学

海洋における諸現象に対して非線形力学系・複雑系の観点から数理モデルを構築し数値解析を行う

■ 海洋音響計測学

生物等を対象とした音波による水中センシング技術の開発と応用

■ 海洋生物音響学

海洋生物の音に関する研究、音を用いた行動・生態研究

■ 海洋システム制御工学

海洋クレーン、水中ピークルなど海洋機械システムの自動制御手法

■ 海洋環境化学工学

鉱物資源開発の環境影響抑制技術、海水を用いた鉱物分離技術、廃水処理技術

研究紹介

■ デバイス工学

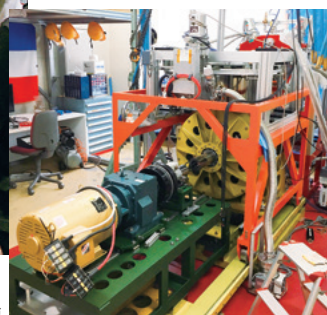
海洋エネルギー機器の高性能化を実現する 超電導回転機の開発

島国の日本において海洋資源の魅力は計り知れません。海は他の再生可能エネルギーと比べてエネルギー密度が高く、天候の変化による出力変動の少ない有望なエネルギー資源です。

私たちは、海洋エネルギー資源を無駄なく利用して持続可能社会の実現へ貢献するため、小型・軽量・高出力・高効率な超電導発電機/モータの設計・試作と、そのために必要な極限環境技術やセンシング技術などについて「ものづくり」を通じた開発を行っています。



超電導回転機の発電試験



■ 環境化学工学

環境に配慮した海底鉱物資源開発技術・ 鉱物処理技術の検討

金属資源の安定的な供給を目指し、環境に配慮した金属資源開発技術に関する研究を行っています。例えば、海底鉱物資源開発に伴って発生する金属含有廃水や尾鉱の適切な処理方法を検討しています。天然の熱水鉱石試料を用いた不溶化試験を行い、鉱物分析や地球化学モデリングによる解析を活用することで、処理に適した化学反応条件を検討します。また、微生物-鉱物反応に注目した研究にも取り組み、海底熱水鉱床の成因における海洋微生物活動の寄与や、海洋微生物を用いた新たな有用鉱物分離技術の開発を行っています。



微生物を用いた鉱物分離実験の様子



金属廃水処理実験の様子

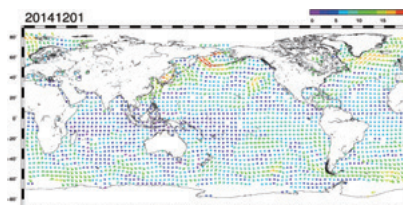
■ 海洋気象学

洋上気象現象の把握

大気と海洋は相互作用により現象を作り出しており、海洋も含めた気象現象を統一的に研究する必要があります。

しかし、洋上で時空間的に連続した海洋気象観測は容易ではありません。

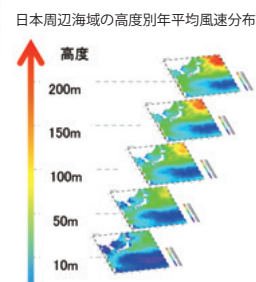
当研究室ではフィールドの観測に加えて人工衛星データや気象シミュレーションによる洋上の気象現象の把握に取り組んでいます。特に洋上風力発電に必要な海上風に関する研究を継続しており、中長期のデータ解析による建設適地の選定に貢献しています。



人工衛星搭載マイクロ波散乱計による世界の海上風観測



大規模洋上風力発電所の風車後流



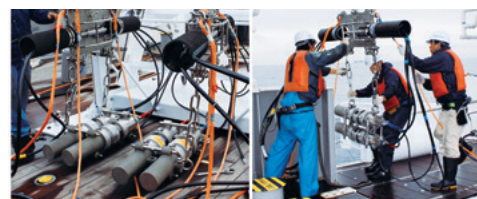
日本周辺海域の高度別年平均風速分布

■ 物理探査・地下モニタリング研究

地震波で地下を探る・診る

海洋や陸の地下には地震を発生させるプレート境界や断層、火山噴火を起こすマグマ溜、石油や鉱物などの天然資源が集まる鉱床等があります。

これらの場所では地震や噴火などの自然現象や人類による資源開発によって地下の状態が時間と共に変化し、地球環境や我々の生活にも影響を及ぼします。そこで東京海洋大学では人工地震波をつかって地下構造を探ったり、地下の状態変化を診たりするための技術開発や研究をおこなっています。



エアガン音源システムによる地震探査観測作業風景



在学生の声



神奈川県
出身

海鷹祭でのミニ水族館見学

海洋資源エネルギー学科 2 年（男子）
中央国際高等学校卒業

◆どうして東京海洋大学を選んだの？

最寄り駅が品川という立地の良さや、海洋科学を総合的に学べる国立大学ということで選びました。また、出身が海辺の町で、幼い頃から海に憧れを持っていたことも理由の一つです。

◆入学後に印象が変わった点や意外だった点は？

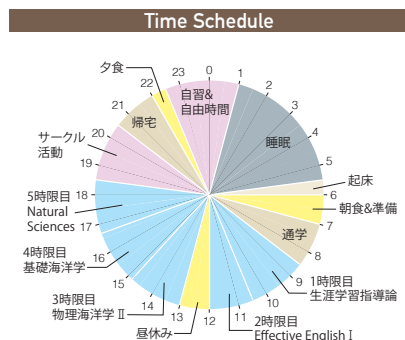
入学前、同級生は海に詳しい人ばかりだと思って身構えていたのですが、実際は想像以上に海が大好きな人からそこまで興味のない人まで色々な人がいたことが意外でした。

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

活動的な人や知識の豊富な人と会うときです。高校とは違い地方からも個性的な人がたくさん集まっているため、そういった人と話すことがよい刺激になります。

◆学科の特長、ユニークなところは？

海洋に関する工学分野を幅広く学べることです。工学だけでなく、生物の研究をしている先生がいる点も珍しいと思います。



埼玉県
出身

海洋資源環境キャリア実習 I での活動

海洋資源エネルギー学科 4 年（女子）
春日部共栄高等学校卒業

◆入学してよかったと思ったのは、どんな時？

海洋資源エネルギー学実習 II で神鷹丸に乗船したとき。エアガンや採水などの海洋調査の一端を体験する機会があり、海洋大ならではの実習といえると思います。

◆学科の特長、ユニークなところは？

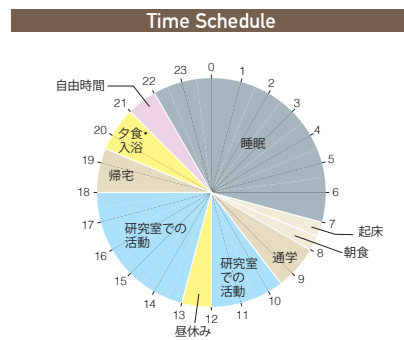
品川キャンパスで唯一工学系統の科目を学ぶ学科になっているように思います。また、様々な研究室があり、学べる分野の幅が広い点が特長であると感じています。

◆実習の楽しさ、厳しさは？

乗船機会のある実習では、船内での活動すべてが新鮮で楽しかった一方、海洋資源環境キャリア実習 I では、慣れない中での資料作成や発表準備等に苦労しました。

◆受験生に向けて、ひとこと

大学受験を突破して、自らの興味関心や好きな学びを追求できる喜びを分かち合いましょう！



卒業生からのメッセージ

池口 徳臣さん

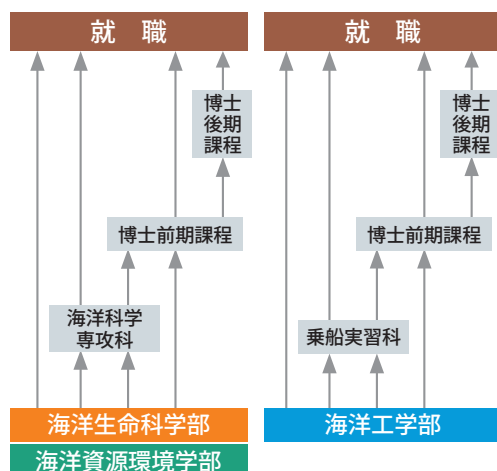
2021（令和3年）年度 海洋資源環境学部海洋資源エネルギー学科卒業
ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社 洋上風力開発本部

私は、再生可能エネルギー事業を手掛ける会社で、洋上風力発電事業のプロジェクトマネージャーを担当しています。具体的には、事業計画策定のための海底地盤調査や風況調査、風車基礎の設計や漁業共生策の検討など、幅広い業務にプロジェクトマネージャーの立場で携わっています。入学当時から再生可能エネルギーに興味があり、専門科目は「海洋開発学」を選択し、研究室では浮体式洋上風力発電に関するテーマの研究をしました。本学科の魅力は海洋資源エネルギーという幅広い分野を座学だけでなく実習での経験をふまえたうえで、より興味のある専門分野について学べることです。

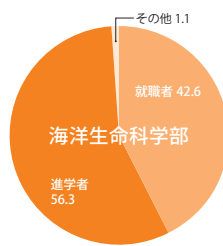


卒業後の進路について

本学では、キャリア支援センターと就職担当教員が就職支援をしています。就職ガイダンスや学内企業セミナーなどを実施し、最新の企業情報を提供しています。さらに、船舶の運航に関する高度な知識と技術を得るための海洋科学専攻科や乗船実習科、あるいは学部の専門基礎教育に立脚した高度専門職業人や先端領域を切り拓く研究者を育成する大学院海洋科学技術研究科博士前期・後期課程への進学指導も行っています。



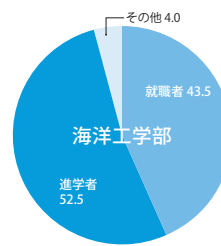
卒業後の進路



令和4年度卒業生 (%)

卒業生

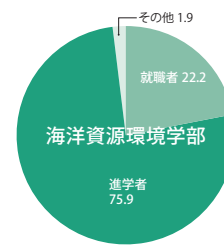
176人



令和4年度卒業生 (%)

卒業生

177人



令和4年度卒業生 (%)

卒業生

108人

専攻科・実習科

海洋科学専攻科

本学の海洋生命科学部及び海洋資源環境学部、長崎大学水産学部、鹿児島大学水産学部の卒業生に対して、1年間の課程で海洋科学専攻科を置いています。

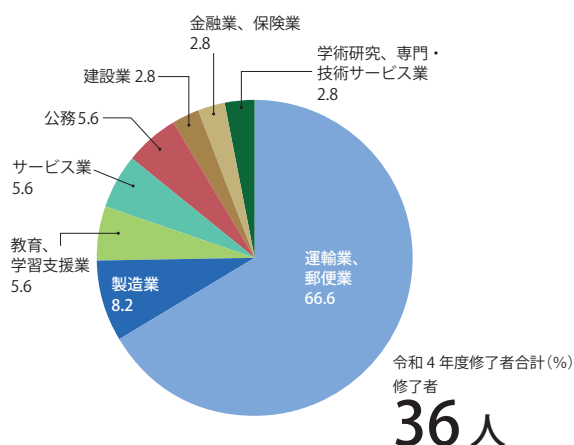


本専攻科は、海洋・水産分野における船舶の運航に関する高度な知識と技術を持った海洋人材を育てるために設置されています。

海鷹丸での航海実習や漁業実習、海洋観測実習、ならびに寄港地での学術交流等によって国際的な視野をもった優れた船舶職員の養成を図っています。

上記の学部及び本専攻科は、三級海技士（航海）の第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び本専攻科の課程を修了した者は、三級海技士（航海）の国家試験のうち筆記試験が免除されます。

就職先業種



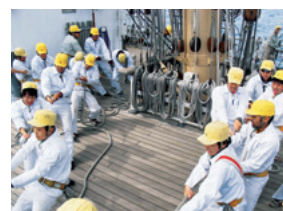
令和4年度修了者合計 (%)

修了者

36人

乗船実習科

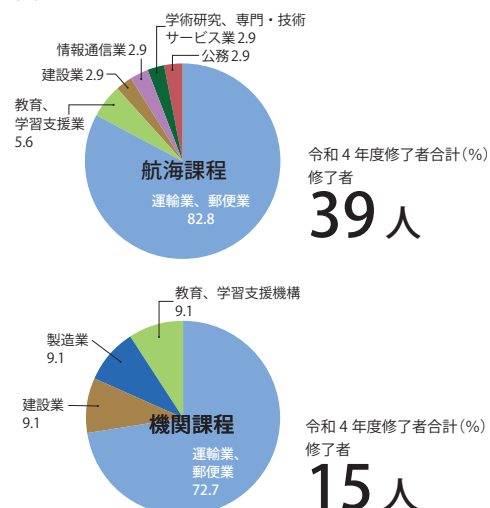
海洋工学部では、海事システム工学科及び海洋電子機械工学科・機関システム工学コースの卒業生に対して、6か月間の課程で乗船実習科を置いています。



乗船実習は、海技教育機構の帆船や汽船練習船または船社のコンテナ船、LNG船等で実習を行い、大型船の船舶職員として必要な様々な知識・技術を習得します。

また、各寄港地では現地の人達との交流を通じ、国際人としての基本を身につけます。海洋工学部は、三級海技士（航海・機関）の第一種養成施設として国の登録を受けており、乗船実習科を修了した者は、三級海技士（航海）又は三級海技士（機関）の国家試験のうち筆記試験が免除されます。

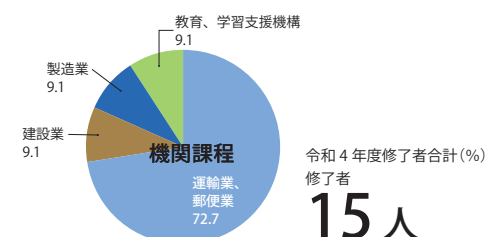
就職先業種



令和4年度修了者合計 (%)

修了者

39人



令和4年度修了者合計 (%)

修了者

15人

大学院

大学院海洋科学技術研究科

求める 学生像

時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に関わる諸問題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く意欲と能力を持つ学生

各学部それぞれの研究内容をさらに専門的に探求し、問題提起と解決を試みます。また、複雑に融合した学際領域についても新しい教育研究分野として創出し、新発見、証明、応用を目指して探求します。

本研究科は、博士前期課程と博士後期課程の2区分制となっており、博士前期課程は、「海洋生命資源科学」「食機能保全科学」「海洋資源環境学」「海洋管理政策学」「海洋システム工学」「海運ロジスティクス」「食品流通安全管理」の7専攻で構成し、学部の専門基礎教育に立脚した高度専門職業人を養成します。博士後期課程では「応用生命科学」「応用環境システム学」の2専攻で構成し、先端領域を切り拓く自立した高度専門職業人を養成します。

課程	専攻名	入学定員	専攻分野名
海洋科学技術研究科 博士前期課程 (修士課程) 総定員 228 名	海洋生命資源科学専攻	50	水圏生物学、生物資源学、海洋生物学
	食機能保全科学専攻	32	食品保全機能学、食品品質設計学
	海洋資源環境学専攻	65	海洋環境科学、海洋資源エネルギー学
	海洋管理政策学専攻	22	海洋政策学、海洋利用管理学、海洋環境文化学
	海洋システム工学専攻	19	動力システム工学、海洋機械工学、海洋サイバネティクス、海洋探査・利用工学
	海運ロジスティクス専攻	32	情報システム工学、環境システム工学、海洋テクノロジー学、海上安全テクノロジー、流通システム工学、流通経営学
	食品流通安全管理専攻	8	食品流通安全管理学
博士後期課程 (博士課程) 総定員 40 名	応用生命科学専攻	19	応用生物学、食機能利用学、応用生物学
	応用環境システム学専攻	21	海洋環境学、環境保全システム学、海洋利用システム学、海上安全テクノロジー、ロジスティクス、海洋機械システム学、産業政策文化学、海洋探査・利用工学

修学支援制度

在学期間短縮制度：

優れた業績を上げた学生が標準修業年限を短縮して早期に修了できます。

長期履修制度：

職業を有している等の事情により標準修業年限（博士前期課程は2年、博士後期課程は3年）を超えて一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修することができます。

リカレント教育の取組み

職業実践力育成プログラム（文部科学大臣認定）：

食品流通安全管理専攻では、社会的実践を学ぶケースメソッド授業等で食のリスク管理のプロフェッショナルを養成しています。

学位プログラム

海洋 AI・データサイエンス学位プログラム：

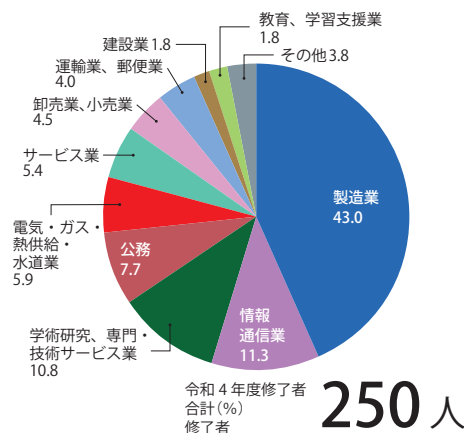
ビッグデータ解析や AI と本学が有する海洋の知見を融合し、海洋分野における AI 等の社会実装を主導する人材の育成を目的とした博士課程5年一貫プログラム「海洋 AI・データサイエンス学位プログラム」を開設しています。プログラム参加者は多様な授業・インターンシップの他、各種支援を受けることができます。詳細はプログラム Web サイトを参照ください。



主な就職先

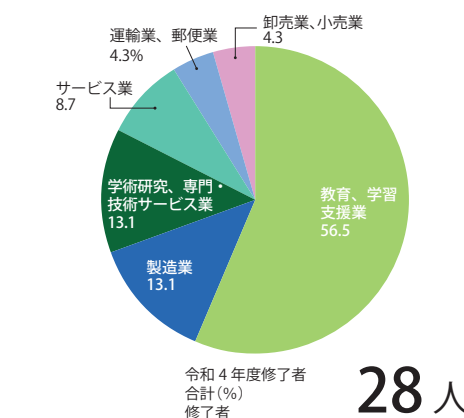
大学院 博士前期課程

就職先業種



大学院 博士後期課程

就職先業種



国際教育研究プログラム

共同学位プログラム：

海外大学との共同学位プログラム（ダブルディグリー）を積極的に進めています。

OQEOUS Plus プログラム：

上海海洋大学、韓国海洋大学、チュラロンコン大学（タイ）、カセサート大学（タイ）、マラヤ大学（マレーシア）、ボゴール農科大学（インドネシア）と本学の7大学が連携して、海洋の持続的開発と利用に関わる分野において、相互理解を深める学生の双方向教育と高度な専門能力を付与するための質的保証を伴ったプログラムを実施しています。

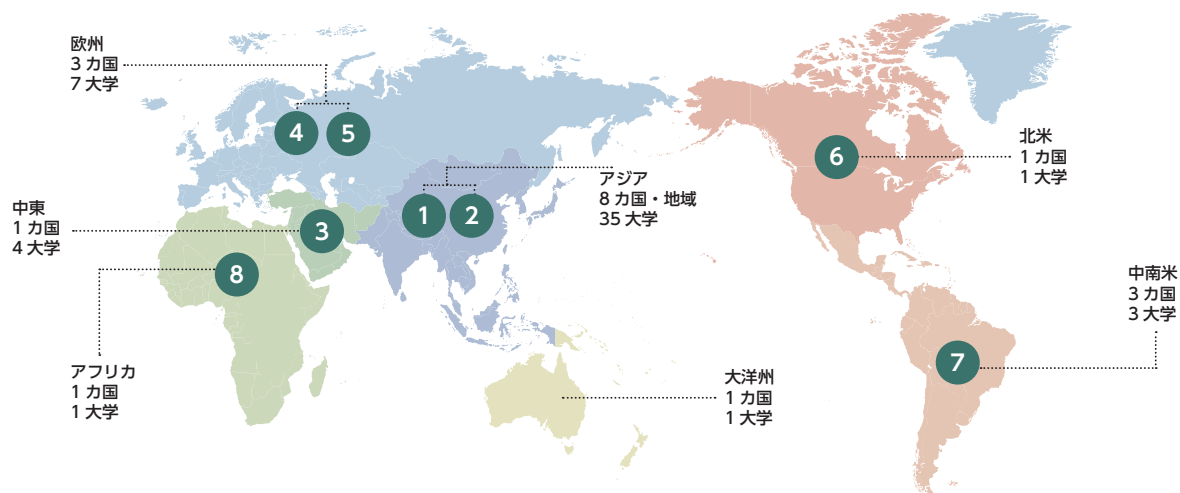


学生交流協定校への交換留学(短期派遣)

奨学金の受給があり最長1年間の留学ができる制度

世界各国の大学と短期交換留学という形で学生交流に関する協定を結んでいます。交換留学には、滞り期間中「受け入れ大学は入学金、授業料を徴収しない」「履修した科目の単位を認定できるようにする」「生活面、教育面での指導や、適当な宿舎を探せるよう受け入れ側で援助する」などいくつかのメリットがあります（本学への授業料を納入する必要がありますが、海外の大学の授業料は日本より高額なので有利です）。

学生交流協定校への学生の派遣については、いくつかの奨学金制度があり、学内での選考により受給者を決定いたします。奨学金を受給するためには、成績、語学力はもとより留学目的についての意識や留学先での学習計画について十分な準備が要求されます。



留学可能な協定大学一覧(18カ国・地域 52大学)

アジア	中国	中国海洋大学
		大連海事大学
		ハルビン商業大学
		上海海事大学
		大連海洋大学
		上海海洋大学
		広東海洋大学
		浙江海洋大学
		華東理工大学
		集美大学
		華東師範大学
		香港大学生物科学学院
	台湾	台湾海洋大学
		国立高雄科技大学
	インドネシア	国立高雄科技大学
		台湾大学理学院
		ボゴール農科大学
	韓国	ディボネゴロ大学
		ハサヌディン大学
		釜慶大学校
		全南大学校
		韓国海洋大学校
		木浦海洋大学校
		釜山大学校
		江原大学校
		仁川大学校
		フィリピン
	ベトナム	サンカルロス大学
		カンター大学
	タイ	ハノイ工科大学
		カセサート大学
		チュラロンコン大学
		プリンスオブソンクラ大学
		マエファラン大学
	マレーシア	マヒドン大学
		ワライラック大学
		マレーシア大学サバ校
中東	トルコ	エーゲ大学
		イスタンブール大学
		チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学
		ムーラ・シツッキ・コシマン大学水産学部
		オーストラリア
		タスマニア大学
		アイスランド
		アイスランド大学
		アクレリ大学
		スタバングル大学理工学部
欧州	アイスランド	アイスランド大学
		アクレリ大学
		スタバングル大学理工学部
		ノルウェー科学技術大学
		ノルウェー北極大学
	ノルウェー	ノルウェー北極大学
		ノード大学
		デンマーク
		南デンマーク大学理学部生物学科
		カナダ
北米	カナダ	ヴィクトリア大学
		ベルギー
		ラ・モリーナ国立農業大学
		ブラジル
		サンパウロ大学
		アルゼンチン
		サンマルティン大学
		アフリカ
		ナミビア
		ナミビア大学



アジア(中国)
上海海事大学



アジア(タイ)
カセサート大学



中東(トルコ)
イスタンブール大学



欧州(アイスランド)
アイスランド大学



欧州(ノルウェー)
ノルウェー科学技術大学



北米(カナダ)
ヴィクトリア大学



中南米(ブラジル)
サンパウロ大学



アフリカ(ナミビア)
ナミビア大学

留学先

スタバンゲル大学
(ノルウェー)

高角 楓さん
海洋生命科学部
食品生産科学科4年（派遣時）

私は iFOODnet のプログラムを利用して、2023 年の 9 月から 12 月にかけてノルウェーのスタバンゲル大学に留学しました。留学中は食品科学や水産養殖に関する研究所である Nofima で、魚由来のゼラチンを添加したミルクゲルの物性に関する研究を行いました。共同研究先への留学であったため研究活動が主でしたが、iFOODnet のトレーニングスクールにも参加し、サーモン養殖場の見学や食品科学にまつわる講義への参加、食品関連の研究を行っている学生との交流も行いました。また、北欧は福祉やジェンダー平等の考え方が進んでいることから、専門とは異なりますが大学ではジェンダー論の授業を受講しまし

た。公用語はノルウェー語ですが、広く英語が通じるため、快適に生活することができました。休日はハイキングコースを散歩したり、各地で開催されるクリスマスマーケットを訪れたりして過ごしました。日常生活、研究や語学力などの面で心が折れそうになることもありましたが、価値観や文化が全く異なる環境に身を置いて生活したことで、英語力が向上しただけでなく、研究や人との向き合い方を見つめ直すきっかけとなりました。この経験は帰国後の研究生活や将来設計にも大きく影響していると感じています。研究室配属後でも留学の機会があるので、指導教員に相談して挑戦してみることをお勧めします。



留学先

アークレイリ大学
(アイスランド)

山口 太誠さん
海洋資源環境学部
海洋環境科学科3年（派遣時）

私は 2023 年 8 月からアイスランド北部のアークレイリ大学に約 5 ヶ月間留学していました。アークレイリという町は私以外の日本人を一切見かけることがなく、冬場は常に氷点下という非常に寒い都市ではありますが、壮大な滝や湖、神秘的なオーロラを見ることができる大自然の魅力が溢れた場所です。授業では、講義だけではなく美術館や歴史博物館を見学したりフィヨルド地域を散策するフィールドワークにも参加したりすることでアイスランドの文化や価値観を肌で感じることができました。また、授業以外にも北極圏国際会議に自らボランティアとして参加し、国際的な海洋問題について理解を深められました。授業がない休日は、友人と車を借りて

ロードトリップに行き、ホエールウォッチング、アイスホッケー観戦、ハイキングなどアイスランドならではのアクティビティを満喫し、心に残る思い出を作ることができました。留学当初は、環境が全く異なる生活に慣れるまでにかなりの苦労や失敗を経験して悩むこともありましたが、しかし、周りの人に積極的に自分の気持ちを伝える意識を持ち、お互いのバックグラウンドや文化を共有し理解合うことで、どんな困難も年齢や国籍が異なる友人と一緒に乗り越えることができました。留学において大切なことは、新しい世界に飛び込む勇気と純粋な好奇心です。今の自分よりさらに成長したいという方には、交換留学に挑戦してみることを強くおすすめします。



留学先

ヴィクトリア大学
(カナダ)

池田 祐己さん
海洋資源環境学部
海洋環境科学科4年（派遣時）

2023 年 7 月から 2023 年 12 月の 6 ヶ月間、カナダのヴィクトリア大学へ交換留学を行いました。

最初の 2 ヶ月間は、付属の語学学校で英語を学習し、残りの 4 ヶ月で自分の専門分野である海洋物理学を学びました。語学学校の授業は、4 技能を満遍なく学べるように工夫されており、英語力の向上に繋がりました。海洋物理の授業は、天文学、物理学、地学、数学などの他の分野を専攻している学生も多く受講しており、授業中の先生への質問が多様で面白かったです。課題では Python を使用して数値シミュレーションの結果を解析し、グループで問題解決に取り組みました。研究室では、学生間だけでなく先生間でもディス

カッションが頻繁に行われており、一人ではなく、他の人と協力して問題を解決することが重要視されている印象を受けました。語学学校の授業、専門分野の授業、そして研究室ゼミの全てにプレゼンテーションの機会があり、非常に良い経験となりました。休日には、友達とホームパーティやバーベキューなどをして、カナダの食文化を知ることができました。夏はとても過ごしやすかったので、トレッキングやカヤックを楽しみました。留学にあたり、語学力に不安を感じる方も多いと思いますが、語学ができるから留学するのではなく、留学したことで少しずつ語学もできるようになったという側面が強いと思うので、機会があればぜひ挑戦してみてください。



地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 世界戦略魚の作出を目指したタイ原産魚介類の 家魚化と養魚法の構築

世界人口の増加や気候変動等による食料不足への懸念が高まっています。食料を増産するための養殖が世界中で注目されています。近年、養殖による生産量は増大しています。しかし、海外で養殖されている魚介類の多くは生産国にとっては外来種であり、自然界へ逃亡した際の生態系への影響が懸念されています。

東京海洋大学は海外の大学や研究機関と協力して研究を進めています。その中で本研究はタイ原産魚介類であるアジアスズキ（パラマンディ）とバナナエビを世界中で食べられ

ようになる「世界戦略魚」の主な研究対象種とし、タイの国立水産研究機関や大学と共同研究を進めています。

タイとの共同研究では魚介類を家畜のように飼育しやすい家魚化を行うための養殖技術の開発、ゲノム情報を基盤とした育種技術の開発、感染症防除法の開発、餌の改良による効率的な生産技術の開発、天然個体のもつ多様な遺伝子資源を永久保存し、そこから個体を作る技術の開発を進めています。

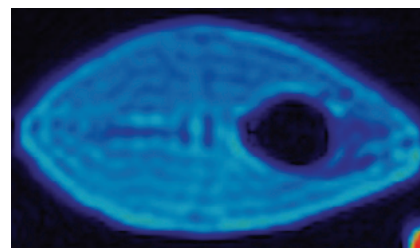
将来、本研究による成果は持続的で安定な食料生産の発展に貢献できると考えています。



非破壊分析による Fish Welfare と 鮮魚品質の関係解明

近年、日本では水産物の輸出量が増加しています。しかし、それらの多くはアジア向けであり、EUを中心とする欧米向けの輸出はあまり多くありません。その理由の1つとして、EUを中心に重視される Fish Welfare という概念が日本では浸透していないという問題があります。Fish Welfare とは魚などが身体的および心理的に苦痛を受けない状態と定義されており、健康的にストレスなく漁獲もしくは養殖されることが必要とされます。科学的には、魚がストレスを受けると血液中で増加するコルチゾールなどの成分を分析すること

で Fish Welfare を評価できます。一方で、魚を食品として捉えた場合にトレーサビリティの観点から、血液分析ではなく、魚の切り身の状態で Fish Welfare を分析評価できることが欠かせません。東京海洋大学食品生産科学科では、水産大国ノルウェーの中核的水産研究機関である Nofima との共同研究により、Fish Welfare を魚の切り身の状態で迅速に分析する方法を開発しています。本研究は欧米への水産物輸出増加とそれに伴う水産に関わる人々の所得向上につながることから、日本の水産業発展への貢献が期待されます。



学生交流

OQEAUNOUS Plus プログラム (オケアヌス プラス プログラム)

これまで取り組んできた日中韓の海洋系3大学（東京海洋大学、上海海洋大学、韓国海洋大学校）によるプログラムに ASEAN 諸国の4大学（チュラロンコン大学、カセサート大学、マラヤ大学、ボゴール農科大学）を加えて、日中韓と ASEAN 諸国が一体となった教育交流プログラムであり、令和3年度「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。持続可能な海洋開発・利用の分野において、相互理解を深める学生の双方向教育と問題解決の高度な専門能力を付与するための大

学院レベルでの質的保証を伴った単位互換制度を実現し、7大学間の学生相互派遣事業を展開しています。

本プログラムの IJP（国際協働教育プログラム：4ヵ月程度、6単位以上取得）及び STP（ショートタームプログラム：2週間程度、2単位取得）は、学部4年生でも参加することができます。また、本プログラムで取得した単位は、大学院先行履修制度により、大学院に進学した際の博士前期課程選択科目に含めることができます。



韓国海洋大学校でのフィールドワーク風景



いであ環境創造研究所での実習風景

練習船



うみたかまる
海鷹丸
[1,886 トン]

最新の航海計器、観測機器を搭載し、南極海を含む世界中の海を行動範囲として、航海技術のみならず、水産・海洋に対する高度な知識と海上技術を身につけた学生の養成を行っています。

また、漁業実習・海洋観測やマイクロプラスチックなど漂流物の観測を通して、環境の保全や、地球環境の変動など人類を含む地球上の生物に影響を与える事象の調査・研究に従事しています。



しんようまる
神鷹丸
[986 トン]

日本周辺から太平洋赤道海域までを航海し、水産・海洋に関する実習、海技教育などに取り組み、高度な海上技術者を養成しています。海中はもちろんのこと海底下までも調査できる最新鋭の観測装置を搭載しています。近年ではプラスチックゴミ等の海洋汚染の実態調査・研究にも従事しています。



しおじまる
汐路丸
[775 トン]

本学の全ての学部学生、大学院生等を乗船対象者として運航するために様々な工夫を施し、2021年10月13日に就航しました。先代汐路丸と青鷹丸が行ってきた船舶職員の養成、海技必修科目の実習、海洋環境観測等を引き継ぎ、最新の海洋環境観測設備類を装備して、海事産業の人材育成や研究機能を併せ持つ、海洋系総合大学の練習船として大いに活躍する練習船です。

水圏科学フィールド教育研究センター



館山ステーション(千葉)

海洋環境、海洋生物に関する実習と、養殖技術、海洋生物の研究を行っています。館山湾奥には支所があり、水泳・漕艇・操船・漁業・環境観測に関する実習を行う他、練習船の停泊地としても機能しています。



大泉ステーション(山梨)

八ヶ岳山麓の敷地内にある大湧水の豊富な水を使い、ニジマス、ヤマメ、イワナ等の冷水性淡水魚類を飼育しています。生物生産や生物保全、さらに食品科学に関連した基礎から応用までの幅広い実験・実習を行っています。



清水ステーション(静岡)

一万平方メートルを越える占有海面は取水・排水権を有し、研究者が自由に海面を使用できる施設となっています。船舶や海洋構造物の防食・防汚性に関する研究、バラスト水処理装置の実海試験、海洋微生物電池の開発研究等を行っています。



富浦ステーション(千葉)

操船や水泳、水圏環境に関する実習、新入生のオリエンテーション、フレッシュマンセミナー、クラブ活動の合宿等に使用されています。



吉田ステーション(静岡)

ウナギ・アユ・コイ・金魚等の温水性淡水魚を中心に飼育しています。水族病理学や水族養殖・育種学、食品生産学などに関連した基礎から応用までの幅広い実習と研究を行っています。

施設紹介

グローバル教育研究推進機構（グローバルコモン）



本学では、一定の英語能力を学部4年次への進級要件として課しています（海洋生命科学部・海洋資源環境学部：TOEIC L&R スコア 600 点、海洋工学部：CEFR B 1 レベル）。

品川キャンパスに設置されたグローバルコモンには、英語学習のための各種教材を揃えとともに、自習スペース（個人ブース 20 席、スピーキング練習用防音ブース 3 室）を設け、個人のレベルに合わせた学習環境を提供しています。また、英語学習アドバイザーによるサポートを行うとともに、海外派遣キャリア演習及び長期学外実習（海外）に関する情報も提供しています。

越中島キャンパスの附属図書館にも個人ブース 3 席がある英語学習スペースを設け、教材を充実させています。

マリンサイエンスミュージアム（品川キャンパス）



明治 35 年、旧東京水産大学の前身である農商務省水産講習所にできた標本室に始まります。

本館は平成 28 年 1 月に改修し、海の生き物の標本や漁具などの展示を通じて、海洋生物や海と人との関わりを紹介しています。また、別館にセミクジラなど大型鯨類の骨格標本を展示している「鯨ギャラリー」があります。

明治丸海事ミュージアム（越中島キャンパス）



国の重要文化財「明治丸」と百周年記念資料館、明治丸記念館及び現存する日本最古の2つの天文台（第一、第二観測台（登録有形文化財））等から構成され、「海洋立国日本」の歴史と文化を学ぶ場としての役割を担うとともに、越中島キャンパスに接する水辺やキャンパス内の緑が織り成す豊かな自然環境と融合して、地域に開かれた多様な文化交流の場の創出を目指しています。

附属図書館（両キャンパス）

旧東京商船大学と旧東京水産大学の附属図書館の蔵書を継承し、海洋に関する古今東西の専門書を豊富に所蔵しています。また、電子ジャーナル等の電子的コンテンツやツールの導入・維持にも積極的に取り組み、本学における学習支援及び研究活動に即した支援等、学術情報基盤の整備を継続して行っています。

保健管理センター（両キャンパス）

医師、看護師等のスタッフが中心となって、学生と教職員の健康診断や健康相談、メンタルヘルスのためのカウンセリング、簡単な疾病の治療、けがの応急処置、病院の紹介を行っています。大学の感染対策や実習に参加する学生の健康管理にも取り組んでいます。

総合情報基盤センター（両キャンパス）

ネットワーク・サーバの管理、コンピューターを利用する教育・研究の支援を行っています。SINET（学術情報ネットワーク）を通じ外部と接続し、学内外との電子情報交換窓口としての役割を果たしています。

キャンパスライフ Campus Life

学食・生協



海王祭実行委員会

越中島キャンパスの学園祭「海王祭」の企画運営を行う委員会です。

海洋工学部学生会

越中島キャンパスに所属する各団体が十分な活動を行うための支援をしています。

海鷹祭実行委員会

品川キャンパスの学園祭「海鷹祭」の企画運営を行う委員会です。

品川キャンパス自治委員会

品川キャンパスに通う学部学生がサークル活動や海鷹祭をより有意義なものにできるよう支援しています。



大学祭

学生が主体となって運営する大学祭は、越中島キャンパスと品川キャンパスでそれぞれ開催されます。

越中島 キャンパス



海王祭

プラネタリウム公開、模擬店、ステージ企画、写真展、茶会、ビンゴ大会、調査研究船「やよい」試乗会を行うとともに海洋工学部の一般公開を兼ねて、研究室、実験室、重要文化財「明治丸」、百周年記念資料館を公開しています。

品川 キャンパス



海鷹祭

11月上旬 開催

マグロの解体、切り身の即売、ウミガメの標本の展示、ニジマスの薫製作成実演等、海と「さかな」に関するものが盛り沢山です。各サークルによる研究活動の発表、バンドライブなどのイベントもにぎやかです。また、マリンサイエンスミュージアムでは学芸員を目指す学生が展示品の説明をします。

年間スケジュール

4月

5月

6月

7月

8月

入学式
オリエンテーション
定期健康診断

大学祭(越中島
キャンパス海王祭)

夏季休業
「海の日」記念行事

クラブ・サークル

一般的なクラブのほかには海洋に関するユニークなものもあります。

海鷹祭実行委員会

私たちと一緒に海鷹祭を盛り上げましょう！！



動植物研究会

初心者からマニアまで！
生き物系サークルです



水産生物研究会

素潜りなどで採集した生物の飼育と研究を行っています！



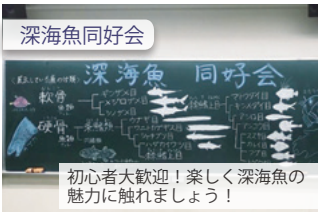
ESS

私たちと一緒に英語力を鍛えませんか？



深海魚同好会

初心者大歓迎！楽しく深海魚の
魅力に触れましょう！



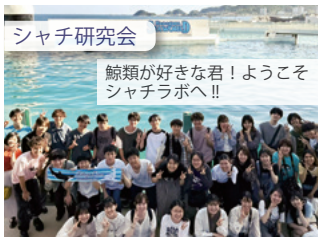
潜水部

海洋大生ならダイビングを



シャチ研究会

鯨類が好きな君！ようこそ
シャチラブへ！！



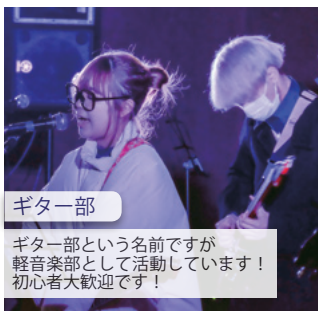
バスケットボール部

一緒にバスケしましょう！



ギター部

ギター部という名前ですが
軽音楽部として活動しています！
初心者大歓迎です！



空手道部

初心者も経験者も活躍中！
空手やろう



ダンス部

EXSEAD で一生の思い出を
沢山作りましょう！



軟式野球部

一緒に野球を楽しみましょう！



サッカー部

サッカーやろうぜ！



国際交流サークル

留学生と関われるチャンスです！



剣道部

初心者でも経験者でもぜひ来てください！



合気道部

初心者大歓迎！
合気道を体験してみませんか



9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

9月期学位記・
修了証書授与式

10月期入学式

大学祭
(品川キャンパス海鷹祭)

冬季休業

学位記・
修了証書授与式
春季休業

柔道部



未経験者も経験者も共に部活しましょう！

フットサル部



初心者大歓迎！一緒に楽しくフットサルをしましょう！

漕艇部

初心者大歓迎！！日本一へ共に漕ぎだしましょう！



楽しく真剣にテニス！初心者も大歓迎！



硬式テニス部



ヨット部

初心者大大大歓迎！最後の学生生活はヨット部で！！

水泳部

いっしょに泳ぎましょう！



ソフトテニス部

とにかく楽しくやっています！！



オーケストラ部



みんなで音楽を楽しみましょう！



CityMusic 部

一緒に自由な音楽を楽しみましょう！

ボードセーリング部

海と共に最高の青春を



うみがめ研究会

カメラ好きもそうでない人も、みんなかめ研へ！！

学生自治団体

- 品川キャンパス自治委員会
- 海洋工学部学生会
- 海洋工学部学友会
- 海王祭実行委員会
- 海鷹祭実行委員会
- サークル委員会

運動系クラブ・サークル

- カッター部
- サッカー部
- ソフトテニス部
- ネットボール部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- フットサル部
- ボードセーリング部
- 漕艇(ボート)部
- ヨット部
- ラグビー部
- 弓道部
- 空手道部
- 剣道部
- 硬式庭球部(品川地区)
- 硬式庭球部(越中島地区)
- 硬式野球部
- 合気道部
- 山岳部
- 柔道部
- 女子カッター部
- 男子カッター部
- 女子バレーボール部
- 軟式野球部
- 水泳部
- 卓球部
- 男子バレーボール部
- 木曜会
- 陸上競技部

文化系クラブ・サークル

- ESS
- Killer Whale lab. (シャチラボ)
- アウトドアライフ同好会
- うみがめ研究会
- オーケストラ部
- ギター部
- シティミュージック部
- ダンス部
- ビート・シャークス・ジャズ・オーケストラ部
- フォークソング部
- プラスバンド部
- ロボット研究会
- 海事普及会
- 海洋研究会
- 合唱部
- 国際交流サークル
- 写真部
- 水産生物研究会
- 潜水部
- 茶道部
- 釣り研究同好会
- 動物植物研究会
- 美術部
- 軽音楽部
- 天文学部
- サメ・エイ研究同好会ふかふか
- 越中島写真部
- 深海魚同好会

学生支援・相談

【学生相談体制について(主なもの)】

※その他、相談内容に合わせた相談体制となっています。

● 学生支援教員制度

学生支援教員制度は、毎年新入生を対象として、学部学科ごとに複数名の教員が、入学から卒業するまでの4年間にわたり、修学支援を行う制度です。具体的には、勉学上・進路上的の悩みをはじめ、学生生活全般にわたる相談事に対し担当教員から適切なアドバイスが受けられます。

● 学生相談(カウンセリング)

施設紹介のページの「保健管理センター」でも、ご案内していますが、学生生活、進路、対人関係等で悩みがある場合は、各キャンパスの専門カウンセラーに相談することができます。

授業料等

入学に要する費用（予定）

- 入学科 **282,000円**
- 授業料 **535,800円** (年額)
- その他 テキスト代の費用

※入学時及び在学中に入学に要する費用の改定を行った場合は、改定した時から新入学科及び新授業料が適用されます。

入学科免除・授業料免除

下記日本学生支援機構の給付奨学金と連動した入学科・授業料免除を実施しています。

制度の詳細は以下の文部科学省特設 HP よりご確認ください。
<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>



※入学科並びに授業料は申請すれば納付期限を一定期間猶予することが可能です。

奨学金

日本学生支援機構奨学生

経済的理由で修学が困難な優れた学生に学資の貸与を行い、また、経済・社会情勢等を踏まえ、学生等が安心して学べるよう、「貸与」または「給付」する制度です。

■奨学金には、「貸与型」の奨学金と「給付型」の奨学金があります。

制度の詳細は以下の日本学生支援機構 HP よりご確認ください。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/index.html>



学業優秀学生奨学金

■ 博士後期課程進学者への奨学金（大学院生対象）

成績優秀な博士前期課程在籍者のうち、博士後期課程へ進学する者を対象に支給される奨学金です。年間 10 位以内に、10 万円を上限に支給します。

修学支援事業基金による学資支給事業（給付型）

■ 日本学生支援機構給付型奨学金（と連動した授業料免除）について審査の結果、対象外となった学生（若干名）に対して、大学への寄付金を活用して、1 人 10 万円を支給する奨学金制度です。

経済支援給付制度

学資負担者の経済状況の悪化により、家計が急変した学生への経済支援制度

各種保険

学生教育研究災害傷害保険（学研災）

教育研究活動中の事故による災害保障制度で、3,300 円（4 年間分）の保険料です。正課・学校行事・課外活動中・通学中に傷害を被った場合、約款の定めるところにより、死亡保険金、後遺傷害保険金および医療保険金が支払われます。

学生教育研究賠償責任保険（学研賠）

学生が、正課中、学校行事中およびその活動を行うための往復中で、学生の被る種々の賠償責任事故に対する被害救済の保険制度で、1,360 円（4 年間分）の保険料です。ただし、この保険に加入

するには上記の学生教育研究災害傷害保険に加入していなければなりません。 ※こちらの保険は、課外活動中での事故は補償の対象外です。

学研災付帯学生生活総合保険

上記の「学研災」と「学研賠」には全学生が必ず加入しますが、これらの保険の補償内容を更に充実させた制度として、この学研災付帯学生生活総合保険が新設されました。内容は、自主参加のインターンシップやボランティア・アルバイト活動など正課・学校行事以外の分野も含め 24 時間補償されます。保険料は 4 年間約 35,000 ～ 70,000 円です。

※大学に届け出たインターンシップは学研災及び学研賠で補償されます。

東京海洋大学校友会

東京海洋大学校友会

本学と卒業生や各種卒業生団体、大学の教職員、学部学生、大学院生、留学生さらには在学生の保護者の方々を含めた連携強化を目的として、「オール海洋大」で構成し、交流促進、相互支援、最新情報の共有化などの交流の場として本学の絆をつなぎます。（入会金、年会費無料）

校友会の主な事業

- 校友会システムを活用した校友同士の情報発信や卒業生 OB、OG との交流支援
- ホームカミングデー等の開催による校友相互の交流支援
- 留学生を含む校友間の海外交流支援等

学生寮

学生に生活と勉学を提供し、修学上の便宜を図るために、品川・越中島両キャンパス内に設置されています。どちらの学生寮とも、JR・京浜急行品川駅や JR 越中島駅の徒歩圏内と都心へのアクセスが便利です。

※現行の学生寮（朋鷹寮）は、2026 年 3 月に使用終了となります。2025 年度の入寮募集期間は、2025 年 4 月～2026 年 3 月の 1 年間とします。2026 年 4 月に開設を予定している「品川キャンパス国際混住寮（仮称）」については、本学ホームページ「品川キャンパス国際混住寮（仮称）」の整備事業に関するお知らせ（URL: <https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/docs/post-86.html>）において適宜、ご案内していく予定です。



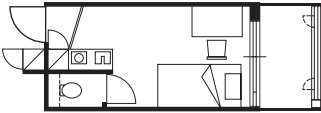
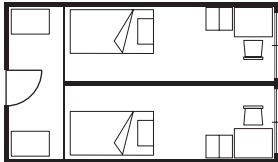
朋鷹寮（品川キャンパス）

海王寮（越中島キャンパス）

施設及び設備の概要

	朋鷹寮（品川キャンパス）	海王寮（越中島キャンパス）
住 所	〒108-0075 東京都港区港南 4-5-7 最寄駅：品川駅（JR・京急線）徒歩 15 分 天王洲アイル駅（りんかい線・東京モノレール）徒歩 10 分	〒135-0044 東京都江東区越中島 2-2-8 最寄駅：越中島駅（JR 京葉線・武蔵野線）徒歩 2 分 門前仲町駅（地下鉄東西線・大江戸線）徒歩 10 分 月島駅（地下鉄有楽町線・大江戸線）徒歩 10 分
建 物	鉄筋コンクリート 5 階建 2 棟	鉄筋コンクリート 4 階建 4 棟、2 階建 1 棟
居 室	224 室【洋室・個室】	334 室【洋室・準個室】 （1 室を 2 部屋に区切り 2 人で使用）男子 129 室、女子 38 室
面 積	男子寮、女子寮共：12.25㎡／居室	男子寮、女子寮共：約 12.5㎡／1 人あたり
設 備	ベッド、机、椅子、本棚、ロッカー、テレビ端子、エアコン ミニキッチン、ユニットトイレ ※毛布、ふとん等は各自準備してください。	ベッド、机、椅子、本棚、ロッカー、テレビ端子、エアコン LAN ケーブル端子 ※毛布、ふとん・ベッドマット等は各自準備してください。
共用設備	●1 階 …… 事務室、多目的ホール、放送室、寮委員室、 自動販売機コーナー、荷物専用エレベーター、 洗濯室・シャワー室（浴槽なし）、トイレ、倉庫、 メールボックス等 ●2～5 階 …… 洗濯室・シャワー室（浴槽なし）、談話室 ※全館防犯カメラ設置、エントランスオートロック完備	●1～4 寮 …… 談話室（ミニキッチン）、洗濯室、洗面所、ト イレ、女子用シャワー室（女子棟 2・4 階の み）、自動販売機（1 階のみ）、メールボッ クス（1 階のみ） ●5 寮 1 階 …… 男子用共同浴場・男子用シャワー室、会議室、 多目的ホール、物品庫等 ●5 寮 2 階 …… 談話室（ミニキッチン）、洗濯室、洗面所、ト イレ、トランクルーム等 ※全館防犯カメラ設置、エントランスオートロック完備 ※エレベーターはありません

学生寮の経費

	朋鷹寮（品川キャンパス）	海王寮（越中島キャンパス）
寄 宿 料	1 年間 56,400 円（月額 4,700 円）	1 年間 36,000 円（月額 3,000 円）【タイプ I の場合】
光 熱 水 費 等	1 年間 約 48,000 円（月額 約 4,000 円）	1 年間 約 54,000 円（月額 約 4,500 円）
入 寮 費	30,000 円（入寮時のみ）	30,000 円（入寮時のみ）
諸 経 費	朋鷹寮自治会が別途徴収 1 年間 /24,000 円（月額 2,000 円）、500 円（入寮時のみ）	海王寮寮務委員会が別途徴収 1 年間 /45,600 円（月額 3,800 円）、7,000 円（入寮時のみ）
共 益 費	1 年間 /38,400 円（月額 3,200 円）	1 年間 /38,400 円（月額 3,200 円）
間 取 り	 	 

※入寮時には、寄宿料・諸経費・光熱水費・共益費を 6 ヶ月分まとめて徴収します。徴収方法等については入寮選考結果と共にお知らせします。

※経費負担については、全体的に見直しを検討しており、変更の可能性があります。変更の際は、大学 HP や入試募集要項にてお知らせします。

学生寮の選考方法 通学の困難度（片道の通学時間が 2 時間以上のものを優先）及び家庭の経済状況（本学所定の選考基準により算出した「家計評価」による）を考慮し選考します。 ※選考方法は変更の可能性があります。変更の際は、大学 HP や入試募集要項にてお知らせします。	学生寮の応募方法 詳細は、入試募集要項又は大学 HP「学生寮」のページをご覧ください。
--	---

入寮についての問い合わせ先／学生サービス課学生生活係 TEL.03-5463-0433／0429

もっと詳しく知りたい方は大学 HP → 学生生活 → 学生寮

入試概要

2025 年度 募集人員

学部	学 科	入学定員	募集人員										私費外国人留学生
			一般選抜		総合型選抜						学校推薦型選抜		
			前期日程	後期日程	A（一般）	B（専門学科・総合学科卒業生）	CⅠ型（帰国生徒）	CⅡ型（留学経験者）	D（商船教員養成コース）	E（社会人）	A（一般）	B（専門学科・総合学科卒業生）	
海洋生命科学学部	海洋生物資源学科 〈水産教員養成課程〉	68 ③	42 ③	18 —	8 若干名	— —	若干名 —	若干名 —	— —	若干名 —	— —	若干名 若干名	若干名
	食品生産科学科 〈水産教員養成課程〉	55 ③	30 ②	14 —	— —	— —	若干名 —	若干名 —	— —	若干名 —	10 —	1 ①	若干名
	海洋政策文化学科 〈水産教員養成課程〉	40 ①	21 ①	12 —	5 —	若干名 —	若干名 —	若干名 —	— —	若干名 —	2 —	— —	若干名
	小 計	170 (163 + ⑦)	93 ⑥	44	13	若干名	若干名	若干名	—	若干名	12	1 ①	若干名
	海洋工学部	海事システム工学科	59	36	14	7	2	若干名	—	—	若干名	—	—
海洋工学部	海洋電子機械工学科	59	34	14	6	3	若干名	—	2	若干名	—	—	若干名
海洋工学部	流通情報工学科	42	20	14	7	1	若干名	—	—	若干名	—	—	若干名
海洋工学部	小 計	160	90	42	20	6	若干名	—	2	若干名	—	—	若干名
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	62	37 ※	14 ※	—	—	若干名	若干名	—	若干名	11	若干名	若干名
	海洋資源エネルギー学科	43	27 ※	11 ※	—	—	若干名	若干名	—	若干名	5	若干名	若干名
	小 計	105	64	25	—	—	若干名	若干名	—	若干名	16	若干名	若干名
合 計		435 (428 + ⑦)	247 ⑥	111	33	6	若干名	若干名	2	若干名	28	1 ①	若干名

※海洋生命科学部及び海洋工学部の一般選抜は、第1志望学科のみ志願することができます。
海洋資源環境学部の一般選抜は、前期日程・後期日程とも海洋資源環境学部の2学科間で、第2志望を認めます。

- (注1) 総合型選抜 A は一般、総合型選抜 B は専門学科・総合学科卒業生、総合型選抜 E は社会人をそれぞれ対象とした選抜です。
(注2) 総合型選抜 CⅠは帰国生徒を対象とした選抜です。
(注3) 総合型選抜 CⅡは日本の高等学校在籍中に1年 (School Year) 以上の海外留学経験を有する者を対象とした選抜です。
(注4) 総合型選抜 D (商船教員養成コース) は水産・海洋系高等学校、または水産・海洋系の学科あるいはコースを持つ高等学校の教員を養成するコースです。
(注5) 学校推薦型選抜 A は公募制の選抜です。学校推薦型選抜 B は専門学科・総合学科卒業生 (水産・海洋系) を対象とした公募制の選抜です。
(注6) 海洋生命科学部の入学定員小計 170 人には、水産教員養成課程の7人を含みます。○印の数は、水産教員養成課程の募集人員で外数です。○印のつかない一般と区別します。
(注7) 海洋生命科学部海洋生物資源学科の前期日程の水産教員養成課程の募集人員には、総合型選抜 A、学校推薦型選抜 B の水産教員養成課程の募集人員を含みます。
(注8) 海洋生命科学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 B、総合型選抜 CⅠ、総合型選抜 CⅡ、総合型選抜 E、学校推薦型選抜 B (海洋生物資源学科) の募集人員を含みます。
(注9) 海洋生命科学部の総合型選抜 A、学校推薦型選抜 A、学校推薦型選抜 B (食品生産科学科) の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜前期日程の募集人員に加えて募集します。
(注10) 海洋工学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 CⅠ、総合型選抜 E の募集人員を含みます。
(注11) 海洋工学部の総合型選抜 A、総合型選抜 B、総合型選抜 D の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜の募集人員に加えて募集します。
(注12) 海洋資源環境学部の前期日程の募集人員には、総合型選抜 CⅠ、総合型選抜 CⅡ、総合型選抜 E、学校推薦型選抜 B の募集人員を含みます。
(注13) 海洋資源環境学部の学校推薦型選抜 A の合格者が募集人員に満たない場合は、その数を一般選抜前期日程の募集人員に加えて募集します。

令和6年度 入学者選抜データ

海洋生命科学部

令和6年4月1日現在

学科名	入学定員	区 分			募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備 考
海洋生物資源学科	71名	総合型	A	一般	8	76 (17)	9.5	22 (3)	8 (2)	8 (2)	
			C I	帰国	若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
			C II	留学	若干名	—	—	—	—	—	
			E	社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	B	専門	若干名	—	—	—	—	—	
		一般選抜		前期	45	200 (59)	4.4	193 (57)	48 (8)	47 (7)	
				後期	18	143 (41)	7.9	85 (27)	20 (6)	19 (6)	
		小 計			71	420 (117)	5.9	301 (87)	76 (16)	74 (15)	
食品生産科学科	58名	総合型	C I	帰国	若干名	—	—	—	—	—	
			C II	留学	若干名	1 (1)	—	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			E	社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A	一般	10	44 (35)	4.4	44 (35)	10 (7)	10 (7)	
			B	専門	2	—	—	—	—	—	
		一般選抜		前期	32	97 (57)	3.0	96 (56)	33 (20)	33 (20)	
				後期	14	81 (55)	5.8	34 (22)	14 (11)	14 (11)	
		小 計			58	223 (148)	3.8	175 (114)	57 (38)	57 (38)	
		私費外国人留学生			若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
海洋政策文化学科	41名	総合型	A	一般	5	15 (7)	3.0	9 (5)	5 (3)	5 (3)	
			B	専門	若干名	—	—	—	—	—	
			C I	帰国	若干名	1 (1)	—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
			C II	留学	若干名	—	—	—	—	—	
			E	社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A	一般	2	4 (3)	2.0	4 (3)	2 (2)	2 (2)	
		一般選抜		前期	22	136 (66)	6.2	132 (62)	26 (19)	25 (18)	
				後期	12	112 (58)	9.3	61 (32)	13 (7)	11 (5)	
合 計	170名	小 計			41	268 (135)	6.5	207 (103)	47 (32)	44 (29)	
		私費外国人留学生			若干名	—	—	—	—	—	
		合 計			41	268 (135)	6.5	207 (103)	47 (32)	44 (29)	
		総合型	A	一般	13	91 (24)	7.0	31 (8)	13 (5)	13 (5)	
			B	専門	若干名	—	—	—	—	—	
			C I	帰国	若干名	2 (1)	—	2 (1)	1 (1)	1 (1)	
			C II	留学	若干名	1 (1)	—	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			E	社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A	一般	12	48 (38)	4.0	48 (38)	12 (9)	12 (9)	
			B	専門	2	—	—	—	—	—	
		一般選抜		前期	99	433 (182)	4.4	421 (175)	107 (47)	105 (45)	
				後期	44	336 (154)	7.6	180 (81)	47 (24)	44 (22)	
		小 計			170	911 (400)	5.4	683 (304)	180 (86)	175 (82)	
		私費外国人留学生			若干名	4 (1)	—	4 (1)	0 (0)	0 (0)	
		合 計			170	915 (401)	5.4	687 (305)	180 (86)	175 (82)	

- 区分欄のうち、専門は専門学科・総合学科卒業生、帰国は帰国生徒、留学は留学経験者の略である。
 - 海洋生物資源学科の総合型選抜A（一般）、学校推薦型選抜B（専門）、海洋政策文化学科の総合型選抜A（一般）、C I（帰国）、C II（留学）、E（社会人）の受験者数は、第2次選抜の受験者数である。
 - （ ）内は女子学生を内数で示す。
 - 水産教員養成課程の募集人員は、一般選抜前期日程の海洋生物資源学科に3名、食品生産科学科に2名、及び海洋政策文化学科に1名、学校推薦型選抜B（専門）の食品生産科学科に1名ずつ含まれている。なお、海洋生物資源学科の水産教員養成課程3名には、総合型選抜A（一般）の若干名、学校推薦型選抜B（専門）の若干名が含まれている。
- ※「外国人留学生特別推薦選抜(国費)」で入学する留学生1名(海洋生物資源学科)女子は、この表に含まれていない。

海洋工学部

令和6年4月1日現在

学科名	入学定員	区 分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備 考
海事システム 工学科	59名	総合型	A 一般	7	32 (8)	4.6	20 (6)	10 (2)	10 (2)	
			B 専門	2	2 (0)	1.0	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
			C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	1 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期	36	150 (22)	4.2	147 (20)	39 (5)	37 (5)	
			後期	14	131 (22)	9.4	59 (10)	16 (3)	14 (3)	
		小計		59	316 (52)	5.4	227 (36)	65 (10)	61 (10)	
		私費外国人留学生		若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
		合 計		59	317 (52)	5.4	228 (36)	65 (10)	61 (10)	
海洋電子機械 工学科	59名	総合型	A 一般	6	9 (2)	1.5	8 (2)	5 (2)	5 (2)	
			B 専門	3	2 (1)	0.7	2 (1)	0 (0)	0 (0)	
			C I 帰国	若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
			D 商船	2	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		一般選抜	前期	34	106 (13)	3.1	105 (13)	46 (6)	41 (6)	
			後期	14	110 (14)	7.9	42 (5)	18 (1)	12 (1)	
		小計		59	229 (30)	3.9	159 (21)	69 (9)	58 (9)	
		私費外国人留学生		若干名	4 (1)	—	4 (1)	1 (0)	1 (0)	
		合 計		59	233 (31)	3.9	163 (22)	70 (9)	59 (9)	
流通情報工学科	42名	総合型	A 一般	7	16 (5)	2.3	16 (5)	7 (2)	7 (2)	
			B 専門	1	1 (0)	1.0	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
			C I 帰国	若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	—	—	—	—	—	
		一般選抜	前期	20	51 (14)	2.6	50 (14)	23 (6)	20 (5)	
			後期	14	97 (27)	6.9	51 (12)	26 (4)	14 (3)	
		小計		42	165 (46)	3.9	118 (31)	56 (12)	41 (10)	
		私費外国人留学生		若干名	2 (1)	—	2 (1)	1 (1)	1 (1)	
		合 計		42	167 (47)	4.0	120 (32)	57 (13)	42 (11)	
合 計	160名	総合型	A 一般	20	57 (15)	2.9	44 (13)	22 (6)	22 (6)	
			B 専門	6	5 (1)	0.8	4 (1)	0 (0)	0 (0)	
			C I 帰国	若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
			D 商船	2	—	—	—	—	—	
			E 社会人	若干名	1 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期	90	307 (49)	3.4	302 (47)	108 (17)	98 (16)	
			後期	42	338 (63)	8.0	152 (27)	60 (8)	40 (7)	
		小計		160	710 (128)	4.4	504 (88)	190 (31)	160 (29)	
		私費外国人留学生		若干名	7 (2)	—	7 (2)	2 (1)	2 (1)	
		合 計		160	717 (130)	4.5	511 (90)	192 (32)	162 (30)	

- 区分欄のうち、専門は専門学科・総合学科卒業生、帰国は帰国生徒、商船は商船教員養成コースの略である。
- 総合型選抜の受験者数は、第2次選抜の受験者数である。
- () 内は女子学生を内数で示す。

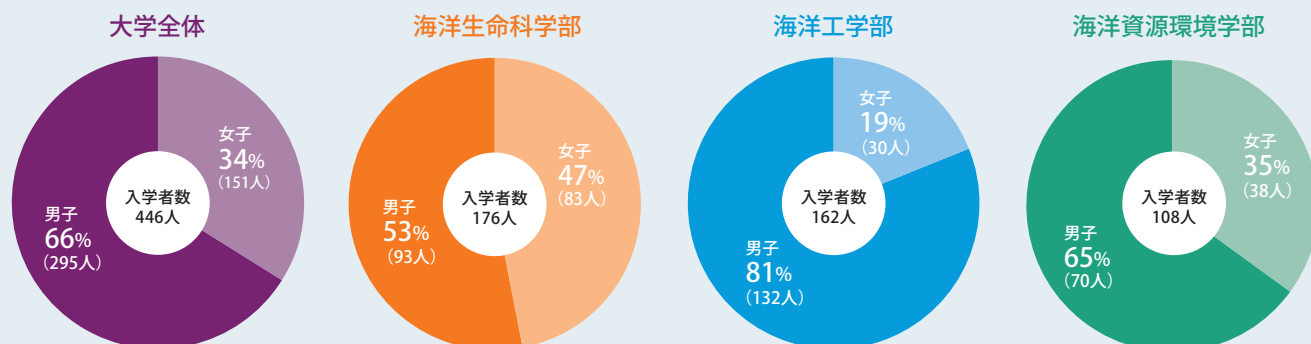
海洋資源環境学部

令和6年4月1日現在

学科名	入学定員	区 分	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	備 考
海洋環境科学科	62 名	総合型	C I 帰国 若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
			C II 留学 若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人 若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A 一般 11	67 (27)	6.1	67 (27)	11 (6)	11 (6)	
			B 専門 若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期 37	161 (55)	4.4	152 (52)	39 (13)	39 (13)	
			後期 14	126 (41)	9.0	72 (22)	15 (8)	14 (8)	
		小 計		62	357 (123)	5.8	294 (101)	65 (27)	
		私費外国人留学生		若干名	2 (0)	—	2 (0)	1 (0)	
		合 計		62	359 (123)	5.8	296 (101)	66 (27)	
海洋資源 エネルギー学科	43 名	総合型	C I 帰国 若干名	1 (0)	—	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学 若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人 若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A 一般 5	12 (8)	2.4	12 (8)	5 (3)	5 (3)	
			B 専門 若干名	1 (0)	—	1 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期 27	64 (13)	2.4	60 (12)	29 (9)	28 (8)	
			後期 11	74 (18)	6.7	46 (9)	12 (0)	9 (0)	
		小 計		43	152 (39)	3.5	120 (29)	47 (12)	
		私費外国人留学生		若干名	—	—	—	—	
		合 計		43	152 (39)	3.5	120 (29)	47 (12)	
合 計	105 名	総合型	C I 帰国 若干名	3 (0)	—	3 (0)	1 (0)	1 (0)	
			C II 留学 若干名	—	—	—	—	—	
			E 社会人 若干名	—	—	—	—	—	
		学校推薦型	A 一般 16	79 (35)	4.9	79 (35)	16 (9)	16 (9)	
			B 専門 若干名	2 (0)	—	2 (0)	0 (0)	0 (0)	
		一般選抜	前期 64	225 (68)	3.5	212 (64)	68 (22)	67 (21)	
			後期 25	200 (59)	8.0	118 (31)	27 (8)	23 (8)	
		小 計		105	509 (162)	4.8	414 (130)	112 (39)	
		私費外国人留学生		若干名	2 (0)	—	2 (0)	1 (0)	
		合 計		105	511 (162)	4.9	416 (130)	113 (39)	

- 区分欄のうち、帰国は帰国生徒、留学は留学経験者、専門は専門学科・総合学科卒業生の略である。
- () 内は女子学生を内数で示す。
- 一般選抜（前期日程・後期日程）の志願者数及び受験者数は、第1志望の志願者数及び受験者数を示す。

令和6年度入試男女別入学状況(%)

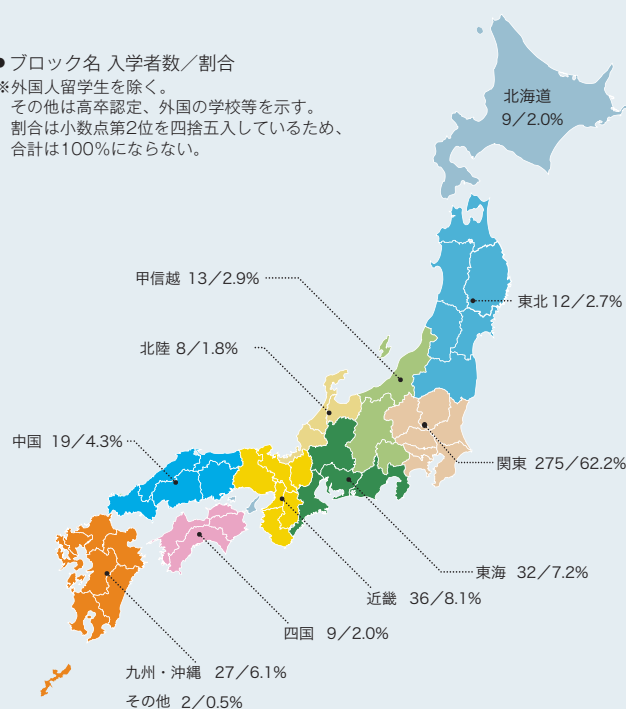


令和6年度 都道府県別志願者・入学者データ

●ブロック名 入学者数／割合

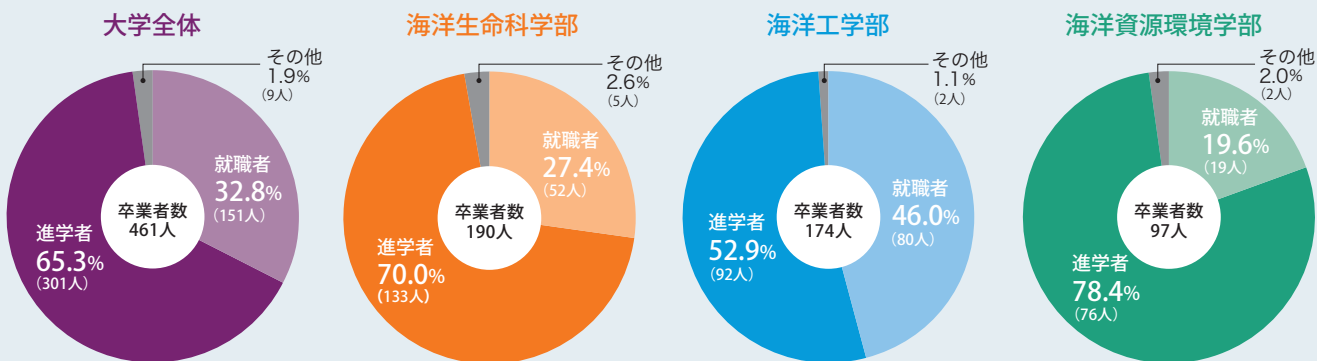
※外国人留学生を除く。

その他は高卒認定、外国の学校等を示す。
割合は小数点第2位を四捨五入しているため、
合計は100%にならない。

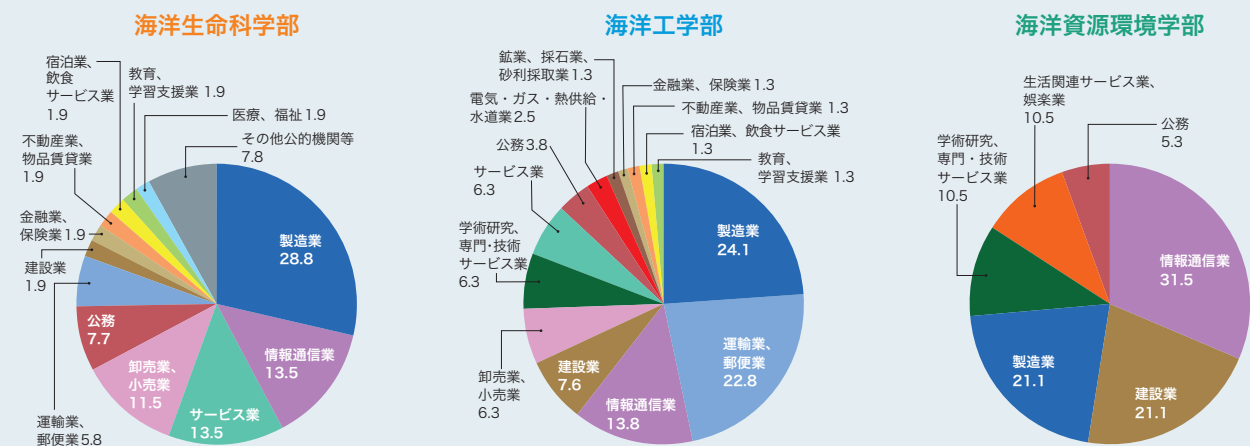


都道府県	海洋生命科学部		海洋工学部		海洋資源環境学部		総計		都道府県	海洋生命科学部		海洋工学部		海洋資源環境学部		総計										
北海道	17	3	15	3	9	3	41	9	京都府	6	3	1	1	7	0	14	4									
青森県	2	0	2	2	1	0	5	2	大阪府	20	3	28	7	9	2	57	12									
岩手県	2	0	0	0	2	0	4	0	兵庫県	15	6	11	2	11	2	37	10									
宮城県	11	3	6	2	9	2	26	7	奈良県	0	0	9	2	0	0	9	2									
秋田県	5	0	2	1	0	0	7	1	和歌山県	6	3	3	0	1	1	10	4									
山形県	5	1	0	0	2	1	7	2	鳥取県	6	1	3	0	4	1	13	2									
福島県	2	0	4	0	2	0	8	0	島根県	2	0	5	2	0	0	7	2									
茨城県	31	6	19	4	17	5	67	15	岡山県	12	1	5	1	2	0	19	2									
栃木県	11	3	3	1	9	3	23	7	広島県	5	2	22	8	9	2	36	12									
群馬県	13	3	8	2	7	5	28	10	山口県	1	0	2	1	1	0	4	1									
埼玉県	80	13	48	10	49	13	177	36	徳島県	0	0	1	0	0	0	1	0									
千葉県	76	20	70	19	35	5	181	44	香川県	11	3	6	1	1	0	18	4									
東京都	250	40	180	31	134	25	564	96	愛媛県	8	2	5	1	7	2	20	5									
神奈川県	171	30	107	23	98	14	376	67	高知県	1	0	2	0	0	0	3	0									
新潟県	8	3	5	1	0	0	13	4	福岡県	15	3	15	6	6	2	36	11									
富山県	2	1	4	3	2	1	8	5	佐賀県	6	0	0	0	1	1	7	1									
石川県	3	1	10	1	4	1	17	3	長崎県	6	2	8	3	0	0	14	5									
福井県	3	0	0	0	1	0	4	0	熊本県	3	1	3	0	1	0	7	1									
山梨県	9	2	7	1	8	2	24	5	大分県	2	0	4	2	2	0	8	2									
長野県	20	2	5	0	5	2	30	4	宮崎県	0	0	5	1	3	2	8	3									
岐阜県	8	0	6	2	6	2	20	4	鹿児島県	1	0	0	0	0	0	1	0									
静岡県	22	5	23	6	11	3	56	14	沖縄県	2	0	7	4	2	0	11	4									
愛知県	20	5	23	5	19	3	62	13	その他 (在外施設、 高卒認定、高専から1年間入学)	4	1	13	0	5	1	22	2									
三重県	1	0	3	0	2	1	6	1	合計	911	175	710	160	509	107	2130	442									
滋賀県	7	3	2	1	5	0	14	4	外国人留学生	5	1	7	2	2	1	14	4									
志願者									入学者									学部計	916	176	717	162	511	108	2144	446

令和5年度 卒業生の進路状況(%)



令和5年度 卒業生の就職状況(%)



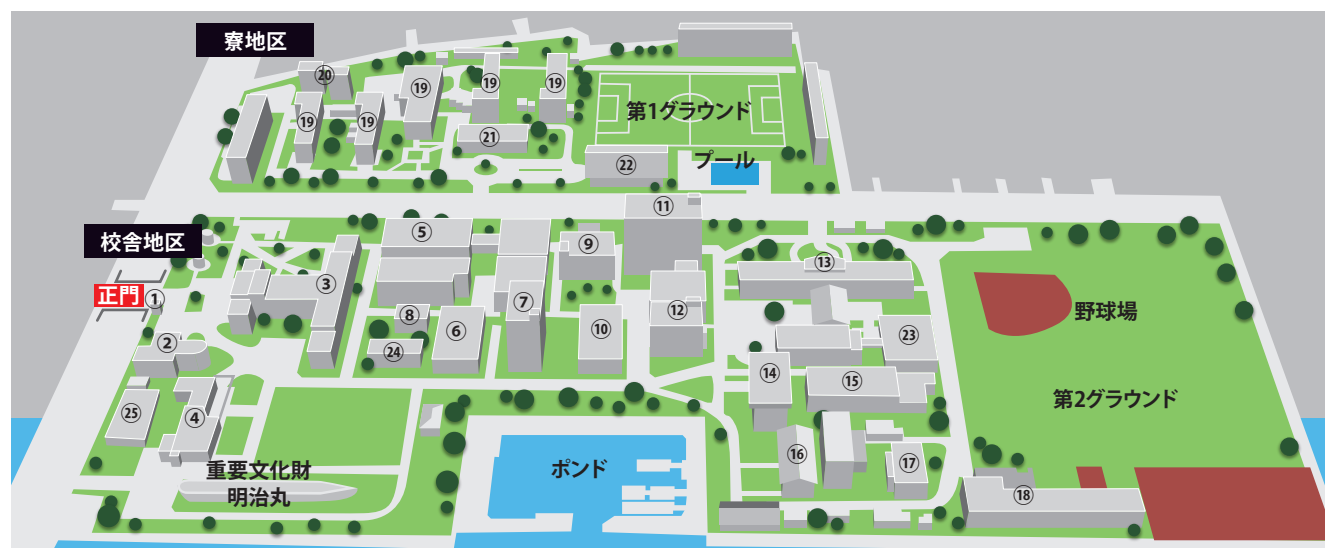
キャンパスガイド

海洋生命科学部・海洋資源環境学部（品川キャンパス）



- | | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------|---------------|
| ① 守衛所 | ⑨ 1号館 | ⑮ 8号館 | ⑳ 武道館 |
| ② 保健管理センター | ⑩ 2号館 | ⑯ 9号館 | ㉑ 弓道場 |
| ③ 本部管理棟 | ⑪ 3号館 | ⑰ 特殊実験棟 (総合情報基盤センター) | ㉒ 課外活動施設 |
| ④ 中部講堂 | ⑫ 4号館 | ⑱ 回流水槽実験棟 | ㉓ 艇庫 |
| ⑤ マリンサイエンスミュージアム | ⑬ 講義棟 (学務部) | ㉒ 放射性同位元素管理センター | ㉔ 国際交流会館 |
| ⑥ 鯨ギャラリー | ⑭ 5号館 | ㉓ 水理模型実験棟 | ㉕ 学生寮 (朋鷹寮) |
| ⑦ 附属図書館 | ⑮ 6号館 | ㉔ 漁業機械学実験実習棟 | ㉖ 桀水会館 |
| ⑧ 大会館 (グローバル教育研究推進機構) | ⑯ 7号館 (海の研究戦略マネジメント機構) | ㉕ 体育館 | ㉗ 白鷹館 (就職支援室) |

海洋工学部（越中島キャンパス）

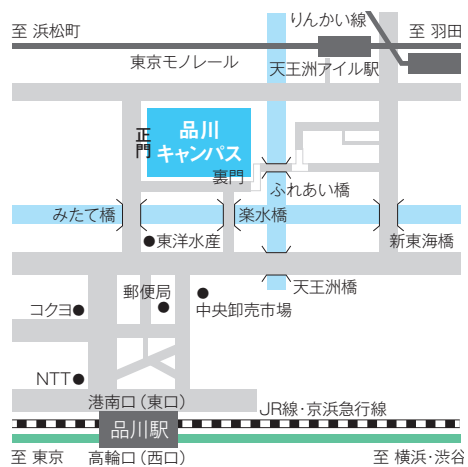


- | | | | |
|--------------------------------|--------------------|---------------|--------------------|
| ① 守衛所 | ⑧ ターボ動力実験棟 | ⑮ 艇庫 | ㉔ 船舶機関室シミュレータセンター棟 |
| ② 海の研究戦略マネジメント機構
越中島オープンラボ棟 | ⑨ 海の研究戦略マネジメント機構 | ⑯ 課外活動棟 | ㉕ 明治丸記念館 |
| ③ 1号館 | ⑩ 附属図書館越中島分館 | ⑰ 船舶運航性能実験水槽棟 | |
| ④ 百周年記念資料館 | ⑪ 2号館 (総合情報基盤センター) | ⑱ 学生寮 (海王寮) | |
| ⑤ 第1実験棟 | ⑫ 3号館 | ㉒ 国際交流会館 | |
| ⑥ 第2実験棟 | ⑬ 越中島会館 (保健管理センター) | ㉓ 八十五周年記念会館 | |
| ⑦ 第3実験棟 | ⑭ 第4実験棟 | ㉔ 体育館 | |
| | ⑮ 第5実験棟 | ㉕ マリン・カフェ | |

交通案内



品川キャンパス

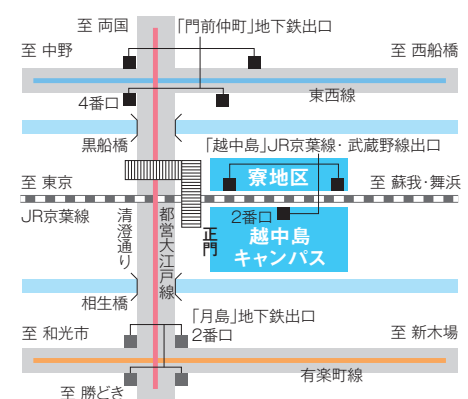


- JR 線、東海道新幹線及び京浜急行線「品川駅」自由通路 港南口（東口）を経て正門まで徒歩 10 分
 - 東京モノレール・りんかい線「天王洲アイル駅」からふれあい橋を渡り正門まで徒歩 20 分
- 〒108-8477
東京都港区港南 4-5-7
TEL.03-5463-0400（代表）



「品川キャンパス」から都心をのぞむ

越中島キャンパス



- JR 京葉線・武蔵野線「越中島駅」(各駅停車のみ) 2 番出口徒歩 2 分
 - 地下鉄東西線、大江戸線「門前仲町駅」4 番出口 徒歩 10 分
 - 地下鉄有楽町線、大江戸線「月島駅」2 番出口徒歩 10 分
- 〒135-8533
東京都江東区越中島 2-1-6
TEL.03-5245-7300（代表）



「越中島キャンパス」から関東平野をのぞむ

2025(令和7)年度 学部入試日程

●学部入試の出願はインターネット出願で行います

www.kaiyodai.ac.jp/ から [入試情報](#) または [大学で学びたい方](#) をクリック！

入試区分			出願期間	入学試験日・面接日		合格発表日	備考	
総合型選抜	海洋生命科学部	海洋生物資源学科 食品生産科学科	2024年 11/1(金)～11/6(水)	第1次選抜	2024年11/21(木)	2024年12/13(金)	総合型選抜(C、E)は、第1次選抜で最終合格となります。	
				第2次選抜	2024年12/20(金)	2025年1/21(火)	海洋生命科学部海洋生物資源学科の総合型選抜(A)のみ第2次選抜を実施します。	
		海洋政策文化学科	2024年 9/2(月)～9/6(金)	第1次選抜	2024年9/27(金)	2024年11/1(金)	総合型選抜(B)は、第1次選抜で最終合格となります。	
				第2次選抜	2024年11/21(木)	2024年12/13(金)	総合型選抜(A)の条件付合格者には、最終結果を2025年2月12日(水)以降に通知します。	
	海洋工学部	2024年 9/2(月)～9/6(金)	第1次選抜	2024年 9/11(水)～9/19(木)	2024年10/11(金)	書類選考		
			第2次選抜	2024年10/18(金)	2024年11/15(金)			
	海洋資源環境学部	2024年 11/1(金)～11/6(水)	2024年11/21(木)		2024年12/13(金)			
学校推薦型選抜	海洋生命科学部	海洋生物資源学科	2024年 11/1(金)～11/6(水)	第1次選抜	2024年11/21(木)	2024年12/13(金)	海洋生命科学部海洋生物資源学科の学校推薦型選抜(B)のみ第2次選抜を実施します。	
				第2次選抜	2024年12/20(金)	2025年1/21(火)		
		食品生産科学科		2024年11/21(木)		2024年12/13(金)		
	海洋資源環境学部				2024年11/21(木)		2024年12/13(金)	
	海洋生命科学部 海洋政策文化学科			2025年 1/27(月)～2/5(水)	書類選考		2025年2/12(水)	
一般選抜・私費外国人留学生特別入試	海洋生命科学部 海洋工学部 海洋資源環境学部	前期日程	2025年 1/27(月)～2/5(水)	2025年2/25(火)		2025年3/7(金)	※私費外国人留学生特別入試は前期日程の出願期間、試験日、合格発表日と同じ。	
		後期日程		2025年3/12(水)		2025年3/21(金)		

出願にあたっては、必ず本学ホームページにて最新の情報を確認してください。

OPEN CAMPUS

東京海洋大学で「1日大学生」してみよう。

オープンキャンパスを夏と秋の2回、開催します！
大学・学部紹介、模擬講義、研究室紹介、入試相談など盛りだくさんのメニューでみなさまの参加をお待ちしています。

	学 部	第1回(夏季)	第2回(秋季)
オンデマンド	全学部	2024年7月12日(金) ～8月26日(月)	2024年10月中旬～
対面	海洋生命科学部	2024年8月4日(日)	2024年 10月14日(月・祝)
	海洋工学部	2024年7月28日(日)	(未定)
	海洋資源環境学部	2024年8月3日(土)	2024年 10月14日(月・祝)

大学案内等の資料請求方法



「テレメール」から請求

■ パソコン・スマートフォン・携帯電話

<https://telemail.jp/shingaku>



■ カスタマーセンター

TEL 050-8601-0102 (9:30～18:00)



「モバっちょ」から請求

■ パソコン・スマートフォン・携帯電話

<https://djcm-b.jp/kaiyodai/>



■ カスタマーセンター

TEL 050-3540-5005 (平日 10:00～18:00)

東京海洋大学の動画やコンテンツを
ホームページで見よう

「東京海洋大学 大学で学びたい方」
で検索！

- Scientist Profile (研究者紹介動画)
- 高校生向けミニ講義 Video (夢ナビ)
- 受験生サイト もっと知りたい！海洋大学
- 海洋工学部紹介ムービー
- バーチャルキャンパスツアー (品川キャンパス)
- バーチャルキャンパスツアー (越中島キャンパス) 等



東京海洋大学ホームページ



東京海洋大学 公式 X

